

(様式4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

( 調 書 )

## 基礎資料（薬学教育評価用）

(2022年5月1日現在)

摂南大学 薬学部

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	項目	ページ
基礎資料 1	カリキュラム・ツリー	3	1
基礎資料 2	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSB0sを実施する科目	3	2
基礎資料 3	学生の修学状況 3-1 評価実施年度における学年別在籍状況 3-2 評価実施年度の直近5年間における6年制学科の学年別進級状況 3-3 評価実施年度の直近5年間における学士課程修了(卒業)状況の実態 3-4 直近6年間の定員充足状況と編入学生の動向	3	4 5
基礎資料 4	学生受入れ状況 (入学試験種類別)	4	4 9
基礎資料 5	教員・職員の数	5	5 0
基礎資料 6	専任教員の年齢構成・男女構成	5	5 1
基礎資料 7	教員の教育担当状況 (担当する授業科目と担当時間)	5	5 2
基礎資料 8	卒業研究の学生配属状況と研究室の広さ	7	7 8
基礎資料 9	専任教員の教育および研究活動の業績	5	7 9
基礎資料 10	学生の健康管理	6	1 7 6
基礎資料 11	薬学科の教育に使用する施設の状況 11-1 薬学科の教育に使用する施設の状況 11-2 卒業研究などに使用する施設	7	1 7 7
基礎資料 12	学生閲覧室等の規模	7	1 8 0
基礎資料 13	図書、資料の所蔵数および受け入れ状況	7	1 8 1

[注] ページ番号は、資料の枚数に応じて変更してください。

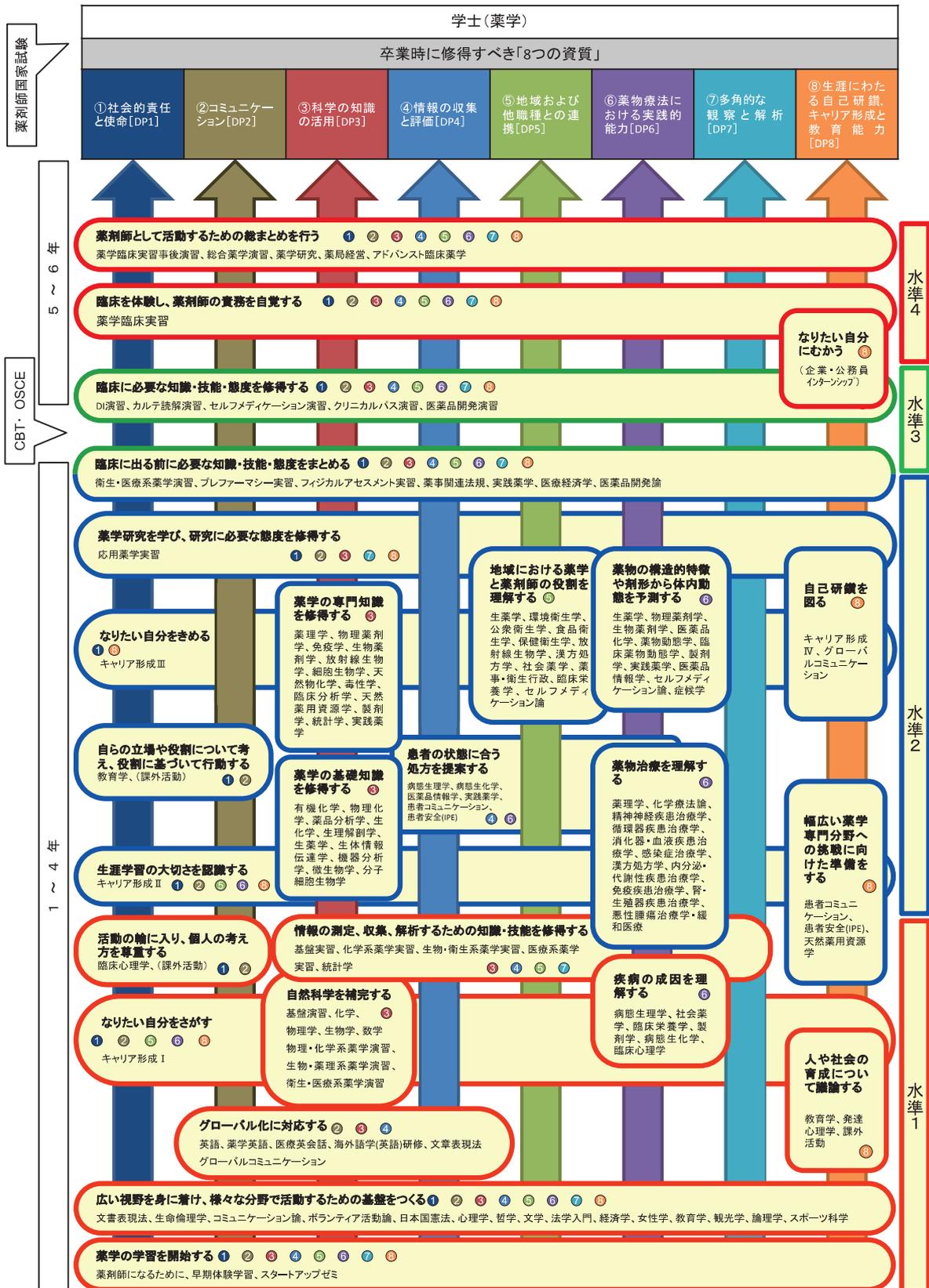


図3 カリキュラムツリー(「水準」は47ページの「科目ナンバリング」に対応)

(基礎資料2) 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsを実施する科目

[注] 1 平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する内容の必修科目名を(シラバスの名称、選択科目の場合(選)をつける)実施学年の欄に記入してください。  
 2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することができます。

A 基本事項	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(1) 薬剤師の使命 ① 医療人として	平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)					
1) 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)	基礎実習、早期体験学習、薬剤師になるために			カルテ読解演習、クリニカルバス演習、セルフメディケーション演習、実践薬学		
2) 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)	基礎実習、早期体験学習、薬剤師になるために			カルテ読解演習、クリニカルバス演習、セルフメディケーション演習、実践薬学		
3) チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)	早期体験学習、薬剤師になるために			カルテ読解演習、クリニカルバス演習、セルフメディケーション演習、実践薬学		
4) 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	基礎実習、早期体験学習、薬剤師になるために			カルテ読解演習、クリニカルバス演習、セルフメディケーション演習、実践薬学		
5) 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	早期体験学習、薬剤師になるために			実践薬学		
6) 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	基礎実習、早期体験学習、薬剤師になるために			実践薬学		
7) 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)	早期体験学習、薬剤師になるために			カルテ読解演習、セルフメディケーション演習、実践薬学		
② 薬剤師が果たすべき役割						
1) 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	基礎実習、早期体験学習、薬剤師になるために			カルテ読解演習、セルフメディケーション演習、DI演習、クリニカルバス演習、実践薬学		
2) 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。	早期体験学習、薬剤師になるために					
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。	早期体験学習、薬剤師になるために			カルテ読解演習、セルフメディケーション演習、DI演習、クリニカルバス演習		
4) 医薬品の効果を確認論的であることを説明できる。	早期体験学習、薬剤師になるために	薬理学I		DI演習		
5) 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。	早期体験学習、薬剤師になるために	早期体験学習、薬剤師になるために		医薬品開発論		
6) 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。	早期体験学習、薬剤師になるために			セルフメディケーション演習		
7) 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。	薬剤師になるために					
8) 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)	早期体験学習、薬剤師になるために			セルフメディケーション演習		
③ 患者安全と薬害の防止						
1) 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)	早期体験学習、薬剤師になるために		患者安全	カルテ読解演習、セルフメディケーション演習、DI演習、クリニカルバス演習		
2) WHOによる患者安全の考え方について概説できる。			患者安全			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。		早期体験学習、薬剤師になるために	患者安全				実践薬学
4) 医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。		早期体験学習、薬剤師になるために	患者安全				実践薬学
5) 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）		薬剤師になるために					カルテ読解演習、実践薬学
6) 代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等）について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。		早期体験学習、薬剤師になるために					
7) 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）		早期体験学習、薬剤師になるために					
<b>【④薬学の歴史と未来】</b>							
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。		早期体験学習、薬剤師になるために					
2) 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。		早期体験学習、薬剤師になるために					
3) 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史（医薬分業を含む）について説明できる。		早期体験学習、薬剤師になるために					
4) 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。（知識・態度）		早期体験学習、薬剤師になるために					実践薬学
<b>【①生命倫理】</b>							
1) 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。（知識・態度）		生命倫理学、早期体験学習、薬剤師になるために					実践薬学
2) 生命倫理の諸原則（自律尊重、無危害、善行、正義等）について説明できる。		生命倫理学、早期体験学習					実践薬学
3) 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。（知識・態度）		生命倫理学、早期体験学習					カルテ読解演習、セルフメディケーション演習、実践薬学
4) 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。		生命倫理学					
<b>【②医療倫理】</b>							
1) 医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について概説できる。			患者安全				DI演習
2) 薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。							薬事関連法規
3) 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。							DI演習
<b>【③患者の権利】</b>							
1) 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。（態度）			患者安全				カルテ読解演習、セルフメディケーション演習
2) 患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。			患者安全				DI演習
3) 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。			患者安全				DI演習
4) 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。（知識・技能・態度）			患者安全				カルテ読解演習、クリニカルパス演習、セルフメディケーション演習
<b>【④研究倫理】</b>							
1) 臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。							DI演習、医薬品開発論
2) 「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。							DI演習、医薬品開発論
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度）		スタートアップゼミ					医薬品開発論
<b>【③信頼関係の構築】</b>							
<b>【①コミュニケーション】</b>							
1) 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。		コミュニケーション論					実践薬学
2) 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。		コミュニケーション論					
3) 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。		コミュニケーション論					
4) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。		コミュニケーション論、心理学	臨床心理学				
5) 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。（態度）		基礎実習、教育学	臨床心理学				DI演習、カルテ読解演習、クリニカルパス演習、セルフメディケーション演習

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目			
1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)	臨床心理学		D1.演習、カルテ読解演習、クリニカルバス演習、セルフメディケーション演習		
7) 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)			D1.演習、カルテ読解演習、クリニカルバス演習、セルフメディケーション演習		
8) 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)			D1.演習、カルテ読解演習、クリニカルバス演習、セルフメディケーション演習		
9) 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)			D1.演習、カルテ読解演習、クリニカルバス演習、セルフメディケーション演習		
<b>【②患者・生活者と薬剤師】</b>					
1) 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。	臨床心理学	患者コミュニケーション	セルフメディケーション演習、実践薬学		
2) 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)	臨床心理学	患者コミュニケーション	D1.演習、カルテ読解演習、クリニカルバス演習、セルフメディケーション演習、実践薬学		
<b>【④多職種連携協働とチーム医療】</b>					
1) 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。		社会薬学	実践薬学		
2) 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。		社会薬学	実践薬学		
3) チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。		社会薬学	実践薬学		
4) 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)	患者安全		D1.演習、カルテ読解演習、クリニカルバス演習、セルフメディケーション演習、実践薬学		
5) チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)	患者安全		D1.演習、カルテ読解演習、クリニカルバス演習、セルフメディケーション演習、実践薬学	薬学臨床実習	
<b>【⑤自己研鑽と次世代を担う人材の育成】</b>					
<b>【①学習の在り方】</b>					
1) 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)	教育学		D1.演習、カルテ読解演習、セルフメディケーション演習	薬学研究 I	薬学研究 II
2) 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)	教育学		D1.演習、カルテ読解演習、セルフメディケーション演習	薬学研究 I	薬学研究 II
3) 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)	教育学		D1.演習、カルテ読解演習、セルフメディケーション演習	薬学研究 I	薬学研究 II
4) 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。(技能)	教育学		D1.演習、カルテ読解演習、セルフメディケーション演習	薬学研究 I	薬学研究 II
5) インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。(知識・態度)	スタートアップゼミ、教育学		D1.演習、カルテ読解演習、セルフメディケーション演習	薬学研究 I	薬学研究 II
<b>【②薬学教育の概要】</b>					
1) 「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	教育学				
2) 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。(知識・態度)	教育学				
<b>【③生涯学習】</b>					
1) 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	キャリア形成 I	キャリア形成 II			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
		キャリア形成 I	キャリア形成 I	キャリア形成 II			
2) 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。(技能)							
<b>【④次世代を担う人材の育成】</b>							
1) 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。(態度)		教育学	キャリア形成 I	キャリア形成 II			
2) 後輩等への適切な指導を実践する。(技能・態度)		教育学				薬学研究 I	薬学研究 II
<b>B 薬学と社会</b>							
<b>(1) 人と社会に関わる薬剤師</b>							
1) 人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。		心理学		患者コミュニケーション			医薬品開発演習
2) 人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)		早期体験学習, 薬剤師になるために		患者コミュニケーション	医療経済学		医薬品開発演習
3) 人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)		早期体験学習, 薬剤師になるために		患者コミュニケーション	医療経済学, 実践薬学		医薬品開発演習
4) 薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)		早期体験学習, 薬剤師になるために	患者安全		医療経済学		医薬品開発演習
5) 倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)		薬剤師になるために	患者安全				医薬品開発演習
<b>(2) 薬剤師と医薬品等に関する法規制</b>							
<b>【①薬剤師の社会的役割と責任に関する法規制】</b>							
1) 薬剤師に関する法令とその構成について説明できる。				薬事関連法規	医療経済学		
2) 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。				薬事関連法規			
3) 薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。				薬事関連法規			医薬品開発演習
4) 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる。				薬事関連法規	医療経済学		
5) 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。				薬事関連法規	医療経済学		
6) 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる。				薬事関連法規	DI演習, カルテ読解演習, クリニカルパフ演習, セルフメディケーション演習		医薬品開発演習
7) 個人情報情報の取扱いについて概説できる。				薬事関連法規			
8) 薬剤師の刑事責任、民事責任(製造物責任を含む)について概説できる。				薬事関連法規			
<b>【②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規制】</b>							
1) 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律「の目的及び医薬品等(医薬品(薬局医薬品、要指図書医薬品、一般用医薬品)、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品)の定義について説明できる。				薬事関連法規	DI演習		医薬品開発演習
2) 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規制について概説できる。					DI演習, 医薬品開発論		医薬品開発演習
3) 治験の意義と仕組みについて概説できる。					DI演習, 医薬品開発論		医薬品開発演習
4) 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規制について説明できる。					DI演習, 医薬品開発論		医薬品開発演習
5) 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。					DI演習, 医薬品開発論		医薬品開発演習
6) 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規制について説明できる。				薬事関連法規	DI演習, セルフメディケーション演習		医薬品開発演習
7) 医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。				薬事関連法規	DI演習		医薬品開発演習
8) 日本薬局方の意義と構成について説明できる。					DI演習, 実践薬学		
9) 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規制について説明できる。				薬事関連法規			
10) 健康被害救済制度について説明できる。				社会薬学	DI演習		医薬品開発演習
11) レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。					DI演習, 医薬品開発論		
<b>【③特別な管理を要する薬物等に係る法規制】</b>							
1) 麻薬、向精神薬、覚醒剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。				薬事関連法規			
2) 覚醒剤、大麻、あへん、指定薬物の乱用防止規制について概説できる。				薬事関連法規			
3) 薬物乱物の取扱いに係る規定について概説できる。				薬事関連法規			
<b>(3) 社会保険制度と医療経済</b>							
<b>【①医療、福祉、介護の制度】</b>							
1) 日本の社会保険制度の仕組みと特徴について説明できる。				社会薬学	セルフメディケーション演習, 医療経済学, 実践薬学		
2) 医療保険制度について説明できる。				社会薬学	セルフメディケーション演習, 医療経済学, 実践薬学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
3)	療養担当規則について説明できる。			社会学	セルフメデイケー ション演習, 医療経 済学, 実践薬学		
4)	公費負担医療制度について概説できる。			社会学	セルフメデイケー ション演習, 医療経 済学, 実践薬学		
5)	介護保険制度について概説できる。			社会学	セルフメデイケー ション演習, 医療経 済学, 実践薬学		
6)	薬価基準制度について概説できる。			社会学	セルフメデイケー ション演習, 実践薬 学		
7)	調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。			社会学	セルフメデイケー ション演習, 実践薬 学		
<b>【②医薬品と医療の経済性】</b>							
1)	医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。			社会学	セルフメデイケー ション演習, 実践薬 学		
2)	国民医療費の動向について概説できる。			社会学	セルフメデイケー ション演習, 実践薬 学		
3)	後発医薬品とその役割について説明できる。			社会学	セルフメデイケー ション演習, 実践薬 学		
4)	薬物療法の経済評価手法について概説できる。			社会学	セルフメデイケー ション演習, 実践薬 学		
<b>【④地域における薬局と薬剤師】</b>							
<b>【①地域における薬局の役割】</b>							
1)	地域における薬局の機能と業務について説明できる。	キャリア形成 I			医療経済学, セルフ メデイケーション演 習, 実践薬学		
2)	医薬分業の意義と動向を説明できる。	キャリア形成 I			医療経済学, セルフ メデイケーション演 習, 実践薬学		
3)	かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。	キャリア形成 I			セルフメデイケー ション演習, 実践薬 学		
4)	セルフメデイケーションにおける薬局の役割について説明できる。	キャリア形成 I			セルフメデイケー ション演習		
5)	災害時の薬局の役割について説明できる。	キャリア形成 I			セルフメデイケー ション演習, 実践薬 学		
6)	医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。	キャリア形成 I			セルフメデイケー ション演習, 実践薬 学		
<b>【②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師】</b>							
1)	地域包括ケアの理念について説明できる。		キャリア形成 II		セルフメデイケー ション演習, 実践薬 学, 医療経済学		
2)	在宅医療及び在宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。		キャリア形成 II		セルフメデイケー ション演習, 実践薬 学, 医療経済学		
3)	学校薬剤師の役割について説明できる。		キャリア形成 II		セルフメデイケー ション演習, 実践薬 学		
4)	地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。		キャリア形成 II		セルフメデイケー ション演習, 実践薬 学		
5)	地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度)		キャリア形成 II		セルフメデイケー ション演習, 実践薬 学		
<b>C 薬学基礎</b>							
<b>CI 物質の物理的性質</b>							
<b>(1) 物質の構造</b>							
<b>【①化学結合】</b>							
1)	化学結合の様式について説明できる。	化学	物理・化学系薬学演 習		実践薬学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる。	化学	物理・化学系薬学演習			実践薬学		
3) 共役や共鳴の概念を説明できる。	化学	物理・化学系薬学演習			実践薬学		
<b>【②分子間相互作用】</b>							
1) ファンデルワールス力について説明できる。	物理学	物理・化学系薬学演習			実践薬学		
2) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。	物理学	物理・化学系薬学演習			実践薬学		
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。	物理学	物理・化学系薬学演習			実践薬学		
4) 分散力について例を挙げて説明できる。	物理学	物理・化学系薬学演習			実践薬学		
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。	物理学	物理・化学系薬学演習			実践薬学		
6) 電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。	物理学	物理・化学系薬学演習			実践薬学		
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。	物理学	物理・化学系薬学演習			実践薬学		
<b>【③原子・分子の運動】</b>							
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。		機器分析学 I, 物理・化学系薬学演習					
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。		機器分析学 I, 物理・化学系薬学演習					
3) 電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。		機器分析学 I, 物理・化学系薬学演習					
4) 光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる。		機器分析学 I, 物理・化学系薬学演習					
5) 光の散乱および干渉について説明できる。		機器分析学 I, 物理・化学系薬学演習					
6) 結晶構造と回折現象について概説できる。		機器分析学 I, 物理・化学系薬学演習					
<b>【④放射線と放射能】</b>							
1) 原子の構造と放射線変について説明できる。	化学	物理・化学系薬学演習			放射線生物学		
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる。		物理・化学系薬学演習			放射線生物学		
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。		物理・化学系薬学演習			放射線生物学		
4) 核反応および放射平衡について説明できる。		物理・化学系薬学演習			放射線生物学		
5) 放射線測定 の原理と利用について概説できる。		物理・化学系薬学演習			放射線生物学		
<b>【⑤物質のエネルギーと平衡】</b>							
<b>【①気体の微視的状態と巨視的状态】</b>							
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	物理学	物理・化学系薬学演習					
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。	物理学	物理・化学系薬学演習					
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。	物理学	物理・化学系薬学演習					
<b>【②エネルギー】</b>							
1) 熱力学における系、外界、境界について説明できる。	物理化学 I	物理・化学系薬学演習					
2) 熱力学第一法則を説明できる。	物理化学 I	物理・化学系薬学演習					
3) 状態関数と経路関数の違いを説明できる。	物理化学 I	物理・化学系薬学演習					
4) 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。	物理化学 I	物理・化学系薬学演習					
5) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。	物理化学 I	物理・化学系薬学演習					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
6)	エンタルピーについて説明できる。	物理化学 I	物理・化学系薬学演習			
7)	化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。	物理化学 I	物理・化学系薬学演習			
<b>【③自発的な変化】</b>						
1)	エントロピーについて説明できる。	物理化学 I	物理・化学系薬学演習			
2)	熱力学第二法則について説明できる。	物理化学 I	物理・化学系薬学演習			
3)	熱力学第三法則について説明できる。	物理化学 I	物理・化学系薬学演習			
4)	ギブズエネルギーについて説明できる。	物理化学 I	物理・化学系薬学演習			
5)	熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。	物理化学 I	物理・化学系薬学演習			
<b>【④化学平衡の原理】</b>						
1)	ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。		物理・化学系薬学演習			
2)	ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。		物理・化学系薬学演習			
3)	平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる。		物理・化学系薬学演習			
4)	共役反応の原理について説明できる。		物理・化学系薬学演習			
<b>【⑤相平衡】</b>						
1)	相変化に伴う熱の移動について説明できる。		物理・化学系薬学演習			
2)	相平衡と相律について説明できる。		物理・化学系薬学演習			
3)	状態図について説明できる。		物理・化学系薬学演習			
<b>【⑥溶液の性質】</b>						
1)	希薄溶液の束一的性質について説明できる。		物理・化学系薬学演習			
2)	活量と活量係数について説明できる。		物理・化学系薬学演習			
3)	電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる。		物理・化学系薬学演習			
4)	イオン強度について説明できる。		物理・化学系薬学演習			
<b>【⑦電気化学】</b>						
1)	起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。		物理・化学系薬学演習			
2)	電極電位 (酸化還元電位) について説明できる。	物理学	物理・化学系薬学演習			
<b>【⑧物質の変化】</b>						
<b>【⑩反応速度】</b>						
1)	反応次数と速度定数について説明できる。	物理化学 I	物理・化学系薬学演習		実践薬学	
2)	微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)	物理化学 I	物理・化学系薬学演習			
3)	代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。	物理化学 I	物理・化学系薬学演習		実践薬学	
4)	代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)	基礎実習	物理・化学系薬学演習			
5)	代表的な複合反応 (可逆反応、平行反応、連続反応など) の特徴について説明できる。	物理化学 I	物理・化学系薬学演習		実践薬学	
6)	反応速度と温度との関係を説明できる。	基礎実習 I	物理・化学系薬学演習		実践薬学	
7)	代表的な触媒反応 (酸・塩基触媒反応、酵素反応など) について説明できる。	基礎実習 I	物理・化学系薬学演習		実践薬学	
<b>⑫ 化学物質の分析</b>						
<b>(1) 分析の基礎</b>						
<b>【⑬分析の基本】</b>						
1)	分析に用いる器具を正しく使用できる。(知識・技能)	基礎実習 薬品分析				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 測定値を適切に取り扱うことができる。(知識・技能)	基礎実習, 薬品分析学						
2) 分析法のバリテーションについて説明できる。	薬品分析学	物理・化学系薬学演習					
<b>(2) 溶液中の化学平衡</b>							
<b>【①酸・塩基平衡】</b>							
1) 酸・塩基平衡の概念について説明できる。	薬品分析学	物理・化学系薬学演習			実践薬学		
2) pH および解離定数について説明できる。(知識・技能)	基礎実習, 薬品分析学	化学系薬学実習, 物理・化学系薬学演習			実践薬学		
3) 溶液の pH を測定できる。(技能)	基礎実習						
4) 緩衝作用や緩衝液について説明できる。	薬品分析学	物理・化学系薬学演習			実践薬学		
<b>【②各種の化学平衡】</b>							
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。	薬品分析学	物理・化学系薬学演習					
2) 沈殿平衡について説明できる。	薬品分析学	物理・化学系薬学演習					
3) 酸化還元平衡について説明できる。	薬品分析学	物理・化学系薬学演習					
4) 分配平衡について説明できる。	薬品分析学	物理・化学系薬学演習			実践薬学		
<b>(3) 化学物質の定性分析・定量分析</b>							
<b>【①定性分析】</b>							
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。	薬品分析学	物理・化学系薬学演習					
2) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。	薬品分析学	物理・化学系薬学演習					
<b>【②定量分析 (容量分析・重量分析)】</b>							
1) 中和滴定 (非水滴定を含む) の原理、操作法および応用例を説明できる。	薬品分析学	物理・化学系薬学演習					
2) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	薬品分析学	物理・化学系薬学演習					
3) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	薬品分析学	物理・化学系薬学演習					
4) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	薬品分析学	物理・化学系薬学演習					
5) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(知識・技能)	基礎実習, 薬品分析学						
6) 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。	薬品分析学	物理・化学系薬学演習					
7) 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。	薬品分析学	物理・化学系薬学演習					
<b>(4) 機器を用いる分析法</b>							
<b>【①分光分析法】</b>							
1) 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。		機器分析学 I, 物理・化学系薬学演習					
2) 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。		機器分析学 I, 物理・化学系薬学演習					
3) 赤外線吸収 (IR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		機器分析学 I, 物理・化学系薬学演習					
4) 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ (ICP) 発光分光分析法および ICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		機器分析学 I, 物理・化学系薬学演習					
5) 旋光度測定法 (旋光分散) の原理および応用例を説明できる。		機器分析学 I, 物理・化学系薬学演習					
6) 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。(技能)		機器分析学 I, 物理・化学系薬学演習					
<b>【②核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法】</b>							
1) 核磁気共鳴 (NMR) スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。		機器分析学 II, 化学系薬学実習, 物理・化学系薬学演習					
<b>【③質量分析法】</b>							

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目				
		1年	2年	3年	4年	5年
1) 質量分析法の原理および応用例を説明できる。		機器分析学Ⅱ, 物理・化学系薬学演習				
<b>【④×線分析法】</b>						
1) X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。		機器分析学Ⅰ, 物理・化学系薬学演習				
2) 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。		機器分析学Ⅰ, 物理・化学系薬学演習				
<b>【⑤熱分析】</b>						
1) 熱重量測定法の原理を説明できる。		機器分析学Ⅱ, 物理・化学系薬学演習				
2) 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。		機器分析学Ⅱ, 物理・化学系薬学演習				
<b>【⑤分離分析法】</b>						
<b>【①クロマトグラフィー】</b>						
1) クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。		機器分析学Ⅱ, 化学系薬学演習, 物理・化学系薬学演習				
2) 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		機器分析学Ⅱ, 化学系薬学演習, 物理・化学系薬学演習				
3) 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		機器分析学Ⅱ, 物理・化学系薬学演習				
4) ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。		機器分析学Ⅱ, 物理・化学系薬学演習				
5) クロマトグラフィーを用いて、試料を定性・定量できる。(知識・技能)		化学系薬学演習				
<b>【②電気泳動法】</b>						
1) 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。		物理・化学系薬学演習				臨床分析学
<b>【⑥臨床薬理で用いる分析技術】</b>						
<b>【①分析の準備】</b>						
1) 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。		物理・化学系薬学演習				臨床分析学
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。		物理・化学系薬学演習				臨床分析学
<b>【②分析技術】</b>						
1) 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。		物理・化学系薬学演習				臨床分析学
2) 免疫化学的測定法の原理を説明できる。		物理・化学系薬学演習				臨床分析学
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。		物理・化学系薬学演習				臨床分析学
4) 代表的なドライケミストリーについて概説できる。		物理・化学系薬学演習				臨床分析学
5) 代表的な画像診断技術 (X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など) について概説できる。		物理・化学系薬学演習				臨床分析学
<b>③ 化学物質の性質と反応</b>						
<b>【①化学物質の基本的性質】</b>						
<b>【①基本事項】</b>						
1) 代表的な化合物を IUPAC 規則に基づいて命名することができる。	化学	物理・化学系薬学演習				実践薬学
2) 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	化学	物理・化学系薬学演習				実践薬学
3) 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	化学	物理・化学系薬学演習				実践薬学
4) 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。	化学	物理・化学系薬学演習				実践薬学
5) ルイス酸・塩基、フレンステッド酸・塩基を定義することができる。	化学	物理・化学系薬学演習				実践薬学
6) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離) の特徴を理解し、分類できる。	有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ, 物理・化学系薬学演習				実践薬学

		該 当 科 目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)							
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル) の構造と性質を説明できる。		化学	物理・化学系薬学演習				
8) 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。		有機化学 I	有機化学 II、物理・化学系薬学演習				
9) 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。(技能)		有機化学 I	有機化学 II、化学系薬学実習、物理・化学系薬学演習				
<b>【②有機化合物の立体構造】</b>							
1) 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。		有機化学 I	物理・化学系薬学演習		実践薬学		
2) キラリティーと光学活性の関係を確認できる。		有機化学 I	物理・化学系薬学演習		実践薬学		
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。		有機化学 I	物理・化学系薬学演習		実践薬学		
4) ラセミ体とメソ体について説明できる。		有機化学 I	物理・化学系薬学演習		実践薬学		
5) 絶対配置の表示法を説明し、キラリ化合物の構造を書くことができる。(知識、技能)		有機化学 I	物理・化学系薬学演習	天然物化学			
6) 炭素-炭素二重結合の立体異性 (cis, trans ならびに E, Z 異性) について説明できる。		有機化学 I	物理・化学系薬学演習		実践薬学		
7) フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。(技能)		有機化学 I	物理・化学系薬学演習	天然物化学			
8) エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。		化学	物理・化学系薬学演習				
<b>【②有機化合物の基本骨格の構造と反応】</b>							
<b>【①アルカン】</b>							
1) アルカンの基本的な性質について説明できる。		有機化学 I	有機化学 II、物理・化学系薬学演習				
2) アルカンの構造異性体を図示することができる。(技能)		有機化学 I	有機化学 II、物理・化学系薬学演習				
3) シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。		化学	物理・化学系薬学演習				
4) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクソトリアル) を図示できる。(技能)		化学	物理・化学系薬学演習	天然物化学			
5) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。		化学	物理・化学系薬学演習				
<b>【②アルケン・アルキン】</b>							
1) アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。		有機化学 I	有機化学 II、物理・化学系薬学演習				
2) アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。		有機化学 I	有機化学 II、物理・化学系薬学演習				
3) アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。		有機化学 I	物理・化学系薬学演習				
<b>【③芳香族化合物】</b>							
1) 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。		有機化学 I	物理・化学系薬学演習				
2) 芳香族性の概念を説明できる。		化学、有機化学 I	物理・化学系薬学演習				
3) 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機化学 I	物理・化学系薬学演習				
4) 代表的な芳香族酸素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。		有機化学 I	物理・化学系薬学演習				
5) 代表的な芳香族酸素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機化学 I	物理・化学系薬学演習				
<b>【③官能基の性質と反応】</b>							
<b>【①羧酸】</b>							
1) 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。			医薬品化学 I、物理・化学系薬学演習		実践薬学		
2) 官能基の性質を利用した分離精製を要述できる。(技能)			化学系薬学実習				
<b>【②有機ハロゲン化合物】</b>							
1) 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学 I	有機化学 II、物理・化学系薬学演習				
2) 求核置換反応の特徴について説明できる。		有機化学 I	有機化学 II、物理・化学系薬学演習				
3) 脱離反応の特徴について説明できる。		有機化学 I	有機化学 II、物理・化学系薬学演習				

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【③アルコール・フェノール・エーテル】</b>					
1) アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。					
2) エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。					
<b>【④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体】</b>					
1) アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。					
2) カルボン酸の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。					
3) カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド) の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。					
<b>【⑤アミン】</b>					
1) アミン類の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。					
<b>【⑥電子効果】</b>					
1) 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。					
<b>【⑦酸性度・塩基性度】</b>					
1) アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。					
2) 含窒素化合物の塩基性を比較して説明できる。					
<b>【⑧化学物質の構造決定】</b>					
<b>【①核磁共振 (NMR)】</b>					
1) <sup>1</sup> H および <sup>13</sup> C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。					
2) 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。					
3) <sup>1</sup> H NMR の積分値の意味を説明できる。					
4) <sup>1</sup> H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂 (カップリング) する基本的な分裂様式を説明できる。					
5) 代表的な化合物の部分構造を <sup>1</sup> H NMR から決定できる。(技能)					
<b>【②赤外線吸収 (IR)】</b>					
1) IR スペクトルより得られる情報を概説できる。					
2) IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)					
<b>【③質量分析】</b>					
1) マススペクトルより得られる情報を概説できる。					
2) 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。(技能)					
3) ピークの種類 (基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク) を説明できる。					
4) 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)					
<b>【④総合演習】</b>					
1) 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。(技能)					

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)					
該当科目					
1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>(5) 無機化合物・錯体の構造と性質</b>					
<b>【①無機化合物・錯体】</b>					
化学	物理・化学系薬学演習				
1) 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。	物理・化学系薬学演習				
2) 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	物理・化学系薬学演習				
3) 活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。	物理・化学系薬学演習				
4) 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。	物理・化学系薬学演習				
5) 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。	物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
<b>04 生体分子・医薬品の化学による理解</b>					
<b>(1) 医薬品の薬理的となる生体分子の構造と化学的性質</b>					
<b>【①医薬品の薬理的となる生体分子の化学構造】</b>					
1) 代表的な生体高分子を構成する小分子 (アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど) の構造に基づき化学的性質を説明できる。	物理・化学系薬学演習				
2) 医薬品の構造的となる生体高分子 (タンパク質、核酸など) の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用に基づき説明できる。	物理・化学系薬学演習				
<b>【②生体内で働ける小分子】</b>					
1) 細胞膜受容体および細胞内 (核内) 受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。	生体情報伝達学、物理・化学系薬学演習				
2) 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。	物理・化学系薬学演習				
3) 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。	生体情報伝達学、物理・化学系薬学演習				
4) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。	物理・化学系薬学演習				
<b>(2) 生体反応の化学による理解</b>					
<b>【①生体内で働けるリン、硫黄化合物】</b>					
1) リン化合物 (リン酸誘導体など) および硫黄化合物 (チオール、ジスルフィド、チオエステルなど) の構造と化学的性質を説明できる。	医薬品化学I、物理・化学系薬学演習				
2) リン化合物 (リン酸誘導体など) および硫黄化合物 (チオール、ジスルフィド、チオエステルなど) の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。	医薬品化学I、物理・化学系薬学演習				
<b>【②酵素阻害剤と作用様式】</b>					
1) 不可逆的酵素阻害剤の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。	物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
2) 基質アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。	物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
3) 遷移状態アナログが競合阻害剤となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。	物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
<b>【③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト】</b>					
1) 代表的な受容体のアゴニスト (作用薬、作動薬、刺激薬) とアンタゴニスト (拮抗薬、遮断薬) との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。	物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
2) 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。	物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
<b>【④生体内で起こる有機反応】</b>					
1) 代表的な生体分子 (脂防酸、コレステロールなど) の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。	医薬品化学I、物理・化学系薬学演習				
2) 異物代謝の反応 (発がん性物質の代謝的活性化など) を有機化学の観点から説明できる。	医薬品化学I、物理・化学系薬学演習				
<b>(3) 医薬品の化学構造と性質、作用</b>					
<b>【①医薬品と生体分子の相互作用】</b>					
1) 医薬品と生体分子との相互作用を化学的観点 (結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など) から説明できる。	物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
<b>【②医薬品の化学構造に基づく性質】</b>					
1) 医薬品の構造からその物理化学的性質 (酸性、塩基性、疎水性、親水性など) を説明できる。	物理・化学系薬学演習	医薬品化学II	実践薬学		
2) プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。	物理・化学系薬学演習	医薬品化学II	実践薬学		
<b>【③医薬品のコンポーネント】</b>					

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
1) 代表的な医薬品のファーマコフオアについて概説できる。		物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
2) ハイオアイソスター (生物学的等価体) について、代表的な例を挙げて概説できる。		物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
3) 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。		医薬品化学I、物理・化学系薬学演習				
<b>【④酵素に作用する医薬品の構造と性質】</b>		物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
1) スクワレノイドおよび核酸塩基アナログを有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		医薬品化学I、物理・化学系薬学演習				
2) フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		医薬品化学I、物理・化学系薬学演習				
3) スルホンアミド構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
4) キノロン骨格をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
5) β-ラクタム構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
6) ペプチドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
<b>【⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質】</b>		物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
1) カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
2) アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
3) ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
4) ペンタジセピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
5) オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
<b>【⑥DMA に作用する医薬品の構造と性質】</b>		物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
1) DNAと結合する医薬品 (アルキル化剤、シスプラチン類) を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。		物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
2) DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。		物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
3) DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。		物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
<b>【⑦イオンチャネルに作用する医薬品の構造と性質】</b>		物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
1) イオンチャネルに作用する医薬品の代表的な基本構造 (ジヒドロピリジンなど) の特徴を説明できる。		物理・化学系薬学演習	医薬品化学II			
<b>05 自然が生み出す薬物</b>						
<b>(1) 薬になる動植物</b>						
<b>【①薬用植物】</b>						
1) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げるができる。		生薬学、物理・化学系薬学演習	天然薬用資源学			
2) 代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。(知識、技能)		生薬学、物理・化学系薬学演習				
3) 植物の主な内部形態について説明できる。		生薬学、物理・化学系薬学演習				
4) 法律によって取り扱いが規制されている植物 (ケシ、アサ) の特徴を説明できる。		生薬学、物理・化学系薬学演習				
<b>【②生薬の基原】</b>						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬 (植物、動物、菌類由来) を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。		生薬学、物理・化学系薬学演習				
<b>【③生薬の用途】</b>						
1) 日本薬局方収載の代表的な生薬 (植物、動物、菌類、菌類、菌類) の薬効、成分、用途などを説明できる。		生薬学、物理・化学系薬学演習	天然薬用資源学			
2) 副作用や使用上の注意が必要な生薬を列挙し、説明できる。		生薬学、物理・化学系薬学演習	天然薬用資源学			
<b>【④生薬の同定と品質評価】</b>						
1) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。		生薬学、物理・化学系薬学演習				

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
2) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。	生薬学、物理・化学 系薬学演習					
3) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)	生薬学、物理・化学 系薬学演習					
4) 代表的な生薬の確認試験を説明できる。	生薬学、物理・化学 系薬学演習					
5) 代表的な生薬の純度試験を説明できる。	生薬学、物理・化学 系薬学演習					
<b>【2】薬の位置としての天然物</b>						
<b>【1】生薬由来の生物活性物質の構造と作用</b>						
1) 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。	生薬学、物理・化学 系薬学演習	天然物化学				
2) 脂質や糖質に分類される生薬由来の生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	生薬学、物理・化学 系薬学演習	天然物化学				
3) 芳香族化合物に分類される生薬由来の生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	生薬学、物理・化学 系薬学演習	天然物化学、天然薬 用資源学				
4) テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	生薬学、物理・化学 系薬学演習	天然物化学、天然薬 用資源学				
5) アルカロイドに分類される生薬由来の生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	生薬学、物理・化学 系薬学演習	天然物化学、天然薬 用資源学				
<b>【2】微生物由来の生物活性物質の構造と作用</b>						
1) 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。	物理・化学系薬学演 習	天然物化学、天然薬 用資源学				
2) 微生物由来の生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。	物理・化学系薬学演 習	天然物化学、天然薬 用資源学				
<b>【3】天然生物活性物質の取扱い</b>						
1) 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識、技能)	化学系薬学演習	天然物化学、天然薬 用資源学				
<b>【4】天然生物活性物質の利用</b>						
1) 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。	物理・化学系薬学演 習	天然物化学、天然薬 用資源学				
2) 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード 化合物を説明できる。	物理・化学系薬学演 習	天然物化学、天然薬 用資源学				
3) 農薬や化粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。	物理・化学系薬学演 習	天然物化学、天然薬 用資源学				
<b>06 生命現象の基礎</b>						
<b>(1) 細胞の構造と機能</b>						
<b>【1】細胞膜</b>						
1) 細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	細胞生物学	生物・薬理系薬学演 習		実践薬学		
2) エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。	細胞生物学	生物・薬理系薬学演 習		実践薬学		
<b>【2】細胞小器官</b>						
1) 細胞小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)や リボソームの構造と機能を説明できる。	細胞生物学	生物・薬理系薬学演 習		実践薬学		
<b>【3】細胞骨格</b>						
1) 細胞骨格の構造と機能を説明できる。	細胞生物学	生物・薬理系薬学演 習		実践薬学		
<b>(2) 生命現象を担う分子</b>						
<b>【1】脂質</b>						
1) 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生物学	生物・薬理系薬学演 習		実践薬学		
<b>【2】糖質</b>						
1) 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生物学	生物・薬理系薬学演 習		実践薬学		
2) 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生物学	生物・薬理系薬学演 習		実践薬学		
<b>【3】アミノ酸</b>						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生物学	生物・薬理系薬学演 習		実践薬学		
<b>【4】タンパク質</b>						
1) タンパク質の構造(一次、二次、三次、四次構造)と性質を説明できる。	生物学	生物・薬理系薬学演 習		実践薬学		
<b>【5】ヌクレオチドと核酸</b>						
1) スクレオチドと核酸(DNA、RNA)の種類、構造、性質を説明できる。	生物学	生物・薬理系薬学演 習		実践薬学		
<b>【6】ビタミン</b>						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。	生物学	生物学	生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
<b>【⑦微量元素】</b>							
1) 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。	生物学	生物学	生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
<b>【⑧生体分子の定性・定量】</b>							
1) 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能)	基礎実習		生物・衛生系薬学実習				
<b>【⑨生命活動を担うタンパク質】</b>							
<b>【⑩タンパク質の構造と機能】</b>							
1) 多様な機能をもちタンパク質(酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質)を列挙し概説できる。			生化学Ⅱ・生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
<b>【⑪タンパク質の成熟と分解】</b>							
1) タンパク質の翻訳後の成熟過程(細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾)について説明できる。			生化学Ⅱ・生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
2) タンパク質の細胞内での分解について説明できる。			生化学Ⅱ・生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
<b>【⑫酵素】</b>							
1) 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。	生化学Ⅰ		生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
2) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	生化学Ⅰ		生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
3) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	生化学Ⅰ		生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
4) 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)						生物・衛生系薬学実習	
<b>【⑬酵素以外のタンパク質】</b>							
1) 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。			生化学Ⅱ・生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
2) 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。			生化学Ⅱ・生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
<b>【⑭生命情報を担う遺伝子】</b>							
<b>【⑮遺伝子】</b>							
1) 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。	細胞生物学		生化学Ⅱ・生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
2) DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。	細胞生物学		生化学Ⅱ・生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
<b>【⑯遺伝情報を担う分子】</b>							
1) 染色体の構造(ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど)を説明できる。	細胞生物学		生化学Ⅱ・生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
2) 遺伝子の構造(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)を説明できる。	細胞生物学		生化学Ⅱ・生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
3) RNAの種類(mRNA、rRNA、tRNAなど)と機能について説明できる。	細胞生物学		生化学Ⅱ・生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
<b>【⑰遺伝子の複製】</b>							
1) DNAの複製の過程について説明できる。			分子細胞生物學Ⅰ 生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
<b>【⑱転写・翻訳の過程と調節】</b>							
1) DNAからRNAへの転写の過程について説明できる。			分子細胞生物學Ⅰ 生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
2) エピジェネティックな転写制御について説明できる。			分子細胞生物學Ⅰ 生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
3) 転写因子による転写制御について説明できる。			分子細胞生物學Ⅰ 生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
4) RNAのプロセッシング(キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など)について説明できる。			分子細胞生物學Ⅰ 生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
5) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。			分子細胞生物學Ⅰ 生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
<b>【⑳遺伝子の変異・修復】</b>							

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
1) DNA の変異と修復について説明できる。		分子細胞生物学Ⅰ, 生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
<b>【⑥細胞え DNA】</b>						
1) 遺伝子工学技術 (遺伝子クローニング、cDNA クローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など) を概説できる。		生物・薬理系薬学演習	分子細胞生物学Ⅱ	実践薬学		
2) 遺伝子改変生物 (遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物) について概説できる。		生物・薬理系薬学演習	分子細胞生物学Ⅱ	実践薬学		
<b>(5) 生体エネルギーと生命活動を支える代謝系</b>						
<b>【① 概論】</b>						
1) エネルギー代謝の概要を説明できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅱ・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
<b>【②ATP の産生と糖質代謝】</b>						
1) 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。	生化学Ⅰ	生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
2) クエン酸回路 (TCA サイクル) について説明できる。	生化学Ⅰ	生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
3) 電子伝達系 (酸化リン酸化) と ATP 合成酵素について説明できる。	生化学Ⅰ	生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
4) グリコーゲンの代謝について説明できる。	生化学Ⅰ	生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
5) 糖新生について説明できる。	生化学Ⅰ	生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
<b>【③脂質代謝】</b>						
1) 脂肪酸の生合成とβ酸化について説明できる。	生化学Ⅱ・生物・薬理系薬学演習	生化学Ⅱ・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
2) コレステロールの生合成と代謝について説明できる。	生化学Ⅱ・生物・薬理系薬学演習	生化学Ⅱ・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
<b>【④卵巣状態と黄体状態】</b>						
1) 卵巣状態のエネルギー代謝 (ケトン体の利用など) について説明できる。	生化学Ⅱ・生物・薬理系薬学演習	生化学Ⅱ・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
2) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。	生化学Ⅱ・生物・薬理系薬学演習	生化学Ⅱ・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
<b>【⑤その他の代謝系】</b>						
1) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝 (尿素回路など) について説明できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅱ・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
2) スクレオチドの生合成と分解について説明できる。	生化学Ⅰ	生化学Ⅱ・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
3) ペントースリン酸回路について説明できる。	生化学Ⅰ	生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
<b>(6) 細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達</b>						
<b>【① 概論】</b>						
1) 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。		生体情報伝達学・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
<b>【②細胞内情報伝達】</b>						
1) 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。		生体情報伝達学・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
2) 細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。		生体情報伝達学・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。		生体情報伝達学・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
4) 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。		生体情報伝達学・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
5) 細胞内 (核内) 受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。		生体情報伝達学・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
<b>【③細胞間コミュニケーション】</b>						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。		生体情報伝達学・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該当科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
2) 主な細胞がマトリックス分子の種類と特徴を説明できる。		生体情報伝達学、生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
<b>(7) 細胞の分裂と死</b>						
<b>【①細胞分裂】</b>						
1) 細胞周期とその制御機構について説明できる。	細胞生物学	分子細胞生物学Ⅰ、生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
2) 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。	細胞生物学	生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
<b>【②細胞死】</b>						
1) 細胞死 (アポトーシスとネクローシス) について説明できる。		分子細胞生物学Ⅰ、生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
<b>【③がん細胞】</b>						
1) 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。		分子細胞生物学Ⅰ、生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
2) がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。		分子細胞生物学Ⅰ、生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
<b>⑦ 人体の成り立ちと生体機能の調節</b>						
<b>(1) 人体の成り立ち</b>						
<b>【①遺伝】</b>						
1) 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。	細胞生物学	生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
2) 遺伝子多型について概説できる。		分子細胞生物学Ⅰ、生物・薬理系薬学演習	分子細胞生物学Ⅱ		実践薬学	
3) 代表的な遺伝疾患を概説できる。		分子細胞生物学Ⅰ、生物・薬理系薬学演習	分子細胞生物学Ⅱ		実践薬学	
<b>【②発生】</b>						
1) 個体発生について概説できる。	細胞生物学	分子細胞生物学Ⅰ、生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
2) 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。	細胞生物学	生物・薬理系薬学演習	分子細胞生物学Ⅱ		実践薬学	
<b>【③器官系概観】</b>						
1) 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	生理解剖学Ⅰ	生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
2) 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類 (上皮、内皮、間葉系など) を列挙し、形態および機能的特徴を説明できる。	生理解剖学Ⅰ	生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
3) 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。(技能)	基礎実習					
4) 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。(技能)	基礎実習					
<b>【④神経系】</b>						
1) 中枢神経系について概説できる。	生理解剖学Ⅰ	生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
2) 末梢 (体性・自律) 神経系について概説できる。	生理解剖学Ⅰ	生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
<b>【⑤骨格系・筋肉系】</b>						
1) 骨、筋肉について概説できる。	生理解剖学Ⅰ	生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
2) 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	生理解剖学Ⅰ	生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
<b>【⑥皮膚】</b>						
1) 皮膚について概説できる。	生理解剖学Ⅱ	生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
<b>【⑦循環系】</b>						
1) 心臓について概説できる。	生理解剖学Ⅱ	生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
2) 血管系について概説できる。	生理解剖学Ⅱ	生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
3) リンパ管系について概説できる。	生理解剖学Ⅱ	生物・薬理系薬学演習			実践薬学	
<b>【⑧呼吸器系】</b>						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 肺、気管支について概説できる。	生理解剖学Ⅱ	生物・薬理系薬学演習			実践薬学		
<b>【⑨消化器系】</b>							
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	生理解剖学Ⅱ	生物・薬理系薬学演習			実践薬学		
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。	生理解剖学Ⅱ	生物・薬理系薬学演習			実践薬学		
<b>【⑩泌尿器系】</b>							
1) 泌尿器系について概説できる。	生理解剖学Ⅱ	生物・薬理系薬学演習			実践薬学		
<b>【⑪生殖器系】</b>							
1) 生殖器系について概説できる。		病態生理学、生物・薬理系薬学演習			実践薬学		
<b>【⑫内分泌系】</b>							
1) 内分泌系について概説できる。		病態生理学、生物・薬理系薬学演習			実践薬学		
<b>【⑬感覚器系】</b>							
1) 感覚器系について概説できる。	生理解剖学Ⅱ	生物・薬理系薬学演習			実践薬学		
<b>【⑭血液・造血系】</b>							
1) 血液・造血系について概説できる。	生理解剖学Ⅱ	生物・薬理系薬学演習			実践薬学		
<b>(2) 生体機能の調節</b>							
<b>【①神経による調節機構】</b>							
1) 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	生理解剖学Ⅰ	生物・薬理系薬学演習			実践薬学		
2) 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		生体情報伝達学、生物・薬理系薬学演習			実践薬学		
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	生理解剖学Ⅰ	生物・薬理系薬学演習			実践薬学		
4) 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。	生理解剖学Ⅰ	生物・薬理系薬学演習			実践薬学		
<b>【②ホルモン・内分泌系による調節機構】</b>							
1) 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。		病態生理学、生物・薬理系薬学演習			実践薬学		
<b>【③オートサイトイドによる調節機構】</b>							
1) 代表的なオートサイトイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		病態生理学、生体情報伝達学、生物・薬理系薬学演習			実践薬学		
<b>【④サイトカイン・増殖因子による調節機構】</b>							
1) 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		病態生理学、生体情報伝達学、生物・薬理系薬学演習			実践薬学		
<b>【⑤血圧の調節機構】</b>							
1) 血圧の調節機構について概説できる。	生理解剖学Ⅱ	病態生理学、生物・薬理系薬学演習			実践薬学		
<b>【⑥血糖の調節機構】</b>							
1) 血糖の調節機構について概説できる。		病態生理学、生物・薬理系薬学演習			実践薬学		
<b>【⑦体液の調節】</b>							
1) 体液の調節機構について概説できる。	生理解剖学Ⅱ	生物・薬理系薬学演習			実践薬学		
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。	生理解剖学Ⅱ	生物・薬理系薬学演習			実践薬学		
<b>【⑧体温の調節】</b>							
1) 体温の調節機構について概説できる。	生理解剖学Ⅱ	病態生理学、生物・薬理系薬学演習			実践薬学		
<b>【⑨血液凝固・線溶系】</b>							
1) 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。	生理解剖学Ⅱ	生物・薬理系薬学演習			実践薬学		
<b>【⑩性周期の調節】</b>							
1) 性周期の調節機構について概説できる。		病態生理学、生物・薬理系薬学演習			実践薬学		
<b>08 生体防御と救生物</b>							
(1) 身体をまもる							

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【① 生体防御反応】</b>						
1) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。		免疫学・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
2) 免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。		免疫学・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
3) 自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。		免疫学・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
4) 体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。		免疫学・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
<b>【②免疫を担う細胞】</b>						
1) 免疫に関与する組織を列挙し、その役割を説明できる。		免疫学・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。		免疫学・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
3) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。		免疫学・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
<b>【③分子レベルで見た免疫のしくみ】</b>						
1) 自然免疫および獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。		免疫学・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
2) MHC 抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。		免疫学・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
3) T 細胞と B 細胞による抗原認識の多様性と活性化について説明できる。		免疫学・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
4) 抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。		免疫学・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
5) 免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。		免疫学・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
<b>(2) 免疫系の制御とその臨床・免疫系の応用</b>						
<b>【① 免疫応答の制御と観察】</b>						
1) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。		病態生理学、免疫学、生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
2) アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。		免疫学・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
3) 自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。		免疫学・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
4) 臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。		免疫学・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
5) 感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。		免疫学・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
6) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。		免疫学・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
<b>【② 免疫反応の利用】</b>						
1) ワクチンの原理と種類（生ワクチン、不活化ワクチン、トキシノイド、混合ワクチンなど）について説明できる。		生物・薬理系薬学演習	感染症治療学	実践薬学		
2) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体について説明できる。		免疫学・生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
3) 血清療法と抗体医薬品について概説できる。		生物・薬理系薬学演習	悪性腫瘍治療学・緩和医療、免疫疾患治療学	実践薬学		
4) 抗原抗体反応を利用した検査方法（ELISA 法、ウェスタンブロット法など）を実施できる。（技能）			生物・衛生系薬学実習			
<b>(3) 微生物の基本</b>						
<b>【① 総論】</b>						
1) 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。		微生物学、生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
<b>【② 細菌】</b>						
1) 細菌の分類や性質（系統的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など）を説明できる。		微生物学、生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
2) 細菌の構造と増殖機構について説明できる。		微生物学、生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
3) 細菌の異化作用（呼吸と発酵）および同化作用について説明できる。		微生物学、生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
4) 細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。		生物・薬理系薬学演習	分子細胞生物学Ⅱ	実践薬学		
5) 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。		微生物学、生物・薬理系薬学演習		実践薬学		

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
6) 代表的な細菌毒素について説明できる。		微生物学、生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
<b>【③ ウイルス】</b>						
1) ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。		微生物学、生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
<b>【④ 真菌・原虫・蠕虫】</b>						
1) 真菌の性状を概説できる。		微生物学、生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
2) 原虫および蠕虫の性状を概説できる。		微生物学、生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
<b>【⑤ 消毒と滅菌】</b>						
1) 滅菌、消毒および殺菌、消毒の概念を説明できる。		微生物学、生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
2) 主な滅菌法および消毒法について説明できる。		微生物学、生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
<b>【⑥ 検出方法】</b>						
1) グラム染色を実施できる。(技能)			生物・衛生系薬学実習			
2) 無菌操作を実施できる。(技能)			生物・衛生系薬学実習			
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)			生物・衛生系薬学実習			
<b>【④ 病原体としての微生物】</b>						
<b>【① 感染の成立と共生】</b>						
1) 感染の成立(感染源、感染経路、侵入門戸など)と共生(腸内細菌など)について説明できる。		微生物学、生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
2) 日和見感染と院内感染について説明できる。		微生物学、生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
<b>【② 代表的な病原体】</b>						
1) DNAウイルス(ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B型肝炎ウイルスなど)について概説できる。		微生物学、生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
2) RNAウイルス(ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLVなど)について概説できる。		微生物学、生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
3) グラム陰性球菌(ブドウ球菌、レンサ球菌など)およびグラム陽性桿菌(破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セラウス菌、デフィシル菌など)について概説できる。		微生物学、生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
4) グラム陰性球菌(淋菌、髄膜炎菌など)およびグラム陰性桿菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、肺炎ピブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など)について概説できる。		微生物学、生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
5) グラム陰性らせん菌(ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど)およびスピロヘータについて概説できる。		微生物学、生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
6) 抗酸菌(結核菌、らい菌など)について概説できる。		微生物学、生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
7) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。		微生物学、生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
8) 真菌(アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白黴菌など)について概説できる。		微生物学、生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
9) 原虫(マラリア原虫、トキソプラズマ、腔トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫(回虫、鞭虫、アニサキス、エキソコックスなど)について概説できる。		微生物学、生物・薬理系薬学演習		実践薬学		
<b>D 衛生薬学</b>						
<b>D1 健康</b>						
<b>【① 健康と疾病の概念】</b>						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。			公衆衛生学		衛生・医療系薬学演習	
<b>【② 疫学統計】</b>						
1) 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。			公衆衛生学		衛生・医療系薬学演習	
2) 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。			公衆衛生学		衛生・医療系薬学演習	
3) 人口動態(死因別死亡率など)の変遷について説明できる。			公衆衛生学		衛生・医療系薬学演習	
<b>【③ 疫学】</b>						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 疾病の予防における疫学的作用を説明できる。			公衆衛生学	衛生・医療系薬学演習		
2) 疫学の三要因 (病因、環境要因、宿主要因) について説明できる。			公衆衛生学、保健衛生学	衛生・医療系薬学演習		
3) 疫学の種類 (記述疫学、分析疫学など) とその方法について説明できる。			公衆衛生学	衛生・医療系薬学演習		
4) リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。(知識・技能)			公衆衛生学	衛生・医療系薬学演習		
<b>(2) 疾病の予防</b>						
<b>【①疾病の予防とは】</b>						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。			公衆衛生学	衛生・医療系薬学演習		
2) 健康増進政策 (健康日本21など) について概説できる。			公衆衛生学	衛生・医療系薬学演習		
<b>【②感染症とその予防】</b>						
1) 現代における感染症 (日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など) の特徴について説明できる。			保健衛生学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
2) 感染症法における、感染症とその分類について説明できる。			保健衛生学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
3) 代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。			保健衛生学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
4) 予防接種の意義と方法について説明できる。			保健衛生学	衛生・医療系薬学演習		
<b>【③生活習慣病とその予防】</b>						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。			公衆衛生学	衛生・医療系薬学演習		
2) 生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。			公衆衛生学	衛生・医療系薬学演習		
3) 食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。(態度)				衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
<b>【④母子保健】</b>						
1) 新生児マスタスクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。			公衆衛生学	衛生・医療系薬学演習		
2) 母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。			保健衛生学	衛生・医療系薬学演習		
<b>【⑤労働衛生】</b>						
1) 代表的な労働災害、職業性疾患について説明できる。			保健衛生学	衛生・医療系薬学演習		
2) 労働衛生管理について説明できる。			保健衛生学	衛生・医療系薬学演習		
<b>(3) 栄養と健康</b>						
<b>【①栄養】</b>						
1) 五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。		食品衛生学	生物・衛生系薬学実習	臨床栄養学、衛生・医療系薬学演習		
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。				臨床栄養学、衛生・医療系薬学演習		
3) 食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。		食品衛生学		臨床栄養学、衛生・医療系薬学演習		
4) 五大栄養素以外の食品成分 (食物繊維、抗酸化物質など) の機能について説明できる。		食品衛生学		臨床栄養学、衛生・医療系薬学演習		
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量を説明できる。				臨床栄養学、衛生・医療系薬学演習		
6) 日本人の食事摂取基準について説明できる。				臨床栄養学、衛生・医療系薬学演習		
7) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。				臨床栄養学、衛生・医療系薬学演習		
8) 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。				臨床栄養学、衛生・医療系薬学演習		
<b>【②食品機能と食品衛生】</b>						
1) 炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。		食品衛生学		衛生・医療系薬学演習		
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)		食品衛生学	生物・衛生系薬学実習			
3) 食品の変質を防ぐ方法 (保存法) を説明できる。		食品衛生学		衛生・医療系薬学演習		
4) 食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。		食品衛生学		衛生・医療系薬学演習		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。		食品衛生学		衛生・医療系薬学演習		
6) 特別用途食品と保健機能食品について説明できる。				臨床薬理学 衛生・医療系薬学演習 衛生・医療系薬学演習		
7) 食品衛生に関する法的規制について説明できる。		食品衛生学				
<b>【③食中毒と食品汚染】</b>						
1) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。		食品衛生学		衛生・医療系薬学演習 実地薬学		
2) 食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。			毒性学	衛生・医療系薬学演習 実地薬学		
3) 化学物質(重金属、残留農薬など)やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。			毒性学	衛生・医療系薬学演習 実地薬学		
<b>D2 環境</b>						
<b>【(1)化学物質・放射線の生体への影響】</b>						
<b>【①化学物質の毒性】</b>						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。			毒性学	衛生・医療系薬学演習		
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。			毒性学	衛生・医療系薬学演習		
3) 重金属、POB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。			毒性学	衛生・医療系薬学演習 実地薬学		
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。			毒性学	衛生・医療系薬学演習		
5) 薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。(知識・態度)		保健衛生学		衛生・医療系薬学演習 実地薬学		
6) 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)の試験法を列挙し、概説できる。		保健衛生学		衛生・医療系薬学演習 実地薬学		
7) 代表的な中毒原因物質(乱用薬物を含む)の試験法を列挙し、概説できる。		保健衛生学		衛生・医療系薬学演習		
<b>【②化学物質の安全性評価と適正使用】</b>						
1) 個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。(態度)			毒性学	衛生・医療系薬学演習		
2) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。			毒性学	衛生・医療系薬学演習		
3) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOAEL) などについて概説できる。			毒性学	衛生・医療系薬学演習		
4) 化学物質の安全摂取量(1日許容摂取量など)について説明できる。			毒性学	衛生・医療系薬学演習		
5) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制(化審法、化管法など)を説明できる。			毒性学	衛生・医療系薬学演習		
<b>【③化学物質による発がん】</b>						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。			毒性学	衛生・医療系薬学演習		
2) 遺伝毒性試験 (Ames試験など) の原理を説明できる。			毒性学	衛生・医療系薬学演習		
3) 発がんに至る過程 (イニエーション、プロモーションなど) について概説できる。			毒性学	衛生・医療系薬学演習		
<b>【④放射線の生体への影響】</b>						
1) 電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。		放射線生物学		衛生・医療系薬学演習		
2) 代表的な放射線性核種(天然、人工)と生体との相互作用を説明できる。		放射線生物学		衛生・医療系薬学演習		
3) 電離放射線を防御する方法について概説できる。		放射線生物学		衛生・医療系薬学演習		
4) 非電離放射線(紫外線、赤外線など)を列挙し、生体への影響を説明できる。		放射線生物学		衛生・医療系薬学演習		
<b>【(2)生活環境と健康】</b>						
<b>【①地球環境と生態系】</b>						
1) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。		環境衛生学		衛生・医療系薬学演習		
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。		環境衛生学		衛生・医療系薬学演習		
3) 化学物質の環境内動態(生物濃縮など)について例を挙げて説明できる。		環境衛生学		衛生・医療系薬学演習		
4) 地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。		環境衛生学		衛生・医療系薬学演習		

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
5) 人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。(態度)			生物・衛生系薬学実習	衛生・医療系薬学演習		
<b>【②環境保全と法的規制】</b>						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。		環境衛生学		衛生・医療系薬学演習		
2) 環境基本法の理念を説明できる。		環境衛生学		衛生・医療系薬学演習		
3) 環境汚染(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など)を防止するための法規制について説明できる。		環境衛生学		衛生・医療系薬学演習		
<b>【③水環境】</b>						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。		環境衛生学		衛生・医療系薬学演習		
2) 水の浄化法、塩素処理について説明できる。		環境衛生学		衛生・医療系薬学演習		
3) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)		環境衛生学	生物・衛生系薬学実習			
4) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。		環境衛生学				
5) 水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)		環境衛生学	生物・衛生系薬学実習			
6) 富栄養化の原因とそれによってさらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。		環境衛生学		衛生・医療系薬学演習		
<b>【④大気環境】</b>						
1) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。		環境衛生学		衛生・医療系薬学演習		
2) 主な大気汚染物質を測定できる。(技能)		環境衛生学	生物・衛生系薬学実習			
3) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。		環境衛生学				
<b>【⑤室内環境】</b>						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)		環境衛生学	生物・衛生系薬学実習			
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。		環境衛生学		衛生・医療系薬学演習		
<b>【⑥廃棄物】</b>						
1) 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。		環境衛生学		衛生・医療系薬学演習		
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。		環境衛生学		衛生・医療系薬学演習		
3) マニフェスト制度について説明できる。		環境衛生学		衛生・医療系薬学演習		
<b>E 医療薬学</b>						
<b>E1 薬の作用と体の変化</b>						
<b>(1) 薬の作用</b>						
<b>【①薬の作用】</b>						
1) 薬の用量と作用の関係の説明できる。		薬理学Ⅰ、生物・薬理系薬学演習	生物薬剤学			
2) アゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)について説明できる。		薬理学Ⅰ、生物・薬理系薬学演習				
3) 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。		薬理学Ⅰ、生物・薬理系薬学演習	実践薬学			
4) 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。		薬理学Ⅰ、生物・薬理系薬学演習	実践薬学			
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(06(6)【②細胞内情報伝達】1~5、参照)		薬理学Ⅰ、生物・薬理系薬学演習	実践薬学			
6) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。		薬理学Ⅰ、生物・薬理系薬学演習	生物薬剤学			
7) 薬物の選択(薬名を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因(年齢、疾病、妊娠等)について具体例を挙げて説明できる。		薬理学Ⅰ、生物・薬理系薬学演習	生物薬剤学			
8) 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。(E4(1)【②吸収】5.【④代謝】5.【⑤排泄】5.参照)		薬理学Ⅰ、生物・薬理系薬学演習	生物薬剤学			
9) 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。		薬理学Ⅰ、生物・薬理系薬学演習	生物薬剤学			
<b>【②動物実験】</b>						
1) 動物実験における倫理について記述できる。(態度)			医療系薬学実習			
2) 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)			医療系薬学実習			
3) 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)			医療系薬学実習			

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)									
		該当科目		1年	2年	3年	4年	5年	6年
				臨床分析学					
<b>【③日本薬局方】</b>									
1) 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。									
<b>【②身体の病的変化を知る】</b>									
<b>【①症状】</b>									
1) 以下の症状・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳、痰、血痰、咯血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、喉下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血、下血、腹部膨満（腹水を含む）、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛、関節腫脹、腰痛部痛、記憶障害、知覚異常（しびれを含む）、神経痛、視力障害、聴力障害		症候学、衛生・医療薬学演習、カルテ読解演習、ケリニカルバス演習、セルフメデイケーション演習、フィジカルアセスメント実習、実習							
<b>【②病態・臨床検査】</b>									
1) 尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		病態生化学							
2) 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		病態生化学							
3) 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		病態生化学							
4) 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		病態生化学							
5) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		病態生化学							
6) 代表的な生理機能検査（心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等）、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		病態生化学、病態生理学							
7) 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		病態生化学							
8) 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。		病態生化学、病態生理学							
<b>【③薬物治療の位置づけ】</b>									
1) 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療（外科手術など）の位置づけを説明できる。		精神神経疾患治療学、循環器疾患治療学、消化器・血液疾患治療学、感染症治療学、内分泌・代謝性疾患治療学、腎・生殖器疾患治療学、重症性腫瘍治療学・緩和医療学、遺伝学							
2) 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬物薬理、薬物動態に基づいて討議する。（知識・技能）		衛生・医療薬学演習、カルテ読解演習、ケリニカルバス演習、セルフメデイケーション演習							
<b>【④医薬品の安全性】</b>									

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目			
	1年	2年	3年	4年
1) 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。		薬理学Ⅰ、生物・薬理学薬学演習		カルテ読解演習、クニニカルバス演習、セルフメディケーション演習、実践薬学
2) 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。		薬理学Ⅰ、生物・薬理学薬学演習		カルテ読解演習、クニニカルバス演習、セルフメディケーション演習
3) 以下の障害を写す代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見および対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー(ショックを含む)、代謝障害、筋障害		病態生化学、病態生理学、薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ、生物・薬理学薬学演習		カルテ読解演習、クニニカルバス演習、セルフメディケーション演習
4) 代表的薬書、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。(態度)				セルフメディケーション演習、衛生・医療系薬学演習、実践薬学
<b>E2 薬理・病態・薬物治療</b>				
<b>【①】自律神経系に作用する薬</b>				
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ、生物・薬理学薬学演習		実践薬学
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ、生物・薬理学薬学演習		実践薬学
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅰ、生物・薬理学薬学演習		実践薬学
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			医療系薬学実習	
<b>【②】体性神経系に作用する薬・筋の興奮の薬、病態、治療</b>				
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅱ、生物・薬理学薬学演習		実践薬学
2) 運動神経に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		薬理学Ⅱ、生物・薬理学薬学演習		実践薬学
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			医療系薬学実習	
4) 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré(ギラン・バレー)症候群、重症筋無力症(重複)				衛生・医療系薬学演習
<b>【③】中枢神経系の薬、病態、治療</b>				
1) 全身麻酔薬、催眠薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬理学Ⅰ、生物・薬理学薬学演習		実践薬学
2) 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用(WHO三段階除痛剤を含む)を説明できる。		薬理学Ⅰ、生物・薬理学薬学演習		実践薬学
3) 中枢興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。		薬理学Ⅰ、生物・薬理学薬学演習		実践薬学
4) 統合失調症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理解、機序、主な副作用)を説明できる。		衛生・医療系薬学演習		衛生・医療系薬学演習
5) うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理解、機序、主な副作用)を説明できる。		衛生・医療系薬学演習		衛生・医療系薬学演習
6) 不安神経症(パニック障害と全般性不安障害)、心身症、不眠症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理解、機序、主な副作用)を説明できる。		衛生・医療系薬学演習		衛生・医療系薬学演習
7) てんかんについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理解、機序、主な副作用)を説明できる。		衛生・医療系薬学演習		衛生・医療系薬学演習
8) 脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞、脳虚血、一過性脳虚血)、くも膜下出血)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理解、機序、主な副作用)を説明できる。		衛生・医療系薬学演習		衛生・医療系薬学演習
9) Parkinson(パーキンソン)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理解、機序、主な副作用)を説明できる。		衛生・医療系薬学演習		衛生・医療系薬学演習
10) 認知症(Alzheimer(アルツハイマー)型認知症、脳血管性認知症等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理解、機序、主な副作用)を説明できる。		衛生・医療系薬学演習		衛生・医療系薬学演習
11) 片頭痛について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理解、機序、主な副作用)を説明できる。		衛生・医療系薬学演習		衛生・医療系薬学演習
12) 中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)		医療系薬学実習		衛生・医療系薬学演習
13) 中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。(態度)		精神神経疾患治療学		実践薬学

		該当科目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)							
14) 以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎(重複)、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy(ナルコレプシー)、薬物依存症、アルコール依存症				精神神経疾患治療学	衛生・医療系薬学演習		
【④化学構造と薬物】							
1) 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			薬理学Ⅱ、薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ、生物・薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ演習	精神神経疾患治療学	実践薬学		
【②免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬】							
【①抗炎症薬】							
1) 抗炎症薬(ステロイド性および非ステロイド性)および解熱性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅱ、生物・薬理学Ⅱ演習		実践薬学		
2) 抗炎症薬の作用機序に基づいて説明できる。			薬理学Ⅱ、生物・薬理学Ⅱ演習		実践薬学		
3) 創傷治癒の過程について説明できる。			病態生理学、薬理学Ⅱ		実践薬学		
【②免疫・炎症・アレルギー-表題の薬、病態、治療】							
1) アレルギー治療薬(抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅱ、生物・薬理学Ⅱ演習		実践薬学		
2) 免疫抑制薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			薬理学Ⅱ、生物・薬理学Ⅱ演習		実践薬学		
3) 以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 アトピー性皮膚炎、尋常性乾皮症、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息(重複)				免疫疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
4) 以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態(病態生理、症状等)および対処法を説明できる。 Stevens-Johnson(ステイブンスジョンソン)症候群、中毒性表皮壊死症(重複)、薬剤性過敏症候群、薬疹				免疫疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
5) アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				免疫疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
6) 以下の疾患について、病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 尋常性乾皮症、水疱瘡、光線過敏症、ペーニエー病				免疫疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
7) 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 ハセトウ病(重複)、橋本病(重複)、アジソン病、1型糖尿病(重複)、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血(重複)、シェーグレン症候群				免疫疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
8) 以下の全身自己免疫疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 全身性エリマトーシス、硬皮病、多発性骨髄炎/皮膚筋炎、関節リウマチ(重複)				免疫疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
9) 臓器移植(腎臓、肝臓、骨髄、造血器、輸血)について、拒絶反応および移植片対宿主病(GVHD)の病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				免疫疾患治療学	衛生・医療系薬学演習		
【③骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】							
1) 関節リウマチについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				免疫疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
2) 骨粗鬆症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				腎・生殖器疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
3) 変形性関節症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				腎・生殖器疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
4) カルシウム代謝の異常を伴う疾患(副甲狀腺機能亢進(低下)症、骨軟化症(くる病を含む)、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				腎・生殖器疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
【④化学構造と薬物】							
1) 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			薬理学Ⅱ、生物・薬理学Ⅱ演習	免疫疾患治療学	実践薬学		
【③循環器系・血液系・造血系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬】							
【①循環器系疾患の薬、病態、治療】							
1) 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 不整脈の例示: 上室性期外収縮(PAC)、心房細動(AF)、房室ブロック、QT延長症候群、心房(PSVT)、WPW症候群、心室過速(VT)、心房細動(VF)、心房ブロック、QT延長症候群			病態生理学	循環器疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
2) 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				循環器疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
3) 虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)、薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				循環器疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		

1年	2年	3年	該当科目	
			4年	5年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)				
4) 以下の高血圧症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 本態性高血圧症、二次性高血圧症(腎性高血圧症、腎血管性高血圧症を含む)	循環器疾患治療学	循環器疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、カルテ読解演習、実践薬学	衛生・医療系薬学演習、カルテ読解演習、実践薬学
5) 以下の疾患について概説できる。 閉塞性動脈硬化症(ASD)、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患	循環器疾患治療学	循環器疾患治療学	衛生・医療系薬学演習	衛生・医療系薬学演習
<b>【2】血液・造血系疾患の薬、病態、治療</b>				
1) 止血薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	薬理学Ⅱ、生物・薬理系薬学演習	カルテ読解演習、実践薬学	カルテ読解演習、実践薬学	カルテ読解演習、実践薬学
2) 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	薬理学Ⅱ、生物・薬理系薬学演習	カルテ読解演習、実践薬学	カルテ読解演習、実践薬学	カルテ読解演習、実践薬学
3) 以下の貧血について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 鉄欠乏性貧血、自赤芽球性貧血(悪性貧血等)、再生不良性貧血(AIHA)、腎性貧血、鉄芽球性貧血		消化器・血液疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、カルテ読解演習、実践薬学	衛生・医療系薬学演習、カルテ読解演習、実践薬学
4) 播種性血管内凝固症候群(DIC)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		消化器・血液疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学
5) 以下の疾患について治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 血小板減少性紫斑病(TTP)、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病(重複)、悪性リンパ腫(重複)		消化器・血液疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学
<b>【3】泌尿系薬、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療</b>				
1) 利尿薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	薬理学Ⅱ、生物・薬理系薬学演習	腎・生殖器疾患治療学	カルテ読解演習、実践薬学	カルテ読解演習、実践薬学
2) 高血圧および慢性腎不全について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		腎・生殖器疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、カルテ読解演習、実践薬学	衛生・医療系薬学演習、カルテ読解演習、実践薬学
3) フロロヘモセステルンについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		腎・生殖器疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学
4) 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		腎・生殖器疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学
5) 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 慢性腎臓病(CKD)、糸球体腎炎(重複)、補尿病性腎症(重複)、薬剤性腎症(重複)、腎盂腎炎(重複)、膀胱炎(重複)、尿路感染症(重複)		腎・生殖器疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学
6) 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 前立腺肥大症、子宮内閉症、子宮筋腫		腎・生殖器疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学
7) 妊婦、分娩、避妊に関連して用いられる薬物について、薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		腎・生殖器疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学
8) 以下の生殖器系疾患について説明できる。 異常好娠、異常分娩、不妊症		腎・生殖器疾患治療学	衛生・医療系薬学演習	衛生・医療系薬学演習
<b>【4】化学構造と薬効</b>				
1) 循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。		腎・生殖器疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学
<b>【4】呼吸器系薬、消化器系疾患の薬、病態、治療</b>				
1) 気管支喘息について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		免疫疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、カルテ読解演習、実践薬学	衛生・医療系薬学演習、カルテ読解演習、実践薬学
2) 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患(ニコチン依存症を含む)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		免疫疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、カルテ読解演習、実践薬学	衛生・医療系薬学演習、カルテ読解演習、実践薬学
3) 間質性肺炎について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		免疫疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学
4) 鎮咳薬、去痰薬、呼吸器系薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。	薬理学Ⅰ、生物・薬理系薬学演習	免疫疾患治療学	カルテ読解演習、実践薬学	カルテ読解演習、実践薬学
<b>【5】消化器系疾患の薬、病態、治療</b>				
1) 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃食道逆流症(逆流性食道炎を含む)、消化性潰瘍、胃炎		消化器・血液疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学
2) 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病等)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。		消化器・血液疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)		該 当 科 目					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
3)	肝疾患 (肝炎、肝硬変、肝腫瘍 (ウイルス性を含む)、薬剤性肝障害) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			感染症治療学、消化器学、血液疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、カルテ読解演習、実践薬学		
4)	肺炎について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			消化器学・血液疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
5)	胆道疾患 (胆石症、胆道炎) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			消化器学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
6)	過敏性腸症候群 (過敏性腸症候群を含む) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			消化器学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
7)	便秘・下痢について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			消化器学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
8)	悪心・嘔吐について、治療薬 (催吐薬) の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			消化器学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
9)	痔について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			消化器学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
<b>【③】化学構造と薬物</b>							
1) 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。			薬理学Ⅰ、薬理学Ⅱ、生物・薬理系薬学演習	消化器学・血液疾患治療学	実践薬学		
<b>【⑤】代謝系・内分泌系の疾患と薬</b>							
<b>【①】代謝系疾患の薬、病態、治療</b>							
1)	糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			内分泌学	衛生・医療系薬学演習、カルテ読解演習、実践薬学		
2)	脂質異常症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			内分泌学	衛生・医療系薬学演習、カルテ読解演習、実践薬学		
3)	高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			内分泌学	衛生・医療系薬学演習、カルテ読解演習、実践薬学		
<b>【②】内分泌系疾患の薬、病態、治療</b>							
1)	性ホルモン関連薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。		薬理学Ⅱ、生物・薬理系薬学演習	内分泌学	実践薬学		
2)	Besedow (バセドウ) 病について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			内分泌学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
3)	中状腺炎 (慢性 (橋本病)、亜急性) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			内分泌学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
4)	閉経後について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。			内分泌学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
5)	以下の疾患について説明できる。 先端巨大症、甲状腺機能低下症、ADH不適合分泌症候群 (SIADH)、副甲狀腺機能亢進症、低下症、Gushing (クッシング) 症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全 (急性、慢性)、糖尿病、子宮内腫瘍 (重積)、アジソン病 (重積)			内分泌学	衛生・医療系薬学演習		
<b>【③】化学構造と薬物</b>							
1) 代謝系・内分泌系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。				内分泌学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
<b>【⑥】感覚器・皮膚の疾患と薬</b>							
<b>【①】眼疾患の薬、病態、治療</b>							
1)	緑内障について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬理学Ⅰ	眼科学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
2)	白内障について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬理学Ⅰ	眼科学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
3)	加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬理学Ⅰ	眼科学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
4)	以下の疾患について概説できる。 結膜炎 (重積)、網膜症、網膜色素変性症		薬理学Ⅰ	眼科学	衛生・医療系薬学演習		
<b>【②】耳鼻咽喉科疾患の薬、病態、治療</b>							
1)	めまい (動揺病、Meniere (メニエール) 病等) について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。		薬理学Ⅰ	精神神経疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
2)	以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎 (重積)、花粉症、咽頭炎・扁桃腺炎 (重積)、喉頭蓋炎			感染症治療学、免疫疾患治療学	衛生・医療系薬学演習		
<b>【③】皮膚疾患の薬、病態、治療</b>							
1)	アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用)、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 (E2) (2) 【②】免疫・炎症・アレルギーの薬、病態、治療 (参照)		薬理学Ⅱ	免疫疾患治療学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		



1年	2年			3年			4年			5年			6年				
	1年			2年			3年			4年			5年			6年	
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)																	
6) 以下のウイルス感染症 (アリオン病を含む) について、感染経路と予防方法および病態 (病態生理、症状等)、薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 伝染性紅斑 (リンゴ病)、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Grenzfeldt-Jakob (クロイツフェルト-ヤコブ) 病																	
<b>【⑧真菌感染症の薬、病態、治療】</b>																	
1) 抗真菌薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。																	
2) 以下の真菌感染症について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 皮膚真菌病、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症																	
<b>【⑨原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】</b>																	
1) 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) 、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 トキソプラズマ症、クリプトスポリジウム症、アメーバ赤痢、マラリア																	
2) 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) 、および病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 回虫症、鉤虫症、アサギス症																	
<b>【⑩悪性腫瘍】</b>																	
1) 腫瘍の定義 (良性腫瘍と悪性腫瘍の違い) を説明できる。																	
2) 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査 (細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー (腫瘍関連の要素遺伝子、遺伝子産物を含む) ) 、悪性腫瘍の疫学 (がん罹患の現状およびがん死亡の現状) 、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因																	
3) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。																	
<b>【⑪悪性腫瘍の薬、病態、治療】</b>																	
1) 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性) および臨床適用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬																	
2) 抗悪性腫瘍薬に対する毒性獲得機構を説明できる。																	
3) 抗悪性腫瘍薬の主な副作用 (下痢、悪心、嘔吐、白血球減少、皮膚障害 (手足症候群を含む) ) 、血小板減少) の軽減のための対処法を説明できる。																	
4) 代表的ながん化学療法レジメン (FOLFOX等) について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。																	
5) 以下の白血病について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 急性 (慢性) 骨髄性白血病、急性 (慢性) リンパ性白血病、成人細胞白血病 (ALL)																	
6) 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。																	
7) 骨肉腫について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。																	
8) 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌																	
9) 肺癌について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。																	
10) 以下の頭頸部および生殖器の悪性腫瘍について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 鼻咽癌、咽頭癌、喉頭癌、口腔癌、副鼻腔癌、甲状腺癌、乳癌、卵巣癌、子宮癌、前立腺癌、子宮癌、膀胱癌、腎癌、尿管癌の悪性腫瘍 (腎癌、膀胱癌) について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。																	
11) 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。 卵巣癌、子宮癌、前立腺癌、子宮癌、膀胱癌、腎癌、尿管癌の悪性腫瘍 (腎癌、膀胱癌) について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。																	
12) 腎・尿管系の悪性腫瘍 (腎癌、膀胱癌) について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。																	
13) 乳腺について、病態 (病態生理、症状等) ・薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。																	
<b>【⑫がん終末期医療と緩和ケア】</b>																	
1) がん終末期の病態 (病態生理、症状等) と治療を説明できる。																	
2) がん性疼痛の病態 (病態生理、症状等) と薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。																	
<b>【⑬化学療法と薬物】</b>																	
1) 悪性腫瘍治療薬 (抗がん剤) の薬理 (薬理作用、機序、主な副作用) および臨床適用を説明できる。																	
2) 悪性腫瘍治療薬 (抗がん剤) の毒性 (副作用) を説明できる。																	
3) 悪性腫瘍治療薬 (抗がん剤) の薬物動態 (吸収、分布、代謝、排泄) を説明できる。																	
4) 悪性腫瘍治療薬 (抗がん剤) の薬物相互作用を説明できる。																	
5) 悪性腫瘍治療薬 (抗がん剤) の薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。																	
6) 悪性腫瘍治療薬 (抗がん剤) の薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。																	
7) 悪性腫瘍治療薬 (抗がん剤) の薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。																	
8) 悪性腫瘍治療薬 (抗がん剤) の薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。																	
9) 悪性腫瘍治療薬 (抗がん剤) の薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。																	
10) 悪性腫瘍治療薬 (抗がん剤) の薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。																	
11) 悪性腫瘍治療薬 (抗がん剤) の薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。																	
12) 悪性腫瘍治療薬 (抗がん剤) の薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。																	
13) 悪性腫瘍治療薬 (抗がん剤) の薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。																	
14) 悪性腫瘍治療薬 (抗がん剤) の薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。																	
15) 悪性腫瘍治療薬 (抗がん剤) の薬物治療 (医薬品の選択等) を説明できる。																	

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効 (薬理・薬物動態) の関連を概説できる。		生物・薬理系薬学演習	悪性腫瘍治療学・緩和医療、化学療法論、天然薬用資源学			
<b>(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報</b> <b>【①細胞系体医薬品】</b>						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。		生物・薬理系薬学演習	分子細胞生物学II	実践薬学		
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。		生物・薬理系薬学演習	分子細胞生物学II	実践薬学		
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。		生物・薬理系薬学演習	分子細胞生物学II	実践薬学		
<b>【②遺伝子治療】</b>						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)		生物・薬理系薬学演習	分子細胞生物学II			
<b>【③細胞、組織を利用した移植医療】</b>						
1) 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)		生物・薬理系薬学演習	分子細胞生物学II			
2) 臓出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。		生物・薬理系薬学演習	分子細胞生物学II			
3) 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。		生物・薬理系薬学演習	分子細胞生物学II			
4) 胚性幹細胞 (ES細胞)、人工多能性幹細胞 (iPS細胞) を用いた細胞移植医療について概説できる。		生物・薬理系薬学演習	分子細胞生物学II			
<b>(9) 要指導医薬品・一般用医薬品とセルフトリケーション</b>						
1) 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフトリケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。			セルフトリケーション論	衛生・医療系薬学演習、セルフトリケーション演習、実践薬学		
2) 要指導医薬品および一般用医薬品 (リスクの程度に応じた区分 (第一類、第二類、第三類) も含む) について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。			セルフトリケーション論	衛生・医療系薬学演習、セルフトリケーション演習、実践薬学		
3) 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。			セルフトリケーション論	衛生・医療系薬学演習、セルフトリケーション演習、実践薬学		
4) 要指導医薬品、一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。(技能)				衛生・医療系薬学演習、セルフトリケーション演習、実践薬学		
5) 以下の疾患・症候に対するセルフトリケーションに用いる要指導医薬品、一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。 発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病等			セルフトリケーション論	衛生・医療系薬学演習、セルフトリケーション演習、実践薬学		
6) 主な養生法 (運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む) とその健康の保持・促進における意義を説明できる。			セルフトリケーション論	衛生・医療系薬学演習、セルフトリケーション演習、実践薬学		
7) 要指導医薬品、一般用医薬品と医薬用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。			セルフトリケーション論	衛生・医療系薬学演習、セルフトリケーション演習、実践薬学		
8) 要指導医薬品、一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。(技能)			セルフトリケーション論	衛生・医療系薬学演習、セルフトリケーション演習、実践薬学		
<b>(10) 医療中の漢方薬</b> <b>【①漢方薬の基礎】</b>						
1) 漢方の特徴について概説できる。			漢方処方学	衛生・医療系薬学演習、セルフトリケーション演習		
2) 以下の漢方の基本用語を説明できる。 陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証			漢方処方学	衛生・医療系薬学演習、セルフトリケーション演習		
3) 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的分類が説明できる。			漢方処方学	衛生・医療系薬学演習、セルフトリケーション演習		
4) 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などとの相違について説明できる。			漢方処方学	衛生・医療系薬学演習、セルフトリケーション演習		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
<b>【②漢方薬の応用】</b>						
1) 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。		漢方処方学		衛生・医療系薬学演習、セルフメデイケーション演習		
2) 日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。		漢方処方学		衛生・医療系薬学演習、セルフメデイケーション演習		
3) 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。		漢方処方学、天然薬用資源学		衛生・医療系薬学演習、セルフメデイケーション演習		
<b>【③漢方薬の注意点】</b>						
1) 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。		漢方処方学、天然薬用資源学		衛生・医療系薬学演習、セルフメデイケーション演習		
<b>【(1) 薬物治療の最適化</b>						
<b>【①総合演習】</b>						
1) 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。(知識・態度)				衛生・医療系薬学演習、カルテ読解演習、クリニカルバス演習、セルフメデイケーション演習、実践薬学		
2) 過剰量の医薬品による副作用への対応(解毒薬を含む)を討議する。(知識・態度)				衛生・医療系薬学演習、カルテ読解演習、セルフメデイケーション演習、実践薬学		
3) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。(知識・態度)				衛生・医療系薬学演習、カルテ読解演習、クリニカルバス演習、セルフメデイケーション演習、実践薬学		
<b>E3 薬物治療に役立つ情報</b>						
<b>【(1) 医薬品情報</b>						
<b>【①情報】</b>						
1) 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる。				医薬品情報学、衛生・医療系薬学演習、DI演習	医薬品開発演習	
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。				医薬品情報学、衛生・医療系薬学演習、DI演習	医薬品開発演習	
3) 医薬品(後発医薬品等を含む)の開発過程で行われる試験(非臨床試験、臨床試験、安定性試験等)と得られる医薬品情報について概説できる。				医薬品情報学、医薬品開発論、衛生・医療系薬学演習、DI演習		
4) 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。				医薬品情報学、医薬品開発論、衛生・医療系薬学演習、DI演習		
5) 医薬品情報に關係する代表的な法律・制度(「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GMP、GVP、GPSP、RMP など)とレギュラトリーサイエンスについて概説できる。				医薬品情報学、衛生・医療系薬学演習、DI演習	医薬品開発演習	
<b>【②情報源】</b>						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。				医薬品情報学、衛生・医療系薬学演習、DI演習		
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。				医薬品情報学、衛生・医療系薬学演習、DI演習		
3) 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。				医薬品情報学、衛生・医療系薬学演習、DI演習		
4) 医薬品添付文書(医療用、一般用)の法的位置づけについて説明できる。				医薬品情報学、衛生・医療系薬学演習、DI演習		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 医薬品添付文書 (医療用、一般用) の記載項目 (警告、禁忌、効果、効果・用量、用法・用量、使用上の注意など) を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。				医薬品情報学、衛生・医療系薬学演習、DI演習		
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。				医薬品情報学、衛生・医療系薬学演習、DI演習、実践薬学		
<b>【③収集・評価・加工・提供・管理】</b>						
1) 目的 (効果効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への授与、中毒など) に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)			医療系薬学実習	衛生・医療系薬学演習、DI演習、実践薬学	医薬品開発演習	
2) MEDLINEなどの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索できる。(知識・技能)			医療系薬学実習	衛生・医療系薬学演習、DI演習		
3) 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。				医薬品情報学、衛生・医療系薬学演習、DI演習		
4) 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。(技能)				衛生・医療系薬学演習、DI演習		
5) 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点 (知的所有権、著作権など) について説明できる。				医薬品情報学、衛生・医療系薬学演習、DI演習	医薬品開発演習	
<b>【④EBM (Evidence-based Medicine)】</b>						
1) EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。			統計学	衛生・医療系薬学演習、DI演習、カルテ読解演習、クリニック、ハイム演習、セルフメディケーション演習		
2) 代表的な臨床研究法 (ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など) の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。			公衆衛生学、統計学	衛生・医療系薬学演習、DI演習		
3) 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性 (研究結果の正確度や再現性) と外的妥当性 (研究結果の一般化の可能性) について概説できる。 (E3. (1) 【③収集・評価・加工・提供・管理】参照)				衛生・医療系薬学演習、DI演習		
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。			公衆衛生学	衛生・医療系薬学演習、DI演習		
<b>【⑤生物統計】</b>						
1) 臨床研究における基本的な統計量 (平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など) の意味と違いを説明できる。			統計学	衛生・医療系薬学演習		
2) 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。			統計学	衛生・医療系薬学演習		
3) 代表的な分布 (正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、 $\chi^2$ 分布、F分布) について概説できる。			統計学	衛生・医療系薬学演習		
4) 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。			統計学	衛生・医療系薬学演習		
5) 二群間の差の検定 (t検定、 $\chi^2$ 検定など) を実施できる。(技能)			統計学、医療系薬学実習	衛生・医療系薬学演習		
6) 主な回帰分析 (直線回帰、ロジスティック回帰など) と相関係数の検定について概説できる。			統計学	衛生・医療系薬学演習		
7) 基本的な生存時間解析法 ( Kaplan-Meier 曲線など) について概説できる。			統計学	衛生・医療系薬学演習		
<b>【⑥臨床研究デザインと解析】</b>						
1) 臨床研究 (治験を含む) の代表的な手法 (介入研究、観察研究) を列挙し、それらの特徴を概説できる。				医薬品開発論、衛生・医療系薬学演習	医薬品開発演習	
2) 臨床研究におけるバイアス、交絡について概説できる。				医薬品開発論、衛生・医療系薬学演習	医薬品開発演習	
3) 観察研究での主な疫学研究デザイン (症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など) について概説できる。			統計学	医薬品開発論、衛生・医療系薬学演習	医薬品開発演習	
4) 副作用の因果関係を評価するための方法 (副作用判定アルゴリズムなど) について概説できる。				医薬品開発論、衛生・医療系薬学演習	医薬品開発演習	
5) 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。				医薬品開発論、衛生・医療系薬学演習	医薬品開発演習	

	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)						
6) 介入研究の計画上の技法 (症例数設定、ランダム化、盲検化など) について概説できる。				医薬品開発論、衛生・医療系薬学演習	医薬品開発演習	
7) 統計解析時の注意点について概説できる。				医薬品開発論、衛生・医療系薬学演習	医薬品開発演習	
8) 介入研究の効果指標 (真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント) の違いを、例を挙げて説明できる。				医薬品開発論、衛生・医療系薬学演習		
9) 臨床研究の結果 (有効性・安全性) の主なパラメータ (相対リスク、絶対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合) を説明し、計算できる。(知識・技能)			統計学	医薬品開発論、衛生・医療系薬学演習		
<b>【①医薬品の比較・評価】</b>						
1) 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。				医薬品情報学、衛生・医療系薬学演習、DI演習		
2) 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。(技能)				衛生・医療系薬学演習、DI演習		
3) 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・評価できる。(技能)				衛生・医療系薬学演習、DI演習		
<b>(2) 患者情報</b>						
<b>【①情報と情報源】</b>						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。			患者コミュニケーション	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。			患者コミュニケーション	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
<b>【②収集・評価・管理】</b>						
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。				衛生・医療系薬学演習、プレファーマシー実習		
2) SOAP形式などの患者情報の記録方法について説明できる。				衛生・医療系薬学演習、プレファーマシー実習		
3) 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。				衛生・医療系薬学演習、プレファーマシー実習		
4) 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。			患者コミュニケーション	衛生・医療系薬学演習、実践薬学	医薬品開発演習	
<b>(3) 個別化医療</b>						
<b>【①遺伝的素因】</b>						
1) 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。				臨床薬物動態学、衛生・医療系薬学演習		
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因 (薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など) について、例を挙げて説明できる。				臨床薬物動態学、衛生・医療系薬学演習		
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。				臨床薬物動態学、衛生・医療系薬学演習		
<b>【②年齢的素因】</b>						
1) 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				臨床薬物動態学、衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
2) 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				臨床薬物動態学、衛生・医療系薬学演習		
<b>【③臓器機能低下】</b>						
1) 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。				臨床薬物動態学、衛生・医療系薬学演習		
2) 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。				臨床薬物動態学、衛生・医療系薬学演習		
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。				臨床薬物動態学、衛生・医療系薬学演習		
<b>【④その他の素因】</b>						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 薬物の効果に影響する生理的要因 (性差、閉経、日内変動など) を列挙できる。				臨床薬物動態学、衛生・医療系薬学演習		
2) 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。				臨床薬物動態学、衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
3) 栄養状態の異なる患者 (肥満、低アルブミン血症、腹水など) における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。				臨床薬物動態学、衛生・医療系薬学演習		
<b>【⑤個別化医療の計画・立案】</b>						
1) 個別の患者情報 (遺伝的要因、年齢的要因、臓器機能など) と医薬品情報をもとに、薬物治療を計画・立案できる。(技能)			医療系薬学実習	臨床薬物動態学、力フルネ脱離演習、セルフメディケーション演習、実践薬学		
2) コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。				臨床薬物動態学、衛生・医療系薬学演習		
<b>E4 薬の生体内運命</b>						
<b>【①薬物の体内動態】</b>						
<b>【①生体内運命】</b>						
1) 薬物の生体内透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。			生物薬剤学	衛生・医療系薬学演習		
2) 薬物の生体内透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。			生物薬剤学	衛生・医療系薬学演習		
<b>【②吸収】</b>						
1) 経口投与された薬物の吸収について説明できる。			生物薬剤学	衛生・医療系薬学演習		
2) 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。			生物薬剤学	衛生・医療系薬学演習		
3) 薬物の吸収に影響する因子 (薬物の物性、生理学的要因など) を列挙し、説明できる。			生物薬剤学	衛生・医療系薬学演習		
4) 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			生物薬剤学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
5) 初回通過効果について説明できる。			医療系薬学実習、生物薬剤学	衛生・医療系薬学演習		
<b>【③分布】</b>						
1) 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。			生物薬剤学	衛生・医療系薬学演習		
2) 薬物の組織移行性 (分布容積) と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。			生物薬剤学	衛生・医療系薬学演習		
3) 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。			生物薬剤学、医療系薬学実習	衛生・医療系薬学演習		
4) 血液-組織間門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。			生物薬剤学	衛生・医療系薬学演習		
5) 薬物のリンパ管および乳汁中への移行について説明できる。			生物薬剤学	衛生・医療系薬学演習		
6) 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			生物薬剤学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
<b>【④代謝】</b>						
1) 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式について説明できる。			生物薬剤学	衛生・医療系薬学演習		
2) 薬物代謝の第I相反応 (酸化・還元・加水分解)、第II相反応 (抱合) について、例を挙げて説明できる。			生物薬剤学	衛生・医療系薬学演習		
3) 代表的な薬物代謝酵素 (分子種) により代謝される薬物を列挙できる。			生物薬剤学	衛生・医療系薬学演習		
4) プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。			生物薬剤学	衛生・医療系薬学演習		
5) 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。			生物薬剤学	衛生・医療系薬学演習、実践薬学		
<b>【⑤排泄】</b>						
1) 薬物の尿中排泄機構について説明できる。			生物薬剤学、医療系薬学実習	衛生・医療系薬学演習		
2) 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。			生物薬剤学	衛生・医療系薬学演習		
3) 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。			生物薬剤学	衛生・医療系薬学演習		
4) 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。			生物薬剤学	衛生・医療系薬学演習		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
5) 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			生物薬理学, 医療系薬学実習	衛生・医療系薬学演習, 実践薬学		
<b>(2) 薬物動態の解析</b>						
<b>【①薬物速度論】</b>						
1) 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ (全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など) の概念を説明できる。			薬物動態学, 医療系薬学実習	衛生・医療系薬学演習		
2) 線形1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる (急速静注・経口投与 [再回および反復投与] 定速静注) (知識・技能)			薬物動態学, 医療系薬学実習			
3) 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。(知識・技能)						
4) モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。			薬物動態学	衛生・医療系薬学演習		
5) 組織クリアランス (肝、腎) および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。			薬物動態学	衛生・医療系薬学演習		
6) 薬物動態学一薬カウ解析 (PK-PD解析) について概説できる。			薬物動態学	衛生・医療系薬学演習		
<b>【②TDM (Therapeutic Drug Monitoring) と投与設計】</b>						
1) 治療薬物モニタリング (TDM) の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。			薬物動態学	衛生・医療系薬学演習, 実践薬学		
2) TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。			薬物動態学	衛生・医療系薬学演習, 実践薬学		
3) 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識・技能)			薬物動態学, 医療系薬学実習	カルテ読解演習, クリニカルパス演習, 実践薬学		
4) ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。			薬物動態学	衛生・医療系薬学演習		
<b>E5 製剤化のサイエンス</b>						
<b>(1) 製剤の性質</b>						
<b>【①固形材料】</b>						
1) 粉体の性質について説明できる。		物理薬理学		衛生・医療系薬学演習		
2) 結晶 (安定形および準安定形) や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。		物理薬理学		衛生・医療系薬学演習		
3) 固形材料の溶解現象 (溶解度、溶解平衡など) や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。(2) 【①酸・塩基平衡】1. 及び 【②各種の化学平衡】2. 参照)		物理薬理学		衛生・医療系薬学演習, 実践薬学		
4) 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子 (pHや温度など) について説明できる。		物理薬理学		衛生・医療系薬学演習, 実践薬学		
5) 固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。		物理薬理学		衛生・医療系薬学演習, 実践薬学		
<b>【②半固形・液体材料】</b>						
1) 流動と変形 (レオロジー) について説明できる。		物理薬理学		衛生・医療系薬学演習		
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質 (粘度など) について説明できる。		物理薬理学		衛生・医療系薬学演習		
<b>【③分散系材料】</b>						
1) 界面の性質 (界面張力、分配平衡、吸着など) や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。(2) 【②各種の化学平衡】4. 参照)		物理薬理学		衛生・医療系薬学演習		
2) 代表的な分散系 (分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など) を列挙し、その性質について説明できる。		物理薬理学		衛生・医療系薬学演習		
3) 分散した粒子の安定性と分離現象 (沈降など) について説明できる。		物理薬理学		衛生・医療系薬学演習		
4) 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。		物理薬理学		衛生・医療系薬学演習		
<b>【④薬物及び賦形材料の物性】</b>						
1) 製剤分野で用いられる高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。		物理薬理学		衛生・医療系薬学演習		
2) 薬物の安定性 (反応速度、複合反応など) や安定性に影響を及ぼす因子 (pH、温度など) について説明できる。(1) 【③】 【①反応速度】1. ~7. 参照)		物理薬理学		衛生・医療系薬学演習		
3) 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。		物理薬理学		衛生・医療系薬学演習		
<b>(2) 製剤設計</b>						
<b>【①代表的な製剤】</b>						
1) 製剤化の概要と意義について説明できる。				製剤学, 衛生・医療系薬学演習		

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）						
2) 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。				製剤学 衛生・医療 系薬学演習		
3) 粘膜に適用する製剤（点眼剤、吸入剤など）の種類とその特性について説明できる。				製剤学 衛生・医療 系薬学演習		
4) 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。				製剤学 衛生・医療 系薬学演習		
5) 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。				製剤学 衛生・医療 系薬学演習		
6) その他の製剤（生薬関連製剤、透析に用いる製剤など）の種類と特性について説明できる。				製剤学 衛生・医療 系薬学演習		
<b>【②製剤化と製剤試験法】</b>						
1) 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。				製剤学 衛生・医療 系薬学演習		
2) 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。				製剤学 衛生・医療 系薬学演習		
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。				製剤学 衛生・医療 系薬学演習		
4) 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。				製剤学 衛生・医療 系薬学演習		
<b>【③生物学的同等性】</b>						
1) 製剤の特性（適用部位、製剤からの薬物の放出性など）を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。				製剤学 衛生・医療 系薬学演習		
<b>【③ DDS (Drug Delivery System) : 薬物送達システム】</b>						
<b>【①DDS の必要性】</b>						
1) DDS の概念と有用性について説明できる。				製剤学 衛生・医療 系薬学演習		
2) 代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。 （プロドラッグについては、E4(1)【4代註】4.も参照）				製剤学 衛生・医療 系薬学演習		
<b>【②コントロールリリース（放出制御）】</b>						
1) コントロールリリースの概要と意義について説明できる。				製剤学 衛生・医療 系薬学演習		
2) 投与部位ごとに、代表的なコントロールリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。				製剤学 衛生・医療 系薬学演習		
3) コントロールリリース技術を採用した代表的な医薬品を列挙できる。				製剤学 衛生・医療 系薬学演習		
<b>【③ターゲットティング（標的指向化）】</b>						
1) ターゲットティングの概要と意義について説明できる。				製剤学 衛生・医療 系薬学演習		
2) 投与部位ごとに、代表的なターゲットティング技術を列挙し、その特性について説明できる。				製剤学 衛生・医療 系薬学演習		
3) ターゲットティング技術を採用した代表的な医薬品を列挙できる。				製剤学 衛生・医療 系薬学演習		
<b>【④吸収改善】</b>						
1) 吸収改善の概要と意義について説明できる。				製剤学 衛生・医療 系薬学演習		
2) 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。				製剤学 衛生・医療 系薬学演習		
3) 吸収改善技術を採用した代表的な医薬品を列挙できる。				製剤学 衛生・医療 系薬学演習		
<b>F 薬学臨床</b>						
前)：病院・薬局での実務実習履修前に修得すべき事項						
<b>【①薬学臨床の基礎】</b>						
<b>【①早期臨床体験】</b> ※原則として2年次修了までに学習する事項						
1) 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する。(知識・態度)	早期体験学習					
2) 地域の保健・福祉を契機とした具体的な体験に基づきその重要性や課題を討議する。(知識・態度)	早期体験学習					
3) 一次救命処置（心肺蘇生、外傷対応等）を説明し、シミュレータを用いて実施できる。 (知識・技能)				フィンカールアセスメント実習		
<b>【②臨床における心構え】</b> [A (1)、(2) 参照]						
1) 前) 医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。(態度)		患者安全				①) 演習、カルテ読解演習、カリニカルハス演習、セルフメテイクセッション演習、プレファーマシー実習

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
2) 前) 患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。(態度)		患者安全		カルテ読解演習、クリニカルバス演習、セルフメデイクエーション演習、プレファーマーシュー実習		
3) 前) 患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。(態度)				カルテ読解演習、クリニカルバス演習、セルフメデイクエーション演習、プレファーマーシュー実習		
4) 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する。(態度)					薬学臨床実習	
5) 患者・生活者の基本的人権、自己決定権について配慮する。(態度)					薬学臨床実習	
6) 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。(態度)					薬学臨床実習	
7) 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。(態度)					薬学臨床実習	
<b>③臨床実習の目標</b>						
1) 前) 病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。				プレファーマーシュー実習		
2) 前) 病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。				プレファーマーシュー実習		
3) 前) 病院薬剤師部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。				プレファーマーシュー実習		
4) 前) 病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。				クリニカルバス演習、プレファーマーシュー実習、実践薬学		
5) 前) 薬剤師の関わる社会保障制度(医療、福祉、介護)の概略を説明できる。 (B・(3)①参照)			社会学	実践薬学		
6) 病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。					薬学臨床実習	
7) 代表的な薬品の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。					薬学臨床実習	
8) 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることをできる。(態度)					薬学臨床実習	
9) 急性期医療(救急医療・集中治療・外科治療等)や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。					薬学臨床実習	
10) 同僚薬剤師や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。					薬学臨床実習	
11) 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。					薬学臨床実習	
12) 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。					薬学臨床実習	
13) 保険診療要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。					薬学臨床実習	
14) 保険診療要件を薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。					薬学臨床実習	
15) 薬局の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることをできる。(知識・態度)					薬学臨床実習	
<b>(2) 処方せんに基づく調剤</b>						
<b>①法令・規制等の理解と遵守</b> (B・(2)、(3)参照)						
1) 前) 調剤業務に関わる事項(処方せん、調剤録、処方照会等)の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。					実践薬学	
2) 調剤業務に関わる法的文書(処方せん、調剤録等)の適切な記載と保存・管理ができる。(知識・技能)						薬学臨床実習
3) 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。(技能・態度)						薬学臨床実習
4) 医薬品局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。						薬学臨床実習
<b>②処方せんと薬量照会</b>						
1) 前) 代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果・用量・用法、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。				カルテ読解演習、実践薬学		
2) 前) 処方オーダーダングシステムおよび電子カルテについて概説できる。				カルテ読解演習、プレファーマーシュー実習		
3) 前) 処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。				実践薬学		
4) 前) 処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。				実践薬学		
5) 前) 処方せんの監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。				実践薬学		
6) 前) 処方せん等に基づき薬量照会ができる。(技能・態度)				プレファーマーシュー実習		
7) 処方せんの記載事項(医薬品名、分量、用法・用量等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)					薬学臨床実習	
8) 注釈薬処方せんの記載事項(医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等)が適切であるか確認できる。(知識・技能)					薬学臨床実習	
9) 処方せんの正しい記載方法を例示できる。(技能)					薬学臨床実習	
10) 薬歴、診療録、患者の状態から処方方が妥当であるか判断できる。(知識・技能)					薬学臨床実習	
11) 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に薬量照会ができる。(技能・態度)					薬学臨床実習	
<b>③処方せんに基づく医薬品の調製</b>						

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1) 前) 薬袋、薬札 (ラベル) に記載すべき事項を適切に記入できる。(技能)				プレファーマシー実習		
2) 前) 主な医薬品の成分 (一般名)、商標名、剤形、規格等を列挙できる。				プレファーマシー実習		
3) 前) 処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。(技能)				プレファーマシー実習		
4) 前) 後発医薬品選択の手順を説明できる。				プレファーマシー実習		
5) 前) 代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。				プレファーマシー実習		
6) 前) 無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。(知識・技能)				プレファーマシー実習		
7) 前) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いはおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。(技能)				プレファーマシー実習		
8) 前) 処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。(知識・技能)				プレファーマシー実習		
9) 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製剤を選択できる。(知識・技能)					薬学臨床実習	
10) 適切な手順で後発医薬品を選択できる。(知識・技能)					薬学臨床実習	
11) 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。(技能)					薬学臨床実習	
12) 錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。(知識・技能)					薬学臨床実習	
13) 一回量 (一包化) 調剤の必要性を判断し、実施できる。(知識・技能)					薬学臨床実習	
14) 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる。(技能)					薬学臨床実習	
15) 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関する回避方法を列挙できる。					薬学臨床実習	
16) 注射剤 (高カロリー輸液等) の無菌的混合操作を実施できる。(技能)					薬学臨床実習	
17) 抗悪性腫瘍薬などの取扱いはおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる。(知識・技能)					薬学臨床実習	
18) 特別な注意を要する医薬品 (劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等) の調剤と適切な取扱いができる。(知識・技能)					薬学臨床実習	
19) 調剤された薬剤に対して、監査が実施できる。(知識・技能)					薬学臨床実習	
<b>【④患者・来局者対応、服薬指導、患者教育】</b>						
1) 前) 適切な態度で、患者・来局者と応対できる。(態度)			患者コミュニケーション	セルフメデイケーショントレーニング実習、プレファーマシー実習		
2) 前) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの応対や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。				セルフメデイケーショントレーニング実習、実践薬学		
3) 前) 患者・来局者から、必要な情報 (症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等) を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)				セルフメデイケーショントレーニング実習、プレファーマシー実習		
4) 前) 患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。(技能・態度)				セルフメデイケーショントレーニング実習、プレファーマシー実習、フレアメント実習		
5) 前) 代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。				フレアメント実習、セルフメデイケーショントレーニング実習、実践薬学		
6) 前) 患者・来局者に使用上の説明が必要な調剤 (眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等) の取扱いは方法を説明できる。(技能・態度)				セルフメデイケーショントレーニング実習、プレファーマシー実習		
7) 前) 薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。				セルフメデイケーショントレーニング実習、プレファーマシー実習		
8) 前) 代表的な疾患の症例についての患者対応の内容を適切に記録できる。(技能)				セルフメデイケーショントレーニング実習		
9) 患者・来局者に合わせて適切な応対ができる。(態度)					薬学臨床実習	
10) 患者・来局者から、必要な情報 (症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等) を適切な手順で聞き取ることができる。(知識・態度)					薬学臨床実習	
11) 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。(知識・態度)					薬学臨床実習	
12) 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。(知識・態度)					薬学臨床実習	
13) 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な対応ができる。(知識・態度)					薬学臨床実習	
14) お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。(態度)					薬学臨床実習	

1年	2年			3年			4年			5年			6年		
<p>平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)</p> <p>15) 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。(知識・技能)</p>															
<p>【⑤医薬品の供給と管理】</p>															
<p>1) 前) 医薬品管理の意義と必要性について説明できる。</p> <p>2) 前) 医薬品管理の流れを概説できる。</p> <p>3) 前) 劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚醒剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。</p> <p>4) 前) 特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。</p> <p>5) 前) 代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。</p> <p>6) 前) 院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。</p> <p>7) 前) 薬局製剤・漢方製剤について概説できる。</p> <p>8) 前) 医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。</p> <p>9) 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。(知識・技能)</p> <p>10) 医薬品の適切な在庫管理を実施する。(知識・技能)</p> <p>11) 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。</p> <p>12) 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。(知識・技能)</p> <p>13) 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する。(知識・技能)</p>															
<p>【⑥安全管理】</p> <p>1) 前) 処方から服薬(投薬)までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。</p> <p>2) 前) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の特徴と注意点を列挙できる。</p> <p>3) 前) 代表的なインジケーション(ヒヤリハット)、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体的な発生後の適切な対処法を討議する。(知識・態度)</p> <p>4) 前) 感染予防の基本的考え方とその方法を説明できる。</p> <p>5) 前) 衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。(技能)</p> <p>6) 前) 代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。</p> <p>7) 前) 医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。</p> <p>8) 特にリスクの高い代表的な医薬品(抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等)の安全管理を体験する。(知識・技能・態度)</p> <p>9) 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。</p> <p>10) 施設内のインジケーション(ヒヤリハット)アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体的な発生後の適切な対処法を提案することができる。(知識・態度)</p> <p>11) 施設内の安全管理指針を遵守する。(態度)</p> <p>12) 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する。(技能)</p> <p>13) 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。(技能・態度)</p> <p>14) 院内での感染対策(予防、蔓延防止など)について具体的な提案ができる。(知識・態度)</p>															
<p>【⑦薬物療法の実践】</p>															
<p>【⑧患者情報の把握】</p> <p>1) 前) 基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。</p> <p>2) 前) 患者および種々の情報源(診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度) [E3(2)①参照]</p> <p>3) 前) 身体所見の観察・測定(フィジカルアセスメント)の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。</p>															
<p>0) 演習、カルテ読解演習、クリニカルハラス演習、セルフメデイケーション演習、プレファーマシー演習、健康薬学演習、カルテ読解演習、クリニカルハラス演習、セルフメデイケーション演習、プレファーマシー演習、薬学臨床実習、薬学臨床実習、薬学臨床実習、薬学臨床実習、薬学臨床実習、薬学臨床実習</p>															

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 前) 基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる。(知識・技能)				カルテ読解演習、セルフメテイクेशन演習、フイジカルアセスメント実習		
5) 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる。(知識・態度)					薬学臨床実習	
6) 患者・来局者および種々の情報源(診療録、薬歴、指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等)から、薬物療法に必要な情報を収集できる。(技能・態度)					薬学臨床実習	
7) 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。(技能・態度)					薬学臨床実習	
<b>【②医薬品情報の収集と活用】 [E3 (1) 参照]</b>						
1) 前) 薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。(知識・技能)				①) 演習、カルテ読解演習、クリニカルバス演習、セルフメテイクेशन演習、プレファーマシー実習、実践薬学		
2) 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる。(知識・技能)					薬学臨床実習	
3) 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。(知識・技能)					薬学臨床実習	
4) 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。(知識・態度)					薬学臨床実習	
5) 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する。(知識・技能)					薬学臨床実習	
6) 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。(知識・態度)					薬学臨床実習	
<b>【③処方設計と薬物療法の実践 (処方設計と提案)】</b>						
1) 前) 代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。				カルテ読解演習、プレファーマシー実習、実践薬学		
2) 前) 痛能(肝・腎障害など)や生理的特性(妊婦・授乳婦、小児、高齢者など)等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。				カルテ読解演習、クリニカルバス演習、セルフメテイクेशन演習、プレファーマシー実習、実践薬学		
3) 前) 患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。				カルテ読解演習、セルフメテイクेशन演習、実践薬学		
4) 前) 皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。				カルテ読解演習、フイジカルアセスメント実習		
5) 前) 代表的な輸液の種類と適応を説明できる。				臨床薬学、カルテ読解演習、クリニカルバス演習、プレファーマシー実習		
6) 前) 患者の栄養状態や体流量、電解質の過不足などが評価できる。				臨床薬学、カルテ読解演習、クリニカルバス演習、プレファーマシー実習、実践薬学		
7) 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。					薬学臨床実習	
8) 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方立案ができる。					薬学臨床実習	
9) 患者の状態(発熱、重症度、合併症、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等)や薬剤の特徴(作用機序や薬理的性質等)に基づき、適切な処方提案ができる。(知識・態度)					薬学臨床実習	
10) 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルバスを活用できる。(知識・態度)					薬学臨床実習	
11) 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。(知識・態度)					薬学臨床実習	
12) アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。(知識・態度)					薬学臨床実習	
13) 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。					薬学臨床実習	
14) 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に押しやすき説明できる。(知識・態度)					薬学臨床実習	
<b>【④処方設計と薬物療法の要諦 (薬物療法における効果と副作用の評価)】</b>						
1) 前) 代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。				カルテ読解演習、クリニカルバス演習、プレファーマシー実習、実践薬学		
2) 前) 代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる。(知識・技能)				カルテ読解演習、クリニカルバス演習、プレファーマシー実習		

平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
3) 前) 代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で記録できる。(知識・技能)				プレファーマシー実習、実践薬学		
4) 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる。(知識・態度)					薬学臨床実習	
5) 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定の実行ができる。(知識・態度)					薬学臨床実習	
6) 薬物血中濃度の推移から薬物療法との関連性を説明できる。					薬学臨床実習	
7) 臨床検査値の解釈と使用医薬品の関連性を説明できる。					薬学臨床実習	
8) 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。					薬学臨床実習	
9) 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。					薬学臨床実習	
10) 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。(知識・態度)					薬学臨床実習	
11) 報告に必要な要素(5M1H)に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。(技能)					薬学臨床実習	
12) 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録する。(知識・技能)					薬学臨床実習	
13) 医薬品・医療機器等致安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。(知識・技能)					薬学臨床実習	
<b>(4) チーム医療への参画 [A (4) 参照]</b>						
<b>【①医療機関におけるチーム医療】</b>						
1) 前) チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。				プレファーマシー実習、実践薬学		
2) 前) 多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。				プレファーマシー実習、実践薬学		
3) 前) 病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法(連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)を説明できる。				カリ予読解演習、クリニカルパス演習、セルフメディケーション演習、実践薬学		
4) 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる。(態度)					薬学臨床実習	
5) 医師・看護師等の職種と患者の状態(病状、検査値、アレルギ歴、心理、生活環境等)、治療開始後の変化(治療効果、副作用、心理状態、QOL等)の情報を共有する。(知識・態度)					薬学臨床実習	
6) 医薬品チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療方針と治療方針について討議(カンファレンスや患者回診等)する。(知識・態度)					薬学臨床実習	
7) 医師・看護師等の医療スタッフと連携、協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する。(知識・態度)					薬学臨床実習	
8) 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。(知識・態度)					薬学臨床実習	
9) 病院内の多様な医療チーム(ICU、NSI、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等)で参加できる。(知識・態度)					薬学臨床実習	
<b>【②地域におけるチーム医療】</b>						
1) 前) 地域の保健・医療、福祉に関わる職種とその連携体制(地域包括ケア)およびその意義について説明できる。				セルフメディケーション演習、実践薬学		
2) 前) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。(知識・態度)				セルフメディケーション演習、プレファーマシー実習、実践薬学		
3) 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。(知識・態度)					薬学臨床実習	
4) 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。(技能・態度)					薬学臨床実習	
<b>【③在宅(訪問)医療・介護への参画】</b>						
1) 前) 在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。				セルフメディケーション演習、実践薬学		
2) 前) 在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。				セルフメディケーション演習、実践薬学		
3) 前) 在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。				セルフメディケーション演習、実践薬学		
4) 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務(訪問薬剤師指導業務、居宅療養管理指導業務)を体験する。(知識・態度)					薬学臨床実習	
5) 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。(知識・態度)					薬学臨床実習	
6) 在宅患者の病状(症状、疾患と重症度、栄養状態等)とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。(知識・態度)					薬学臨床実習	
<b>【④地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への参画】</b>						

	該当科目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
平成25年度改訂版・薬学教育モデル・コアカリキュラム(SBOs)						
1) 前) 地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動(薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等)について説明できる。				セルフメデイケーショントレーニング実習、実践薬学		
2) 前) 公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。			保健衛生学	セルフメデイケーショントレーニング実習、実践薬学		
3) 学校薬剤師の業務を体験する。(知識・技能)					薬学臨床実習	
4) 地域住民の衛生管理(消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の認識)の予防等)における薬剤師活動を体験する。(知識・技能)					薬学臨床実習	
<b>【③プライマリケア、セルフメデイケーションの実践】 [E2 (9) 参照]</b>						
1) 前) 現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメデイケーションの重要性を討議する。(態度)				セルフメデイケーショントレーニング実習、実践薬学		
2) 前) 代表的な症候(頭痛・腰痛・発熱等)を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応ができる。(知識・態度)			セルフメデイケーショントレーニング実習	セルフメデイケーショントレーニング実習、実践薬学		
3) 前) 代表的な症候に対する薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。(技能・態度)				セルフメデイケーショントレーニング実習、実践薬学		
4) 前) 代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。(知識・態度)				セルフメデイケーショントレーニング実習、実践薬学		
5) 薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品、一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等リスクリスクに応じ適切な取り扱い管理ができる。(知識・態度)					薬学臨床実習	
6) 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状(疾患、重症度等)や体調を推測できる。(知識・態度)					薬学臨床実習	
7) 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応(医師への受診勧奨、緊急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および健康食品などの推奨、生活指導等)を選択できる。(知識・態度)					薬学臨床実習	
8) 選択した薬局製剤(漢方製剤含む)、要指導医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点を来局者に適切に割りやすく説明できる。(知識・態度)					薬学臨床実習	
9) 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。(知識・態度)					薬学臨床実習	
<b>【④災害時医療と薬剤師】</b>						
1) 前) 災害時医療について概説できる。					実践薬学	
2) 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。					薬学臨床実習	
3) 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する。(態度)					薬学臨床実習	
<b>Ⅱ 薬学研究</b>						
<b>(1) 薬学における研究の位置づけ</b>						
1) 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。					薬学研究 I	薬学研究 II
2) 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。					薬学研究 I	薬学研究 II
3) 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度)					薬学研究 I	薬学研究 II
4) 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度)					薬学研究 I	薬学研究 II
<b>(2) 研究に必要な法規範と倫理</b>						
1) 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。					薬学研究 I	薬学研究 II
2) 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。					薬学研究 I	薬学研究 II
3) 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度) A-(2)-④-3再掲					薬学研究 I	薬学研究 II
<b>(3) 研究の実践</b>						
1) 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、概説、評価できる。(知識・技能)					薬学研究 I	薬学研究 II
2) 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立てる。(知識・技能)					薬学研究 I	薬学研究 II
3) 研究計画に沿って、意図的に研究を実施できる。(技能・態度)					薬学研究 I	薬学研究 II
4) 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度)					薬学研究 I	薬学研究 II
5) 研究成果の効率的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度)					薬学研究 I	薬学研究 II
6) 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)					薬学研究 I	薬学研究 II

(基礎資料3-1) 評価実施年度における学年別在籍状況

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
入学年度の入学定員 <sup>1)</sup>	220	220	220	220	220	220
入学時の学生数 <sup>2)</sup>	247	213	232	219	232	249
在籍学生数 <sup>3)</sup>	276	209	216	206	216	232
過年度在籍者数 <sup>4)</sup>	留年による者	25	31	26	33	27
	休学による者	4	1	1	1	0
編入学などによる在籍者数	0	1	0	0	0	1
ストレート在籍者数 <sup>5)</sup>	247	176	189	172	189	174
ストレート在籍率 <sup>6)</sup>	100.0%	82.6%	81.5%	78.5%	81.5%	69.9%
過年度在籍率 <sup>7)</sup> (C+D) / B	11%	15%	13%	17%	13%	25%

- [注]
- 1) 各学年が入学した年度の入学選抜で設定されていた入学定員を記載してください。
  - 2) 当該学年が入学した時点での実入学者を記載してください。
  - 3) 評価実施年度の5月1日現在における各学年の在籍学生数を記載してください。
  - 4) 過年度在籍者数を「留年による者」と「休学による者」に分けて記載してください。休学と留年が重複する学生は留年者に算入してください。
  - 5) (在籍学生数) - { (過年度在籍者数) + (編入学などによる在籍者数) } を記載してください。  
ストレート在籍者数 {B-(C+D+E)}
  - 6) (ストレート在籍者数) / (入学時の学生数) の値を%で記載してください。
  - 7) (過年度在籍者数) / (在籍学生数) の値を%で記載してください。

(基礎資料 3 - 2) 評価実施年度の直近 5 年間における 6 年制学科の学年別進級状況

		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
1年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	251	227	249	232	276
	休学者数 <sup>2)</sup>	3	3	2	5	7
	退学者数 <sup>2)</sup>	14	12	9	15	14
	留年者数 <sup>2)</sup>	6	14	18	26	28
	進級率 <sup>3)</sup>	90.8%	87.2%	88.4%	80.2%	82.2%
2年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	254	248	222	235	209
	休学者数 <sup>2)</sup>	1	3	2	1	1
	退学者数 <sup>2)</sup>	12	7	14	7	6
	留年者数 <sup>2)</sup>	18	21	15	24	34
	進級率 <sup>3)</sup>	87.8%	87.5%	86.0%	86.4%	80.4%
3年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	213	237	238	198	216
	休学者数 <sup>2)</sup>	1	0	0	0	1
	退学者数 <sup>2)</sup>	5	4	3	3	5
	留年者数 <sup>2)</sup>	12	20	7	11	22
	進級率 <sup>3)</sup>	91.5%	89.9%	95.8%	92.9%	87.0%
4年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	198	198	219	238	206
	休学者数 <sup>2)</sup>	0	2	0	3	6
	退学者数 <sup>2)</sup>	3	1	2	1	2
	留年者数 <sup>2)</sup>	2	4	10	18	13
	進級率 <sup>3)</sup>	97.5%	96.5%	94.5%	90.8%	89.8%
5年次	在籍者数 <sup>1)</sup>	210	194	192	207	216
	休学者数 <sup>2)</sup>	0	1	0	0	0
	退学者数 <sup>2)</sup>	1	1	0	0	0
	留年者数 <sup>2)</sup>	0	0	0	0	0
	進級率 <sup>3)</sup>	99.5%	99.0%	100.0%	100.0%	100.0%

1) 在籍者数は、当該年の**5月1日**における1年次から5年次に在籍していた学生数を記載してください

2) 休学者数、退学者数、留年者数については、各年度の年度末に、それぞれの学年から次の学年に進級できなかった学生数を、その理由となった事象に分けて記載してください。

3) 進級率は、次式で計算し、%で記入してください。

$$\{ (\text{在籍者数}) - (\text{休学者数} + \text{退学者数} + \text{留年者数}) \} / \text{在籍者数}$$

(基礎資料 3-3) 評価実施年度の直近 5 年間における学士課程修了 (卒業) 状況の実態

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
卒業判定時 (年度末) の在籍学生数 <sup>1)</sup> A	225	227	211	212	231
学士課程修了 (卒業) 者数 <sup>1)</sup>	203	208	191	187	204
卒業率 <sup>2)</sup>	90.2%	91.6%	90.5%	88.2%	88.3%
卒業までに要した 在学期間別の 内訳 <sup>3)</sup>	6年	160	158	163	166
	7年	26	34	15	17
	8年	9	8	6	13
	9年以上	7	8	7	5
入学時の学生数 (実入学者数) <sup>4)</sup> D	248	227	218	219	249
ストレート卒業率 <sup>5)</sup>	64.5%	69.6%	74.8%	69.4%	66.7%

1) 当該年度の9月に卒業した学生は、「在籍学生数」(A)にも、「卒業者数」(B)にも含みません。

なお、卒業者数は、**当該年度の卒業判定会議 (年度末) における卒業認定者数**を記載してください。

2) 卒業率 = (学士課程修了者数) / (6年次の在籍者数) の値 (B/A) を%で記載してください。

3) 「編入学者を除いた卒業者数」の内訳を卒業までに要した期間別に記載してください。

4) それぞれの年度の6年次学生 (C) が入学した年度の実入学者数 (編入学者を除く) を記載してください。

5) ストレート卒業率 = (卒業までに要した在学期間が6年間の学生数) / (入学時の学生数) の値 (C/D) を%で記載してください。

(基礎資料 3-4) 直近 6 年間の定員充足状況と編入学者の動向

入学年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	平均値 <sup>5)</sup>
入学定員 A	220	220	220	220	220	220	
実入学者数 <sup>1)</sup> B	249	232	219	232	213	247	232
入学定員充足率 <sup>2)</sup> B/A	113.2%	105.5%	99.5%	105.5%	96.8%	112.3%	105.5%
編入学定員							
編入学者数 <sup>3)</sup> C+D+E							
編入学した学年別の内数 <sup>4)</sup>	2 年次 C						
	3 年次 D						
	4 年次 E						

- 1) 各年度の実入学者数として、当該年の5月1日に在籍していた新入生数を記載してください。
- 2) 各年度の実入学者数をその年度の入学定員で除した数値を%で記載してください。
- 3) その年度に受け入れた編入学者（転学部、転学科などを含む）の合計数を記載してください。
- 4) 編入（転入）学による入学者の受け入れ学年別の内数を記入してください。
- 5) 6年間の平均値を人数については整数で、充足率については%で記入してください。

(基礎資料4) 学生受入れ状況(入学試験種別)

学科名	入試の種類		2018年度入試	2019年度入試	2020年度入試	2021年度入試	2022年度入試	2023年度入試	募集定員数に対する 入学者数の比率 (6年間の平均)
			(2017年度実施)	(2018年度実施)	(2019年度実施)	(2020年度実施)	(2021年度実施)	(2022年度実施)	
薬学	一般入試	受験者数	2,901	2,327	1,516	1,158	1,397	882	
		合格者数	733	831	580	666	724	296	
		入学者数(A)	117	112	89	107	107	48	
		募集定員数(B)	115	115	113	113	113	108	
		A/B*100(%)	101.7	97.4	78.8	94.7	94.7	44.4	
	大学入学共通テスト利用入試	受験者数	698	707	559	447	386	318	
		合格者数	93	140	155	174	124	114	
		入学者数(A)	3	2	5	6	7	7	
		募集定員数(B)	16	16	18	18	18	18	
		A/B*100(%)	18.8	12.5	27.6	33.3	38.9	38.9	
	AO入試	受験者数	—	6	17	9	9	11	
		合格者数	—	3	7	4	8	10	
		入学者数(A)	—	3	7	4	8	10	
		募集定員数(B)	—	7	5	5	5	10	
		A/B*100(%)	—	42.9	140.0	80.0	160.0	100.0	
	内部推薦	受験者数	8	8	18	34	52	37	
		合格者数	8	8	9	27	44	36	
		入学者数(A)	8	8	6	2	7	10	
		募集定員数(B)	その他「27名」の一部	その他「20名」の一部	その他「12名」の一部	【内部推薦】 その他「12名」の一部 【学部内連携】 若干名	【内部推薦】 その他「12名」の一部 【学部内連携】 若干名	【内部推薦】 その他「12名」の一部 【学部内連携】 若干名	
		A/B*100(%)	—	—	—	—	—	—	
	指定校推薦	受験者数	15	14	14	16	15	19	
		合格者数	15	14	14	16	15	19	
		入学者数(A)	15	14	14	16	15	19	
		募集定員数(B)	その他「27名」の一部	その他「20名」の一部	その他「12名」の一部	その他「12名」の一部	その他「12名」の一部	その他「12名」の一部	
		A/B*100(%)	—	—	—	—	—	—	
	公募推薦入試	受験者数	1,686	1,330	1,419	1,352	1,138	1,193	
		合格者数	420	489	580	596	745	781	
		入学者数(A)	87	79	107	77	103	133	
		募集定員数(B)	62	62	72	72	72	72	
		A/B*100(%)	140.3	127.4	148.6	106.9	143.1	184.7	
	留学生入試	受験者数	1	1	5	2	0	5	
		合格者数	0	0	1	1	—	4	
		入学者数(A)	—	—	1	1	—	2	
		募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
		A/B*100(%)	—	—	—	—	—	—	
	帰国生徒入試	受験者数	0	1	1	1	0	0	
		合格者数	—	0	1	0	—	0	
		入学者数(A)	—	—	1	—	—	0	
		募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
		A/B*100(%)	—	—	—	—	—	—	
	高大連携推薦	受験者数	2	1	2	—	—	—	
		合格者数	2	1	2	—	—	—	
		入学者数(A)	2	1	2	—	—	—	
		募集定員数(B)	その他「27名」の一部	その他「20名」の一部	その他「12名」の一部	—	—	—	
A/B*100(%)		—	—	—	—	—	—		
学科計	受験者数	5,311	4,395	3,551	3,019	2,997	2,465		
	合格者数	1,271	1,486	1,349	1,484	1,660	1,260		
	入学者数(A)	232	219	232	213	247	229		
	募集定員数(B)	220	220	220	220	220	220		
	A/B*100(%)	105.5	99.5	105.5	96.8	112.3	104.1	104.0	
学内転入	受験者数	0	0	0	0	0	0		
	合格者数	—	—	—	—	—	—		
	入学者数(A)	—	—	—	—	—	—		
	募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名		
	A/B*100(%)	—	—	—	—	—	—		

- [注] 1 入学者数は、実施した入試により**6月1日**(評価対象年度に実施した入試のデータは調査提出時)に新入学者となっている学生数を記入してください。  
2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。  
3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合[A/B\*100(%)]を算出してください。  
4 「留学生入試」に交換留学生は含めなくてください。  
5 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。  
6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。  
7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・」を基に学科を決定する。なお、薬科学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料5) 教員・職員の数

表1. 大学設置基準(別表第1)の対象となる薬学科(6年制)の専任教員

教授	准教授	専任講師	助教	合計	基準数 <sup>1)</sup>
20名	13名	15名	15名	63名	36名
上記における臨床実務経験を有する者の内数					
教授	准教授	専任講師	助教	合計	必要数 <sup>2)</sup>
2名	4名	1名	2名	9名	6名

1) 大学設置基準第13条別表第1のイ(表1)及び備考4に基づく数/別表2は含まない

2) 上記基準数の6分の1(大学設置基準第13条別表第1のイ備考10)に相当する数

表2. 薬学科(6年制)の教育研究に携わっている表1. 以外の薬学部教員

助手 <sup>1)</sup>	兼任教員 <sup>2)</sup>
2名	0名

1) 学校教育法第92条⑨による教員として大学設置基準第10条2の教育業務及び研究に携わる常勤者

2) 4年制学科を併設する薬学部で、薬学科の専門教育を担当する4年制学科の専任教員

表3. 演習、実習、実験などの補助に当たる教員以外の者

TA	SA	その他 <sup>1)</sup>	合計
0名	0名	6名	6名

自己点検・評価を実施した年度の実績を記入

1) 実習などの補助を担当する臨時、契約職員など(無給は除く)

表4. 薬学部専任の職員<sup>1)</sup>

事務職員	技能職員 <sup>2)</sup>	その他 <sup>3)</sup>	合計
11(3)名	4(1)名	0名	15(4)名

1) 薬学部の業務を専門に行う職員(非常勤を含む。ただし非常勤数は( )に内数で記入。複数学部の兼任は含まないこと。)

2) 薬用植物園や実験動物の管理、電気施設など保守管理に携わる職員

3) 司書、保健・看護職員など

(基礎資料6) 専任教員(基礎資料5の表1)の年齢構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率(%)
70代	0名	0名	0名	0名	0名	0%
60代	5名	0名	0名	0名	5名	7.90%
50代	11名	3名	3名	0名	17名	27.00%
40代	4名	10名	7名	1名	22名	34.90%
30代	0名	0名	5名	12名	17名	27.00%
20代	0	0名	0名	2名	2名	3.20%
合計	20名	13名	15名	15名	63名	

専任教員の定年年齢：( 64 歳)

(参考資料) 専任教員(基礎資料5の表1)の男女構成

	教授	准教授	専任講師	助教	合計	比率(%)
男性	18名	13名	12名	9名	52名	82.50%
女性	2名	0名	3名	6名	11名	17.50%

(基礎資料7) 教員の教育担当状況

表1. 薬学科(6年制)専任教員(基礎資料5の表1)が担当する授業科目と担当時間

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した 週当り授業時間 <sup>5)</sup>
薬学科	教授						生物・衛生系薬学実習	81.00	2.70
							生化学Ⅱ	39.00	1.30
							生化学Ⅰ	39.00	1.30
							感染と防御	22.50	0.75
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
							総合薬学演習	1.50	0.05
							キャリア形成Ⅳ	4.50	0.15
							授業担当時間の合計	201.00	6.70
							教養生物	22.50	0.75
							医療経済学	19.50	0.65
薬学科	教授						分子生物学	22.50	0.75
							大学教養入門	45.00	1.50
							SDGsに学ぶ世界の課題	45.00	1.50
							自然科学の理解	22.50	0.75
							生化学	22.50	0.75
							生化学実験	67.50	2.25
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
							グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)	16.50	0.55
							摂南大学PBLプロジェクトⅠ	33.00	1.10
							グローバル・シチズンシップ論(入門)	22.50	0.75
グローバル・シチズンシップ論(応用)	22.50	0.75							
授業担当時間の合計	375.00	12.50							

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した 週当り授業時間 <sup>5)</sup>							
薬学科	教授						生物・衛生系薬学実習	81.00	2.70							
							環境衛生学	39.00	1.30							
							薬事・衛生行政	24.00	0.80							
							教育学	39.00	1.30							
							キャリア形成Ⅰ	34.50	1.15							
							早期体験学習	31.50	1.05							
							スタートアップゼミ	13.50	0.45							
							キャリア形成Ⅱ	3.00	0.10							
							総合薬学演習	3.00	0.10							
							授業担当時間の合計	268.50	8.85							
薬学科	教授						生物学	45.00	1.50							
							病理学総論	22.50	0.75							
							基盤実習	81.00	2.70							
							教養生物	22.50	0.75							
							キャリア形成Ⅰ	4.50	0.15							
							スタートアップゼミ	13.50	0.45							
							授業担当時間の合計	189.00	6.30							
							薬学科	教授						有機化学Ⅱ	39.00	1.30
														化学系薬学実習	81.00	2.70
														医薬品開発学演習	67.50	2.25
分子生命科学トピックス	3.00	0.10														
有機化学Ⅰ	39.00	1.30														
医薬品化学特論	7.50	0.25														
基盤演習Ⅲ（化学）	39.00	1.30														
物理・化学系薬学演習	22.50	0.75														
スタートアップゼミ	13.50	0.45														
患者安全	3.00	0.10														
授業担当時間の合計	315.00	10.50														

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した 週当り授業時間 <sup>5)</sup>						
薬学科	教授						フィジカルアセスメント実習	◎ 67.50	2.25						
							症候学		39.00	1.30					
							アドバンスト臨床薬学		4.50	0.15					
							臨床薬学演習	院	67.50	2.25					
							薬物療法学特論	院	4.50	0.15					
							DI演習		39.00	1.30					
							スタートアップゼミ		13.50	0.45					
							薬学臨床実習事後演習		19.50	0.65					
							カルテ読解演習		54.00	1.80					
							クリニカルパス演習		37.50	1.25					
							周産期医学		3.00	0.10					
							プレファーマシー実習	◎	21.00	0.70					
							授業担当時間の合計							370.50	12.35
							薬学科	教授						病院薬学演習	
臨床心理学		12.00	0.40												
実践薬学IV		12.00	0.40												
薬学臨床実習事後演習		25.50	0.85												
スタートアップゼミ		13.50	0.45												
患者安全		22.50	0.75												
プレファーマシー実習	◎	117.00	3.90												
クリニカルパス演習		27.00	0.90												
カルテ読解演習		12.00	0.40												
総合薬学演習		1.50	0.05												
授業担当時間の合計							253.50	8.45							

1) 学科	2) 職名	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	3) 授業担当科目	4) 授業時間	5) 年間で平均した 週当り授業時間
薬学科	教授						生理解剖学 I	39.00	1.30
							基礎実習	81.00	2.70
							精神医療薬学特論	10.50	0.35
							実践薬学 III	12.00	0.40
							キャリア形成 I	4.50	0.15
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
							実践薬学 V	18.00	0.60
							総合薬学演習	3.00	0.10
							生理解剖学 II	9.00	0.30
							授業担当時間の合計		
薬学科	教授						病院薬学演習	3.00	0.10
							基礎演習 I (物理・化学計算)	39.00	1.30
							化学系薬学実習	81.00	2.70
							臨床分析学特論	6.00	0.20
							医薬品開発演習	30.00	1.00
							キャリア形成 II	60.00	2.00
							早期体験学習	6.00	0.20
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
							キャリア形成 IV	9.00	0.30
							総合薬学演習	1.50	0.05
授業担当時間の合計							249.00	8.30	

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した 週当り授業時間 <sup>5)</sup>
薬学科	教授						製剤学	39.00	1.30
							製剤学時論	10.50	0.35
							基盤実習	81.00	2.70
							物理薬剤学	39.00	1.30
							キャリア形成 I	4.50	0.15
							総合薬学演習	1.50	0.05
授業担当時間の合計							175.50	5.85	
薬学科	教授						基盤演習 II (生物学)	39.00	1.30
							生物学	9.00	0.30
							基盤実習	81.00	2.70
							教育学	39.00	1.30
							薬剤師になるために	25.50	0.85
							キャリア形成 I	4.50	0.15
							早期体験学習	49.50	1.65
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
							生物学 (特別講義)	9.00	0.30
							授業担当時間の合計		
薬学科	教授						医薬品情報学	39.00	1.30
							社会薬学	27.00	0.90
							キャリア形成 I	12.00	0.40
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
							カルテ読解演習	13.50	0.45
							総合薬学演習	1.50	0.05
							プレファーマシー実習	144.00	4.80
							授業担当時間の合計		

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した 週当り授業時間 <sup>5)</sup>
薬学科	教授						生物・衛生系薬学実習	81.00	2.70
							微生物学	39.00	1.30
							分子細胞生物学Ⅰ	39.00	1.30
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
							総合薬学演習	1.50	0.05
						授業担当時間の合計	174.00	5.80	
薬学科	教授						化学療法論	18.00	0.60
							免疫疾患治療学	21.00	0.70
							臨床薬学演習	67.50	2.25
							臨床薬理学特論	6.00	0.20
							医療系薬学実習	81.00	2.70
							薬理学Ⅱ	39.00	1.30
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
						授業担当時間の合計	246.00	8.20	
薬学科	教授						薬局経営	15.00	0.50
							化学系薬学実習	81.00	2.70
							生薬学	39.00	1.30
							漢方処方学	39.00	1.30
							臨床漢方医療薬学特論	10.50	0.35
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
						授業担当時間の合計	198.00	6.60	

1) 学科	2) 職名	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	3) 授業担当科目	4) 授業時間	5) 年間で平均した週当たり授業時間							
薬学科	教授						放射線生物学	39.00	1.30							
							臨床分析学	39.00	1.30							
							基盤実習	81.00	2.70							
							臨床分析学特論	6.00	0.20							
							キャリア形成Ⅰ	4.50	0.15							
							早期体験学習	3.00	0.10							
							スタートアップゼミ	13.50	0.45							
							キャリア形成Ⅱ	25.50	0.85							
							総合薬学演習	1.50	0.05							
							授業担当時間の合計	213.00	7.10							
薬学科	教授						腎・生殖器疾患治療学	39.00	1.30							
							薬物療法学特論	4.50	0.15							
							医療系薬学実習	81.00	2.70							
							内分泌・代謝性疾患治療学	39.00	1.30							
							実践薬学Ⅲ	12.00	0.40							
							スタートアップゼミ	13.50	0.45							
							総合薬学演習	1.50	0.05							
							授業担当時間の合計	190.50	6.35							
							薬学科	教授						生体情報伝達学	39.00	1.30
														医療系薬学実習	81.00	2.70
薬理学Ⅰ	39.00	1.30														
生体生命科学トピックス	3.00	0.10														
精神医療薬学時論	12.00	0.40														
キャリア形成Ⅳ	3.00	0.10														
スタートアップゼミ	13.50	0.45														
授業担当時間の合計	190.50	6.35														

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した 週当り授業時間 <sup>5)</sup>
薬学科	特任教授						生物・衛生系薬学実習	81.00	2.70
							公衆衛生学	39.00	1.30
							薬事・衛生行政	9.00	0.30
							保健衛生学	15.00	0.50
							総合薬学演習	12.00	0.40
薬学科	特任教授						授業担当時間の合計	156.00	5.20
							医療系薬学実習	81.00	2.70
							授業担当時間の合計	81.00	2.70

1) 学科	2) 職名	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	3) 授業担当科目	4) 授業時間	5) 年間で平均した 週当り授業時間						
薬学科	准教授						生物薬理学	39.00	1.30						
							物理化学Ⅱ	39.00	1.30						
							製剤学特論	12.00	0.40						
							医療系薬学実習	81.00	2.70						
							スタートアップゼミ	13.50	0.45						
							実践薬学Ⅰ	13.50	0.45						
							衛生・医療系薬学演習	6.00	0.20						
							総合薬学演習	1.50	0.05						
							授業担当時間の合計							205.50	6.85
							薬学科	准教授						化学系薬学実習	81.00
医薬品化学Ⅱ	39.00	1.30													
基盤演習Ⅲ(化学)	39.00	1.30													
医薬品化学特論	7.50	0.25													
物理・化学系薬学演習	22.50	0.75													
キャリア形成Ⅳ	4.50	0.15													
スタートアップゼミ	13.50	0.45													
実践薬学Ⅰ	7.50	0.25													
物理化学Ⅱ	9.00	0.30													
有機化学Ⅰ	9.00	0.30													
総合薬学演習							3.00	0.10							
授業担当時間の合計							235.50	7.85							

1) 学科	2) 職名	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	3) 授業担当科目	4) 授業時間	5) 年間で平均した 週当り授業時間						
薬学科	准教授						病態生理学	39.00	1.30						
							臨床薬理学特論	6.00	0.20						
							医療系薬学実習	81.00	2.70						
							衛生・医療系薬学演習	28.50	0.95						
							生物・薬理系薬学演習	22.50	0.75						
							スタートアップゼミ	13.50	0.45						
							実践薬学Ⅱ	12.00	0.40						
							総合薬学演習	1.50	0.05						
							授業担当時間の合計							204.00	6.80
							薬学科	准教授						病院薬学演習	12.00
アドバンスト臨床薬学	1.50	0.05													
セルフメディケーション論	18.00	0.60													
臨床分析学特論	6.00	0.20													
実践薬学Ⅰ	13.50	0.45													
スタートアップゼミ	13.50	0.45													
キャリア形成Ⅱ	15.00	0.50													
キャリア形成Ⅳ	3.00	0.10													
薬学臨床実習事後演習	30.00	1.00													
プレファーマシー実習	115.50	3.85													
セルフメディケーション演習	27.00	0.90													
カルテ読解演習	69.00	2.30													
総合薬学演習	1.50	0.05													
授業担当時間の合計							325.50	10.85							

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した 週当り授業時間 <sup>5)</sup>
薬学科	准教授						化学系薬学実習	81.00	2.70
							化学	39.00	1.30
							医薬品化学 I	39.00	1.30
							基礎演習Ⅲ(化学)	39.00	1.30
							医薬品化学特論	7.50	0.25
							実践薬学 I	13.50	0.45
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
							有機化学Ⅱ	9.00	0.30
							総合薬学演習	7.50	0.25
							授業担当時間の合計	249.00	8.30
薬学科	准教授						社会薬学	12.00	0.40
							セルフメディケーション論	18.00	0.60
							実践薬学Ⅱ	12.00	0.40
							衛生・医療系薬学演習	28.50	0.95
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
							薬学臨床実習事後演習	12.00	0.40
							プレファーマシー実習	138.00	4.60
							セルフメディケーション演習	54.00	1.80
							総合薬学演習	1.50	0.05
							授業担当時間の合計	289.50	9.65

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した 週当り授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	准教授						臨床薬物動態学	39.00	1.30	
							薬物動態学	39.00	1.30	
							医療系薬学実習	◎	81.00	2.70
							実践薬学Ⅳ		15.00	0.50
							スタートアップゼミ		13.50	0.45
							総合薬学演習		4.50	0.15
							授業担当時間の合計		192.00	6.40
薬学科	准教授						病院薬学演習	4.50	0.15	
							生物・衛生系薬学実習	◎	81.00	2.70
							教養化学		22.50	0.75
							代謝栄養学		12.00	0.40
							化学基礎		23.33	0.78
							早期体験学習		6.00	0.20
							スタートアップゼミ		13.50	0.45
							生化学Ⅱ		9.00	0.30
							キャリア形成Ⅰ		15.00	0.50
							授業担当時間の合計		186.83	6.23

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した 週当り授業時間 <sup>5)</sup>						
薬学科	准教授						循環器疾患治療学	39.00	1.30						
							薬物治療学	22.50	0.75						
							アドバンスト臨床薬学	1.50	0.05						
							患者コミュニケーション	22.50	0.75						
							薬学臨床実習事後演習	21.00	0.70						
							スタートアップゼミ	13.50	0.45						
							早期体験学習	6.00	0.20						
							カルテ読解演習	21.00	0.70						
							クリニカルパス演習	27.00	0.90						
							プレファーマシー実習	108.00	3.60						
							総合薬学演習	3.00	0.10						
							授業担当時間の合計							285.00	9.50
							薬学科	准教授						化学療法論	21.00
フィジカルアセスメント実習	67.50	2.25													
薬物療法学特論	4.50	0.15													
免疫学	39.00	1.30													
感染症治療学	39.00	1.30													
病態生化学	39.00	1.30													
早期体験学習	3.00	0.10													
スタートアップゼミ	13.50	0.45													
薬学臨床実習事後演習	25.50	0.85													
実践薬学V	13.50	0.45													
プレファーマシー実習	33.00	1.10													
総合薬学演習	1.50	0.05													
授業担当時間の合計														300.00	10.00

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した 週当り授業時間 <sup>5)</sup>
薬学科	准教授	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	毒性学	39.00	1.30
							生物・衛生系薬学実習	81.00	2.70
							環境情報科学	40.00	1.33
							保健衛生学	24.00	0.80
							実践薬学Ⅱ	12.00	0.40
							衛生・医療系薬学演習	28.50	0.95
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
							衛生薬学総合演習	7.50	0.25
							授業担当時間の合計	245.50	8.18
							物理学	39.00	1.30
薬学科	准教授	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	基盤実習	81.00	2.70
							物理化学Ⅰ	39.00	1.30
							キャリア形成Ⅰ	4.50	0.15
							早期体験学習	3.00	0.10
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
							実践薬学Ⅴ	16.50	0.55
							総合薬学演習	1.50	0.05
							授業担当時間の合計	198.00	6.60
							アドバンスト臨床薬学	1.50	0.05
							薬学科	准教授	氏名
実践薬学Ⅳ	15.00	0.50							
スタートアップゼミ	13.50	0.45							
薬学臨床実習事後演習	28.50	0.95							
プレファーマシー実習	108.00	3.60							
DⅠ演習	45.00	1.50							
カルテ読解演習	52.50	1.75							
総合薬学演習	1.50	0.05							
授業担当時間の合計	304.50	10.15							

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した 週当り授業時間 <sup>5)</sup>
薬学科	講師						化学系薬学実習	81.00	2.70
							天然物化学	39.00	1.30
							統計学	18.00	0.60
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
							実践薬学Ⅲ	6.00	0.20
							総合薬学演習	3.00	0.10
							授業担当時間の合計	160.50	5.35
薬学科	講師						生物・化学の基礎	22.50	0.75
							薬物療法学特論	4.50	0.15
							消化器・血液疾患治療学	39.00	1.30
							医療系薬学実習	81.00	2.70
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
							セルフメディケーション演習	27.00	0.90
							医療薬学総合演習	6.00	0.20
授業担当時間の合計	193.50	6.45							

1) 学科	2) 職名	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	3) 授業担当科目	4) 授業時間	5) 年間で平均した週当たり授業時間						
薬学科	講師						生物と環境	45.00	1.50						
							天然薬用資源学	21.00	0.70						
							化学系薬学実習	54.00	1.80						
							観光学	39.00	1.30						
							論理学	19.50	0.65						
							臨床漢方医療薬学特論	6.00	0.20						
							早期体験学習	12.00	0.40						
							スタートアップゼミ	13.50	0.45						
							キャリア形成 I	4.50	0.15						
							キャリア形成 II	34.50	1.15						
授業担当時間の合計							249.00	8.30							
薬学科	講師						生命倫理	22.50	0.75						
							基盤実習	81.00	2.70						
							生命倫理学	39.00	1.30						
							キャリア形成 I	4.50	0.15						
							早期体験学習	3.00	0.10						
							スタートアップゼミ	13.50	0.45						
							プレファーマシー実習	4.50	0.15						
							総合薬学演習	3.00	0.10						
							授業担当時間の合計							171.00	5.70

1) 学科	2) 職名	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	3) 授業担当科目	4) 授業時間	5) 年間で平均した 週当り授業時間
薬学科	講師						人体の構造と機能	22.50	0.75
							薬物療法学特論	4.50	0.15
							基盤実習	81.00	2.70
							生理解剖学 II	39.00	1.30
							生物・薬理系薬学演習	22.50	0.75
							生理解剖学 I	9.00	0.30
							生体情報伝達学	9.00	0.30
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
							キャリア形成 I	4.50	0.15
							総合薬学演習	3.00	0.10
授業担当時間の合計							208.50	6.95	
薬学科	講師						精神神経疾患治療学	39.00	1.30
							臨床薬理学特論	4.50	0.15
							人体の構造と機能 III	22.50	0.75
							医療系薬学実習	81.00	2.70
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
							実践薬学 III	12.00	0.40
							総合薬学演習	4.50	0.15
							授業担当時間の合計		

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した 週当り授業時間 <sup>5)</sup>
薬学科	講師						生物・衛生系薬学実習	81.00	2.70
							臨床栄養学	39.00	1.30
							環境情報科学	30.00	1.00
							食品衛生学	39.00	1.30
							衛生・医療系薬学演習	28.50	0.95
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
							患者安全	15.00	0.50
							実践薬学Ⅱ	9.00	0.30
							総合薬学演習	4.50	0.15
							授業担当時間の合計	259.50	8.65
薬学科	講師						人体の構造と機能Ⅰ	10.50	0.35
							人体の構造と機能Ⅱ	4.50	0.15
							薬品分析学	39.00	1.30
							基礎実習	81.00	2.70
							臨床分析学特論	4.50	0.15
							キャリア形成Ⅰ	4.50	0.15
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
							総合薬学演習	3.00	0.10
							物理化学Ⅰ	9.00	0.30
							実践薬学Ⅴ	15.00	0.50
授業担当時間の合計	184.50	6.15							

1) 学科	2) 職名	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	3) 授業担当科目	4) 授業時間	5) 年間で平均した 週当り授業時間
薬学科	講師						分子細胞生物学Ⅱ	39.00	1.30
							生物・衛生系薬学実習	81.00	2.70
							細胞生物学	39.00	1.30
							生物・薬理系薬学演習	22.50	0.75
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
							生化学Ⅰ	9.00	0.30
							授業担当時間の合計	204.00	6.80
							天然薬用資源学	21.00	0.70
							化学系薬学実習	81.00	2.70
							化学基礎	46.66	1.56
薬学科	講師						化学	22.50	0.75
							物理・化学系薬学演習	22.50	0.75
							早期体験学習	3.00	0.10
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
							キャリア形成Ⅱ	33.00	1.10
							キャリア形成Ⅳ	9.00	0.30
							授業担当時間の合計	252.16	8.41
							化学系薬学実習	81.00	2.70
							化学	39.00	1.30
							物理・化学系薬学演習	4.50	0.15
薬学科	講師						有機化学Ⅱ	9.00	0.30
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
							患者安全	3.00	0.10
							授業担当時間の合計	150.00	5.00

1)	2)	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	3)	4)	5)
学科	職名	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	授業担当科目	授業時間	年間で平均した週当り授業時間
薬学科	講師						基礎演習 I (物理・化学計算)	39.00	1.30
							化学系薬学実習	81.00	2.70
							機器分析学 I	39.00	1.30
							機器分析学 II	39.00	1.30
							物理学	9.00	0.30
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
							キャリア形成 I	22.50	0.75
							キャリア形成 II	18.00	0.60
							キャリア形成 IV	13.50	0.45
							総合薬学演習	1.50	0.05
							授業担当時間の合計		
薬学科	講師						病院薬学演習	7.50	0.25
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
							セルフメディケーション論	3.00	0.10
							実践薬学 I	13.50	0.45
							薬学臨床実習事後演習	18.00	0.60
							患者コミュニケーション	22.50	0.75
							患者安全	22.50	0.75
							キャリア形成 II	15.00	0.50
							プレファーマシー実習	154.50	5.15
							カルテ読解演習	12.00	0.40
							セルフメディケーション演習	36.00	1.20
授業担当時間の合計							318.00	10.60	

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した 週当り授業時間 <sup>5)</sup>
薬学科	講師						基礎演習Ⅱ(生物学)	39.00	1.30
							人体の構造と機能Ⅰ	3.00	0.10
							人体の構造と機能Ⅱ	12.00	0.40
							生物学	33.00	1.10
							臨床薬理学特論	6.00	0.20
							薬理学総論	22.50	0.75
							医療系薬学実習	81.00	2.70
							生物学(特別講義)	9.00	0.30
							生物・薬理系薬学演習	22.50	0.75
							キャリア形成Ⅰ	12.00	0.40
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
							総合看護学演習	1.50	0.05
							総合薬学演習	1.50	0.05
							授業担当時間の合計	256.50	8.55
薬学科	講師						フィジカルアセスメント実習	67.50	2.25
							免疫疾患治療学	18.00	0.60
							人体の構造と機能Ⅰ	9.00	0.30
							人体の構造と機能Ⅱ	6.00	0.20
							スタートアップゼミ	13.50	0.45
							授業担当時間の合計	114.00	3.80
							薬学科	特任助教	
キャリア形成Ⅰ	4.50	0.15							
早期体験学習	3.00	0.10							
プレファーマシー実習	18.00	0.60							
授業担当時間の合計	106.50	3.55							

1) 学科	2) 職名	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任年月日	3) 授業担当科目	4) 授業時間	5) 年間で平均した週当たり授業時間	
薬学科	特任助教						フィジカルアセスメント実習	◎	67.50	2.25
							教育学		39.00	1.30
							キャリア形成 I		13.50	0.45
							早期体験学習		133.50	4.45
							薬剤師になるために		24.00	0.80
							実践薬学Ⅲ		12.00	0.40
							キャリア形成Ⅱ		10.50	0.35
							クリニカルパス演習		36.00	1.20
							DI演習		61.50	2.05
							授業担当時間の合計			
薬学科	特任助教						基礎実習	◎	81.00	2.70
							キャリア形成 I		4.50	0.15
							プレファーマシー実習	◎	13.50	0.45
							授業担当時間の合計			
薬学科	特任助教						生物・衛生系薬学実習	◎	81.00	2.70
							実践薬学Ⅱ		12.00	0.40
							プレファーマシー実習	◎	13.50	0.45
							授業担当時間の合計			
薬学科	特任助教						基礎演習Ⅰ (物理・化学計算)		39.00	1.30
							化学系薬学実習	◎	81.00	2.70
							基礎演習Ⅲ (化学)		39.00	1.30
							化学		9.00	0.30
							物理・化学系薬学演習		22.50	0.75
授業担当時間の合計							204.00	6.80		

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した 週当り授業時間 <sup>5)</sup>	
薬学科	特任助教						化学系薬学実習	◎	81.00	2.70
							プレファーマシー実習	◎	13.50	0.45
							授業担当時間の合計		94.50	3.15
薬学科	特任助教						基礎実習	◎	81.00	2.70
							キャリア形成 I		4.50	0.15
							プレファーマシー実習	◎	18.00	0.60
							授業担当時間の合計		103.50	3.45
薬学科	特任助教						教育学		39.00	1.30
							薬剤師になるために		28.50	0.95
							早期体験学習		184.50	6.15
							キャリア形成 I		16.50	0.55
							キャリア形成 II		10.50	0.35
							プレファーマシー実習	◎	19.50	0.65
							授業担当時間の合計		298.50	9.95
薬学科	特任助教						病院薬学演習		7.50	0.25
							フィジカルアセスメント実習	◎	67.50	2.25
							実践薬学 IV		15.00	0.50
							薬学臨床実習事後演習		18.00	0.60
							プレファーマシー実習	◎	100.50	3.35
							カルテ読解演習		48.00	1.60
							授業担当時間の合計		256.50	8.55

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した 週当り授業時間 <sup>5)</sup>
薬学科	特任助教						基盤実習	81.00	2.70
							キャリア形成 I	10.50	0.35
							プレファーマシー実習	13.50	0.45
							薬品分析学	7.50	0.25
							授業担当時間の合計	112.50	3.75
薬学科	特任助教						医療系薬学実習	81.00	2.70
							プレファーマシー実習	13.50	0.45
							生物・薬理系薬学演習	22.50	0.75
							授業担当時間の合計	117.00	3.90
薬学科	特任助教						医療系薬学実習	81.00	2.70
							プレファーマシー実習	4.50	0.15
							DI演習	18.00	0.60
							授業担当時間の合計	103.50	3.45
薬学科	特任助教						基盤実習	81.00	2.70
							キャリア形成 I	4.50	0.15
							プレファーマシー実習	13.50	0.45
							授業担当時間の合計	99.00	3.30
薬学科	特任助教						生物・衛生系薬学実習	81.00	2.70
							プレファーマシー実習	13.50	0.45
							実践薬学 V	21.00	0.70
							授業担当時間の合計	115.50	3.85
薬学科	特任助教						生物・衛生系薬学実習	81.00	2.70
							プレファーマシー実習	13.50	0.45
							授業担当時間の合計	94.50	3.15

学科 <sup>1)</sup>	職名 <sup>2)</sup>	氏名	年齢	性別	学位称号	現職就任 年 月 日	授業担当科目 <sup>3)</sup>	授業時間 <sup>4)</sup>	年間で平均した 週当り授業時間 <sup>5)</sup>
------------------	------------------	----	----	----	------	---------------	----------------------	--------------------	----------------------------------

- 1) 薬学科（6年制）専任教員のみが対象ですが、2学科制薬学部で4年制学科の兼任教員となっている場合は（兼任学科名）を付記してください。
- 2) 臨床における実務経験を有する専任教員には、職名に（実務）と付記してください。
- 3) 「授業担当科目」には、「卒業研究」の指導を除く全ての授業担当科目（兼任学科・兼任学科の科目、大学院の授業科目も含む）を記入し、実習科目は科目名の右欄に◎を、大学院科目は「院」の字を記入してください。
- 4) 「授業時間」には、当該教員がその科目で行う延べ授業時間（実働時間）の時間数を、以下に従ってご記入ください（小数点以下2桁まで）。  
 ※講義科目は時間割から計算される実際の授業15回担当すれば、 $90 \times 15 \div 60 = 22.5$ 時間）を記入します。  
 ※複教員で分担している場合は授業回数（例えは、教授1名と助教、助手2名）が担当している場合も、常時共同で指導している場合は分担当としません。  
 ※実習科目では、同一科目を複数教員（例えは、教授1名と助教、助手2名）が担当している場合も、常時共同で指導している場合は分担当としません。
- 5) 「年間で平均した週当り授業時間」には、総授業時間を「30」（授業が実施される1年間の基準週数）で除した値を記入してください。  
 開講する週数が30週ではない大学でも、大学間の比較ができるよう「30」で除してください。

(基礎資料7) 教員の教育担当状況 (続)

表2. 助手(基礎資料5の表2)の教育担当状況

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当り授業時間
薬学科	助手						基礎実習	81.00	2.70
							キャリア形成 I	4.50	0.15
薬学科	助手						フィジカルアセスメント実習	67.50	2.25
							早期体験学習	58.50	1.95
							キャリア形成 II	37.50	1.25
							薬剤師になるために	25.50	0.85
							プレファーマシー実習	13.50	0.45
						セルフメイเคーション演習	45.00	1.50	

[注] 担当時間数などの記入については(基礎資料7)の表1の脚注に倣ってください。助手については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

表3. 兼任教員(基礎資料5の表2)が担当する薬学科(6年制)の専門科目と担当時間

学科	職名	氏名	年齢	性別	学位	現職就任年月日	授業担当科目	総授業時間	年間で平均した週当り授業時間
〇〇薬科学科		該当者なし							
〇〇薬科学科									

[注] 担当時間数などの記入については(基礎資料7)の表1の脚注に倣ってください。兼任教員については、「授業担当時間の合計」の算出は不要です。

(基礎資料8) 卒業研究の学生配属状況および研究室の広さ

5年生の在籍学生数 216 名

6年生の在籍学生数 232 名

	配属講座など	指導教員数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計	卒業研究を実施する研究室 の面積 (m <sup>2</sup> )
1	化学系薬学分野	5	12	14	31	269.7
2	複合薬物解析学研究室	3	10	10	23	200.4
3	薬物送達学研究室	3	11	11	25	118.2
4	生命融合化学分野	2	7	7	16	145.6
5	生物系薬学分野	5	17	17	39	252.4
6	公衆衛生学研究室	2	6	11	19	200.4
7	疾病予防学研究室	3	11	9	23	213.1
8	薬効薬理学研究室	3	11	13	27	146.1
9	機能形態学研究室	3	11	12	26	72.6
10	薬理学研究室	3	11	9	23	200.0
11	薬物治療学研究室	3	10	12	25	214.9
12	薬剤系薬学分野	4	12	13	29	217.7
13	医療薬学研究室	3	8	11	22	165.1
14	病態医科学研究室	2	9	9	20	195.7
15	病理学研究室	2	7	2	11	175.4
16	生体分子分析学研究室	3	11	12	26	195.7
17	実践薬学研究室	4	14	18	36	100.9
18	臨床研究センター	1	3	5	9	96.7
19	薬学教育学研究室	4	15	13	32	96.4
20	統合薬学研究室	6	20	24	50	224.2
	合計	64	216	232	512	

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。  
 2 指導教員数には担当する教員（助手を含む）の数を記入してください。  
 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。  
 4 隣接する複数の講座などで共有して使用する実験室などは、基礎資料11-2に記載してください。

## (基礎資料9) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 生物系薬学分野 (生化学)	職名 教授	氏名 伊藤 潔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
自己学習習慣を身につけてもらうための機会、教材を提供する授業		2018年4月～現在	基本的な授業内容はパソコンを利用したスライドと板書を組み合わせた形で行っている。必要に応じ、タンパク質立体構造の理解を助けるためのCGソフトの取り扱い方法を教授したりしている。自主的に手を動かすことを習慣化し、受け身にならないように気をつけ、生化学に重要な構造式を毎回いくつか選定して書かせることとしている。
Moodle小テスト機能を利用した基礎項目の反復学習		2018年4月～現在	1. 2年次の専門教育では、基本的項目と発展的項目の区別させることが難しい面があるため、基礎的項目の習得を目的として選択式の小テスト問題を多数用意し、Moodleのランダム機能を用いて10問程度の問題を受験期間と10分程度の制限時間を設けて受験させ、設定した合格点(8割以上)が取れるまで何度も受験させることとしている。受験期間終了後は、ほぼ同じ問題を無期限で受験できるように復習コーナーも設けている。
オンデマンドの動画教材の充実に努める		2020年4月～現在	オンライン授業のシステムが整備されてきてからは、必要な学習項目を網羅し、最小限の時間で情報を伝えられる動画資料の改善に努めつつ、対面の講義では、中でも特に重要な内容について十分な時間を費やして強調し、重要項目を習得できるようにしている。
発展的内容の学習機会の付与		2020年4月～現在	1. 2年次の講義では、必要な基礎的内容の解説だけで講義時間を終えてしまう。酵素の反応機構など、可能な範囲で、有機的あるいは物理化学的側面にもふれ、意欲のある学生が自己学習するための補助資料として、PDFと15分程度の動画資料を閲覧できるように、資料数を徐々に増やしている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
生化学 I		2018～2022年度	講義資料13回分、講義動画(2020～2022)：オンライン授業に対応した動画を作成し、毎年改訂を重ねている。15～20分程度に収まるような小項目ごとの動画となるように編集し、それぞれの小項目が有機的に関連していることに気づけるよう努めている。
生化学 II		2018～2022年度	講義資料13回分、講義動画(2020～2022)：同上
感染と防御(看護学部)		2018～2022年度	講義資料15回分、講義動画(2020～2022)：同上
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
FD講習会参加		2018年7月14日	「自身のキャリアプランをどのようにしてFD活動につなげるか」
FD講習会参加		2019年7月13日	「学生が望む授業とは」
FD講習会参加		2020年8月7日	「学生にとってより良い遠隔講義とは」
学長ワークショップ参加		2022年9月9日	「次代の長期ビジョンを見据えた学部・学科の強みの再発見と強化」

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Synthesis of Small Fluorescent Molecules and Evaluation of Photophysical Properties.	共著	2020年1月	The Journal of Organic Chemistry 85(2) : 1253-1258
Identification of the active site and characterization of a novel sporulation-specific cysteine protease YabG from <i>Bacillus subtilis</i> .	共著	2022年3月	Journal of Biochemistry 171(3) : 315-324.
The Study of Diversity in Sporulation among Closely Genetically Related <i>Bacillus cereus</i> Strains.	共著	2022年10月	Biocontrol Science 27(3) : 143-151.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
EGFR-TKI耐性ヒト非小細胞肺癌細胞株のMEK阻害剤併用による耐性克服機序		2022年10月	日本薬学会関西支部大会
EGFR-TKI耐性ヒト非小細胞肺癌のBcl-2 family分子阻害剤による耐性克服機序		2022年10月	日本薬学会関西支部大会
ベトナム産植物由来成分Pristimerin, Tanshinone II Aによるヒト胃癌細胞株に対するアポトーシス誘導機構		2022年10月	日本薬学会関西支部大会
枯草菌芽胞に対する過酢酸の効果についての研究		2022年10月	日本薬学会関西支部大会
<i>Clostridium sporogenes</i> NBRC 14293 spoIVA 遺伝子の機能解析		2022年10月	日本薬学会関西支部大会
紫外線照射芽胞の殺菌評価方法の開発		2022年10月	日本薬学会関西支部大会
好熱菌の芽胞形成期特異的プロテアーゼYabGの酵素化学的諸性質の検討		2022年10月	日本薬学会関西支部大会
芽胞形成期特異的プロテアーゼYabGの触媒作用に重要なグルタミン酸残基の役割		2022年10月	日本薬学会関西支部大会
生菌剤の品質評価に関する研究		2022年10月	日本薬学会関西支部大会
プロテアーゼ阻害剤シード化合物となるフッ素化ジペプチドの酵素的速度論的分割とその活性		2022年10月	日本薬学会関西支部大会
菌周病菌産生酵素活性測定用プローブ合成と活性評価		2022年10月	日本薬学会関西支部大会
新規システインプロテアーゼ Sporopain (YabG) の触媒反応に重要なグルタミン酸残基の同定		2022年11月	第95回日本生化学会大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年8月4日	八幡市夏の親子理科実験(自分の遺伝子DNAを見てみよう)		
2018年~現在	薬学教育協議会生化学分野教科担当教員会議委員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 生命融合化学分野	職名 教授	氏名 大塚 正人
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年度～ 2022年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Moodleによるフィードバックコメントの作成 (学生全員への個別コメント返答)</li> <li>・ Teamsを使用したインタラクティブ授業</li> </ul>	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年度～ 2022年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 独自の講義資料の作成</li> <li>・ Moodleに独自資料の作成</li> </ul>	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2018年8月	LMSを活用した新たな読書法と質問づくりの実践	
	2019年8月	LMSを活用した新たな読書法と質問づくりの実践とその応用	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年度～ 2021年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ FD研修会の講師</li> <li>・ FD研修会への参加</li> </ul>	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
赤血球における新規S1P輸送体MFSD2Bの同定	共著	2018年5月	脂質生化学研究60. 200
MFSD2B is a sphingosine 1-phosphate transporter in erythroid cells	共著	2018年3月	Sci Rep. 2018 Mar 21;8(1):4969.
Involvement of Human Multidrug and Toxic Compound Extrusion (MATE) Transporters in Testosterone Transport	共著	2021年1月	Biol Pharm Bull. 2021;44(4):501-506.
Importance of the Azole Moiety of Cimetidine Derivatives for the Inhibition of Human Multidrug and Toxin Extrusion Transporter 1 (hMATE1)	共著	2021年6月	Chem Pharm Bull (Tokyo). 2021;69(9):905-912.
Fluorophenylalkyl-substituted cyanoguanidine derivatives as bacteria-selective MATE transporter inhibitors for the treatment of antibiotic-resistant infections	共著	2022年10月	Bioorg Med Chem. 2022 Oct 4;74:117042.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
なし			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 薬学教育センター (薬学教育)	職名 教授	氏名 奥野 智史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
① 実習での実験操作動画等の作成		2020年4月～現在	生物・衛生系薬学実習の担当項目（空気試験法）に関する実験操作や器具の使い方に関する動画を作成し、学生が実習の予習・復習を効果的にできるようにしている。
② 授業アンケートに基づいた教育内容・方法の改善		2018年4月～現在	学生が興味を持てるような話題を取り入れるなど教授方法の改善するとともに、毎年、配布資料の点検・改善を行っている。また、学生自身で理解度が確認できるように、毎回の授業後に学習支援ソフト（moodle）等を利用した確認テスト（形成的評価）を実施している。授業評価でも概ね肯定的な評価を得ている。
③ キャリア科目での自己研鑽・体験型学習等の実施		2018年4月～現在	キャリア形成 I において、学生の主体性を育むために自己研鑽・体験型学習を科目担当者で企画立案し、薬学部教員の協力のもと実施している。また、本学卒業生をお招きし、学生が多様なキャリアを知る機会を設けることで適切な進路選択ができるようにしている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
① 授業プリントの作成		2018年4月～現在	授業で触れる内容で、教科書に記載されていないもの等を補足するための資料を自作し、配布している。
② 実習レポート様式の作成		2018年4月～現在	学生が実習レポート作成する際に使用する様式を作成し、実習内容を振り返りやすくしている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
① 薬学教育協議会 衛生薬学教科担当教員会議の担当		2022年4月～現在	新しい薬学教育コア・モデル・カリキュラム案に関して関連科目の教員と連携を図っている。
② 初年次教育や教養教育に関連するワーキンググループのメンバー		2021～2022年度	全学共通初年次教育プログラムの策定（2021年度）、ならびに教養教育実質に向けた検討（2022年度）を行っている。
③ FD・SDフォーラムへの参加		2018年度～現在	学部および全学主催のFD・SDフォーラムに積極的に参加している。
④ 日本私立薬科大学 薬剤師国家試験問題検討委員会（衛生）の委員		2018年度～現在	薬剤師国家試験に関連する委員会でのコメント等を学内の関連教員と共有し、関連分野での教育に役立てている。
⑤ 化学物質の取扱いに関する教育の実施		2018～2019年度、2022年度	研究室等で実験を行う際の化学物質の取扱いに関する基本的な事項について教育を行っている。
⑥ 高等学校での模擬授業の実施		2019年6月	高等学校において、薬学に関連した内容で模擬授業を行った。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文） Naturally oxidized olive oil promotes active cutaneous anaphylaxis and Th2 cytokine production	共著	2021年6月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, vol. 44, No. 6, 838-843

(論文) Seleno-L-methionine suppresses immunoglobulin E-mediated allergic response in RBL-2H3 cells	共著	2019年7月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, vol. 42, No. 7, 1179-1184
(論文) Naturally oxidized olive oil exacerbates contact hypersensitivity by promoting differentiation into effector T cells and increasing antigen-specific IFN- $\gamma$ production	共著	2019年2月	Food and Agricultural Immunology, vol. 30, No. 1, 74-86
(論文) IL-18 and IFN-gamma expression enhances contact hypersensitivity after oral administration of naturally oxidized olive oil to mice	共著	2018年10月	Food and Agricultural Immunology, vol. 29, No. 1, 886-897
(論文) Effects of supplementary seleno-L-methionine on atopic dermatitis-like skin lesions in mice	共著	2018年9月	Biological and Pharmaceutical Bulletin, vol. 41, No. 9, 1456-1462
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
J-SPEEDを導入した避難所運営ゲームの試作		2022年 10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
実務実習における個々の経験がもたらした気付き		2022年 10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
初年次に実施した対面SGDとオンラインSGDの教育効果の比較		2022年 10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
老化に伴う耐糖能および運動機能低下と骨格筋中セレンタンパク質発現との関連性		2022年 8月	フォーラム2022 衛生薬学・環境トキシコロジー
糖尿病モデルマウスにおけるインスリン抵抗性の誘導と骨格筋中セレンタンパク質発現との関連性		2022年 6月	第49回日本毒性学会学術年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2020年4月～現在	(社) 日本薬学会 学術誌編集委員会委員		
2018年4月～現在	公害防止管理者等国家試験受験講習会 講師 [水質概論担当] (1回/年)		
2018年4月～現在	公害防止管理者等資格認定講習 講師 [水質概論, ダイオキシン類概論] (各1回/年)		
2019年9月、2018年9月	認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ (薬学教育者ワークショップ) タスクフォース (2018年度1回, 2019年度1回)		
2018年4月～2018年3月	ロゼ&ビューティー美容専門学校 非常勤講師 [美容衛生管理]		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 病理学	職名 教授	氏名 尾崎 清和
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
動物病理学各論第3版	共著	2021年3月	文永堂
Hyperglycemia Suppresses Age-Related Increases in Corneal Peripheral Sensory Nerves in Wistar Bon Kobori (WBN/Kob) Rats	共著	2019年10月	Invest Ophthalmol Vis Sci 60, 4151-4158
Superimposition of hypertension on diabetic peripheral neuropathy affects small unmyelinated sensory nerves in the skin and myelinated tibial and sural nerves in rats with alloxan-induced type 1 diabetes	共著	2020年8月	J Toxicol Pathol 33, 161-169
FYC01 leads to cataract formation.	共著	2021年7月	Sci Rep 11, 13771
High-fat diet-induced nonalcoholic steatohepatitis is accelerated by low carnitine and impaired glucose tolerance in novel murine models.	共著	2022年6月	Lab Invest 102, 621-63
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
NASHモデルマウスにおける肝細胞の鉄沈着は肝線維化を増強する		2022年4月	第111回日本病理学会
常染色体劣性多発性嚢胞腎の新規マウスモデルの解析		2023年1月	第39回日本毒性病理学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年9月～現在	NPO法人子どもネットワークワルツ理事、理事長		
2019年2月～現在	日本毒性病理学会理事		
2019年2月～現在	日本獣医病理専門家協会理事		
2000年3月～現在	日本獣医学会評議員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 化学系薬学分野 (薬化学)	職名 教授	氏名 表 雅章
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		2018年～現在	少人数のグループ討議を中心にしたTBLによる演習を行っており、学生の主体的な学習に繋がっている。また、授業アンケートに記載内容について、授業プリントの配布やオンデマンド型授業動画の配信など、学生の学習意欲向上につながる要望に対応している。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			本学薬学部が主催するFDワークショップには欠かさず参加し、自身の教育スキルを向上させるよう自己研鑽している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)
Fluorophenylalkyl-Substituted Cyanoguanidine Derivatives as Bacteria-Selective MATE Transporter Inhibitors for the Treatment of Antibiotic-Resistant Infections		共著	2022年10月
Discovery of benzyloxyphenyl- and phenethylphenyl-imidazole derivatives as a new class of ante-drug type boosters		共著	2022年7月
Importance of the azole moiety of cimetidine derivatives for the inhibition of human multidrug and toxin extrusion transporter 1 (hMATE1)		共著	2021年6月
Identification and Synthesis of DDI-6, a Quinololin Analog Capable of Activating Both Caenorhabditis elegans and Mouse Spermatozoa		共著	2021年3月
Synthesis of aryl 2-bromo-2-chloro-1,1-difluoroethyl ethers through the base-mediated reaction between phenols and haloethane		共著	2021年1月
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
細菌多剤排出輸送体MATE阻害化合物の探索合成と活性評価		2022年10月	日本薬学会関西支部大会
Krapcho脱炭酸を鍵とした連続反応による含フッ素キノリン合成法の開発		2022年10月	日本薬学会関西支部大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～現在	日本私立薬科大学協会委員 薬剤師国家試験問題検討委員会部会(物理・化学・生物)		
2018年4月～現在	薬学教育協議会委員 有機化学系教科担当教員会議担当		
2021年2月～現在	日本薬学会 代議員		
2018年4月～現在	有機合成化学協会 近畿支部幹事		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 実践薬学分野	職名 教授	氏名 河田 興
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 薬学臨床実習事後演習における症例呈示を用いた評価方法の確立		2022年4月18日	臨床実習で経験した症例についてスモールグループで提示を行い、教員を含め質疑を通して学生の到達度を評価する。
2 作成した教科書、教材、参考書 薬学生における症例呈示の段階的評価票		2022年4月18日	6項目からなる段階的評価法を独自に作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 認知症者が安心して生活できる地域づくりのために薬局ができること	共著	2021年12月	日本地域薬局薬学会誌(第9巻第2号)
(論文) 外来がん患者への継続的な面談による薬剤師の印象変化とその影響因子	共著	2022年	アプライド・セラピューティクス(第17巻)
(論文) 出生前母体硫酸マグネシウム投与による新生児の未熟児動脈管開存症発症リスクの検討	共著	2020年12月	日本小児臨床薬理学会雑誌(第33巻第1号)
(論文) 母体セロトニン再取り込み阻害薬、セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害薬による新生児不適応症候群の発症要因(特に併用薬)についての検討	共著	2020年	日本小児臨床薬理学会雑誌(第32巻第1号)
(論文) 認知症カフェを継続的に運営するための課題とその提案 姫路市における209ヶ所の認知症カフェの調査から得た考察	共著	2022年1月	日本認知症ケア学会誌(第20巻第4号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 新生児領域の適応外薬解決への歩み		2022年12月	日本臨床薬理学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2014年10月～現在	日本新生児成育医学会薬事委員		
2018年4月～現在	医薬品医療機器総合機構専門委員		
2018年6月～現在	日本小児臨床薬理学会学会雑誌編集委員長		
2018年10月～現在	日本臨床薬理学会編集委員		

教育および研究活動の業績一覧

大学名 摂南大学	講座名 医療薬学	職名 教授	氏名 菊田 真穂
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	～現在	実務実習事前学習（4年次） 実務経験を活かして、学生が実務実習に出る前に修得しておくべきことを、自身の経験を交えて指導している。具体的には、実践薬学、カルテ読解演習やクリニカルパス演習では、学生がそれまでに学んだ基礎知識を臨床でどのように活用するかや代表的な疾患及びその標準治療について学べるようにしている。また、プレファーマシー実習では、薬剤師の基本的な業務である調剤手技や患者対応の指導を担当し、学生に薬剤師として配慮・考慮すべき点などを伝えるようにしている。	
	2021年度～現在	臨床心理学（2年次） 講義科目であるが、学生に主体性や協調性が身につくようにグループワークを取り入れている。	
	2021年度～現在	実務実習（5年次） 実務経験を活かして、科目責任者として、実務実習が円滑に進むように近畿地区調整機構及び実習施設との調整を行っている。また、校内での学生指導や大学教員への情報共有などを行っている。	
	2022年度～	患者安全（2年次） 医療従事者を目指す者としての責任感や倫理観が身につくように、実際に起きた薬害や医療事故事例をもとに授業を実施している。また、学生が事前に自己レポートを作成することで自分の考えを述べ、授業内でグループワークを行うことでチーム（他者ととも）で考えることの重要性を実感できるようにしている。さらに、グループワーク後に振り返りを行うことで、自己の良い面と改善すべき点などを考えさせ、学生が次に活かせるように工夫している。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2021年度～現在	4年次の実務実習事前学習において、学生が調剤手技等を繰り返し確認できるように、動画教材を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)	～2019年度	看護学部併設であることを活かし、実務実習を終えた薬学生と看護学生が、臨床現場（病院）で協働する実習を行った。この実習により、他職種の考え方や薬剤師の役割について、学生がより深く考える機会となっていた。	
	～現在	学部で開催されるFDフォーラムに参加し、教育活動に対する見識を深めた。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) アジスロマイシン細粒の先発品および後発品の服用性に関する評価	共著	2020年12月	日本小児臨床薬理学会 雑誌 33, (1), 62 - 66 日本小児臨床薬理学会（東京）
(著書) 看護学テキストNICE 薬理学	共著	2020年11月	南江堂（東京）

(論文) 都市型準限界集落の高齢者におけるフレイル発生と健康課題	共著	2019年3月	摂南大学地域研究総合研究所報(5), 149-161 摂南大学(大阪)
(論文) 小児病棟での統合看護学実習における薬学部生との専門職連携教育の実践報告	共著	2018年3月	摂南大学看護学研究7, (1), 12-19 摂南大学(大阪)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年～現在	予防薬理学研究所 評議員		
2020年～現在	(株)池田屋豊中赤壁薬局 非常勤薬剤師		
2020年～現在	医療法人医仁会武田総合病院及び医療法人財団康生会武田病院 治験審査委員会外部委員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 機能形態学	職名 教授	氏名 倉本 展行
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ・2018年度学部FD・SDフォーラムにて表彰 ・2020年度学部FD・SDフォーラムにて表彰	2019年4月2日 2021年11月13日	2020年度薬学部教員を対象とした教員活動評価において優秀な成績 2020年度薬学部教員を対象とした教員活動評価において優秀な成績	
2 作成した教科書、教材、参考書 機能形態学（改訂第4版）南江堂	2018年12月15日	第2章の執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・2019年度学部FD・SDフォーラムにて表彰 ・2021年度学部FD・SDフォーラムにて表彰	2020年4月2日 2022年4月6日	2019年度前期摂南大学薬学部開講科目において授業改善に努め本学部の教育力の向上とFD活動の促進に貢献 2021年度前期摂南大学薬学部開講科目において授業改善に努め本学部の教育力の向上とFD活動の促進に貢献	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Alleviation by GABAB Receptors of Neurotoxicity Mediated by Mitochondrial Permeability Transition Pore in Cultured Murine Cortical Neurons Exposed to N-Methyl-D-aspartate.	共著	2018年1月	Neurochem Res. 43, 79-88
（論文）Regulatory effects associated with changes in intracellular potassium level in susceptibility to mitochondrial depolarization and excitotoxicity.	共著	2020年2月	Neurochem Int. 133, 104627
（論文）Selective Upregulation by Theanine of Slc38a1 Expression in Neural Stem Cell for Brain Wellness.	共著	2020年12月	Molecules. 25(2):347.
（論文）Apelin receptor (APJ) : molecular, signal transduction and perspectives on disease prevention and pharmacotherapy.	共著	2020年12月	Curr Mol Pharmacol. 14(2), 210-219.
（論文）Delayed Expression of Both GABABR1 and GABABR2 Subunits in Murine Hippocampal Dentate Gyrus After a Single Systemic Injection of Trimethyltin.	共著	2022年9月	Neurochem Res. 47, 2780-2792
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）KCC2阻害剤VU04632711による神経細胞ミトコンドリア脱分極抑制作用		2022年12月	第96回日本薬学会年会
（演題名）神経細胞内K <sup>+</sup> イオン濃度変化測定に関する研究		2022年12月	第96回日本薬学会年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2007年4月-現在	（社）日本薬理学会 学術評議員		
2011年4月-現在	日本神経精神薬理学会 学術評議委員		
2017年9月-2020年8月	Asian-Pacific Society for Neurochemistry 理事		
2018年11月-現在	一般社団法人 予防薬理学研究所 副理事長・理事		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 薬学教育センター (統合薬学)	職名 教授	氏名 小西 元美
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
・1年次生の「基盤演習Ⅰ」においてチーム基盤型学習法(TBL)を取り入れている		2021年～現在	個人で学習した後、個人テストし、同じ問題を5、6人のグループで正解するまで回答するTBLを取り入れることにより、初年次の学生のコミュニケーション力の向上にも寄与した。
・3年次生の「キャリア形成Ⅱ」において自己研鑽参加型学習		2018年～現在	キャリア教育の一環として、薬剤師が活躍している現場での体験を通して、自らのキャリアプランを立てる。
2 作成した教科書、教材、参考書			
・「薬学テキストシリーズ」分析化学Ⅰ 定量分析編 第2版		2018年～現在	第1部、1章を執筆した。(朝倉書店)
・基盤演習Ⅰ 演習問題・解答解説		2021年～現在	毎回の演習で用いる演習問題・解答解説を作成。
・総合薬学演習 問題・解答解説		2018年～現在	演習で用いる担当分野の問題・解答解説を作成。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
・FD・SD研修会への参加		2018年～現在	大学および薬学部のFD・SD研修会には必ず参加し、講義、実習および研究室運営に生かすように心がけた。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Structure-Activity Relationship of 5-mer Catalytides, GSGYR and RYGSG	共著	2022年	biomolecules <i>in press</i>
(論文) Amyloid-beta cleavage by ANA-TA9, a synthetic peptide from the ANA/BTG3 Box A region.	共著	2021年3月	Alzheimers Dement. 7(1)
(論文) JAL-TA9 Inhibits Aggregation of hPrP180-192 through the Cleavage Reaction.	共著	2020年6月	J Pharm Pharmacol Res 4(2)
(論文) The Novel Catalytic Peptide, A Synthetic Nona-Peptide (JAL-TA9) Derived from Tob1 Protein, Digests the Amyloid-β Peptide	共著	2019年8月	Journal of Royal Science 1(2)
(論文) The discovery of shorter synthetic proteolytic peptides derived from Tob1 protein.	共著	2019年6月	Peptides 116
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
5残基ペプチド(GSGFK)とα-シヌクレイン61-84とのドッキングシミュレーション		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会
アミロイドβの凝集を抑制するペプチド(GSGNR, GSGHR)の構造解析		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会
パーキンソン病治療薬開発に向けたシーズペプチドの同定		2022年9月	第34回バイオメディカル分析科学シンポジウム
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年4月～現在	日本薬学会関西支部委員		
2019年4月～現在	バイオメディカル分析科学シンポジウム世話人		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 薬物送達学	職名 教授	氏名 佐久間 信至
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		パワーポイント、動画等、ICTを活用するとともに、反転授業等も組み入れ、学生の理解向上に努めている。	
2 作成した教科書、教材、参考書 最新製剤学第11版 (廣川書店)	2018年4月30日	pp. 336-363 注射により投与する製剤、透析に用いる製剤および目に投与する製剤	
パートナー薬剤学改訂第4版 (南江堂)	2022年2月15日	pp. 353-362 生物学的同等性	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		教育改革を目的とした学部開催のFDワークショップに毎年度参加している。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Tumor recognition of peanut agglutinin-immobilized fluorescent nanospheres in biopsied human tissues	共著	2019年1月	Eur. J. Pharm. Biopharm. 136 (2019) 29-37
(論文) Cross-protective abilities of hyaluronic acid modified with tetraglycine-L-octaarginine as a mucosal adjuvant against infection with heterologous influenza viruses	共著	2019年11月	Bioconjugate Chem. 30 (12) (2019) 3028-3037
(論文) Nasal absorption enhancement of protein drugs independent to their chemical properties in the presence of hyaluronic acid modified with tetraglycine-L-octaarginine	共著	2020年7月	Eur. J. Pharm. Biopharm. 154 (2020) 186-194
(論文) Mechanism on antigen delivery under mucosal vaccination using cell-penetrating peptides immobilized at multiple points on polymeric platforms	共著	2021年12月	Int. J. Pharm. 613 (2022) 121376
(論文) Acquisition of absorption-enhancing abilities of cationic oligopeptides with short chain arginine residues through conjugation to hyaluronic acid	共著	2022年1月	Int. J. Pharm. 616 (2022) 121519
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名4) 変形性関節症におけるジグリシン-L-ジアルギニン固定化ヒアルロン酸の軟骨損傷抑制機構		2022年5月	日本薬学会第37年会
(演題名7) ペプチド鎖を短縮したオリゴアルギニン固定化ヒアルロン酸による抗体医薬の経粘膜吸収促進		2022年5月	日本薬学会第37年会

(演題名1) 高分子医薬の細胞内デリバリーに及ぼすオリゴアルギニン固定化高分子と同医薬の物理化学的相互作用の影響	2022年5月	日本薬剤学会第37年会
(演題名5) 鎖長の異なるオリゴアルギニン固定化ヒアルロン酸による抗体医薬の吸収促進効果および吸収促進機構の解析	2022年6月	第38回日本DDS学会学術集会
(演題名2) 膜透過ペプチド固定化ヒアルロン酸を用いた経鼻成長ホルモン補充療法の開発	2022年6月	第38回日本DDS学会学術集会
(演題名6) バイオ医薬の経肺吸収促進に対するオリゴアルギニン固定化ヒアルロン酸と同医薬の物理化学的相互作用の影響	2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
(演題名3) 初代培養肺胞上皮細胞を用いたオリゴアルギニン固定化ヒアルロン酸による抗体医薬の経肺吸収促進機構の解析	2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)		
2018年4月～2020年3月	薬剤師国家試験問題作成委員	
2018年4月～現在	日本薬学会代議員	
2018年4月～現在	日本薬剤学会代議員	
2018年4月～現在	日本DDS学会評議員	

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 薬学教育センター (薬学教育学)	職名 教授	氏名 曾根 知道
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
・ICTを活用したSGD環境の構築		2020年4月～	アクティブラーニングの学習方略のひとつであるSGDをオンライン講義・演習で実施できるよう、オンラインSGDの環境を整備し、自分の担当科目のみならず広く活用できるようサポートした。
・ICTを活用した自習室（自己学習環境）の構築		2020年4月～	大学へ登校しての学習に制限があるので、Teamsの会議システムを利用した学生の自習室の設置・運営を行い、オンライン環境下での学生の学習環境を向上させた。
・ピアサポートプログラム（先輩学生が後輩を教える）の構築		2018年4月～	2年生キャリア科目に1年生を教えるプログラムを導入し、1年生の基礎実習の学習支援を通じて、後進を育成しようとする意欲を醸成した。また、5年次6年次の卒業研究との連携も行き、2年生への指導に関わらせた。
2 作成した教科書、教材、参考書			
基盤演習学習ノート 「私たちのからだを英語で学ぼう！」		2011年4月～現在に至る（随時更新）	高校で生物を履修していなかった学生も、大学の生物学・生理解剖学を学習できるような問題演習形式の教材を作成した。また、英語に触れる機会を増やし、接頭、接尾語の理解により語彙を増やせるように工夫した。毎週、演習時に確認試験実施することで、学習習慣の醸成にも繋がった。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
第11回日本在宅薬学会学術大会		2018年7月15日	早期臨床体験において在宅患者訪問同行がもたらす1年次生への影響に関する質的解析
第68回日本薬学会近畿支部総会		2018年10月13日	薬学生の外国人患者対応教育 ―非母国語コミュニケーション導入としての英語版人生ゲームの活用―
第4回日本薬学教育学会大会		2019年8月24日	中学生対象の薬物乱用防止講義へのチーム基盤型学習（TBL）の導入検証
第4回日本薬学教育学会大会		2019年8月24日	薬局を想定した空間での視覚障害者体験実習の導入検証
第5回日本薬学教育学会大会		2020年9月12日	障害者役と健常者役の合意のもとにきめるグループワークがもたらす学習効果 ―SCAT 法を用いた分析による検証―
第30回日本医療薬学会年会		2020年10月24日	4年次生の医薬品情報に対する意識調査とフォーミュラー教育の取り組み
第6回日本薬学教育学会大会		2021年8月21日	チーム基盤型学習（TBL）におけるチームパフォーマンスと学習効果の関係-8年間のデータの蓄積による学習効果の検証
日本薬学会第142年会		2022年3月26日	オンライン形式による避難所運営ゲーム（HUG）の実施と学習効果の検証
第72回日本薬学会関西支部総会・大会		2022年10月8日	J-SPEEDを導入した避難所運営ゲームの試作
第72回日本薬学会関西支部総会・大会		2022年10月8日	初年次に実施した対面SGDとオンラインSGDの教育効果の比較
4 その他教育活動上特記すべき事項			
平成30年度文部科学省 薬学教育指導者のためのワークショップに参加		2018年8月24日	『薬剤師として求められる基本的な資質』の教育の評価と方略-改訂コアカリに準拠した実務実習実施に向けて- をテーマにSGDを行った。

令和元年度文部科学省 薬学教育指導者のためのワークショップに参加	2019年9月6日	アドミッション・ポリシーを踏まえた新たな入学者選抜に向けた取組をテーマにSGDを行った。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
在宅医療における薬剤師の現状に関する兵庫県全域調査と心理的負担の要因となる因子の探索	共著	2022年10月	YAKUGAKU ZASSHI (第142巻・10号)
オンライン授業に対する学習領域ごとの学生の認識調査 -薬学部1~4年生によるオンライン授業への評価-	共著	2022年3月	日本薬学教育学会誌 (6巻)
Factors affecting the learning outcomes of early clinical exposure -An effective experience in hospital settings -	共著	2021年4月	Japanese Journal of Pharmaceutical Education (5巻)
「ピアサポート(先輩学生による実習支援)プログラム:1年次基礎 実験実習の支援」の実践 -グループワークのファシリテーション導入による学修効果の検討-	共著	2020年10月	日本薬学教育学会誌 (4巻)
The development and effectiveness of the peer support (basic laboratory practice by senior students) program incorporating the "multi-layered style" education	共著	2019年1月	Japanese Journal of Pharmaceutical Education (2巻)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
「生命倫理学」受講前と受講後における薬学部1年生の生命倫理に関する意識の変化		2022年7月	医療薬学フォーラム2022
薬学部生の「生命倫理」に対する捉え方の特徴~農学部生との認識や興味の比較~		2022年7月	医療薬学フォーラム2022
実務実習における個々の経験がもたらした気づき		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
オンライングループディスカッションのコミュニケーションに影響を与える因子と個々の活動性		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
J-SPEEDを導入した避難所運営ゲームの試作		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
システムティックレビューを用いたコロナ禍におけるオンライン教育実践の検証		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
オンライングループディスカッションでの学生の振る舞いがグループに与える影響		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
初年次に実施した対面SGDとオンラインSGDの教育効果の比較		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
中規模医療圏の在宅医療に携わる薬剤師の現状に関する調査-質的研究の成果を量的研究により検証する-		2022年11月	第16回日本薬局学会学術総会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2012年3月~現在に至る	薬学教育協議会:ヒューマニティ関連教科担当教員会議の一員		
2017年4月~現在に至る	関西医科大学医学部カリキュラム評価委員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 医療薬学	職名 教授	氏名 高田 雅弘
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	～現在	・授業内容を学生が理解しやすいように、教科書にない図解や映像を作成して理解を促進した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	～現在 ～現在	・講義資料について、毎年、最新情報等を追加・変更によりパワーポイント、配布資料の改訂に努めている。 ・プレファーマシー実習実習書を毎年改訂を行っている。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		・該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	～現在 ～現在 ～現在	・学部で開催されたFDに参加 ・関連中学でのHIVピア授業の指導 ・OSCE委員長として、模擬医師、模擬患者の養成を行っている。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) アジスロマイシン細粒の先発品および後発品の服用性に関する評価	共著	2020年12月	日本小児臨床薬理学会雑誌(1342-6753)33巻1号Page62-66
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
市販薬の乱用・依存に関する文献調査 -啓発活動への応用-		2022年7月	医療薬学フォーラム2022/第30回クリニカルファーマシーシンポジウム
日本と諸外国における薬物乱用防止教育の文献調査 -薬物使用が非犯罪化されているポルトガルとの比較-		2022年7月	医療薬学フォーラム2022/第30回クリニカルファーマシーシンポジウム
U=UがHIV啓発活動へ及ぼす影響に関する文献調査 -啓発資材の改善のために-		2022年7月	医療薬学フォーラム2022/第30回クリニカルファーマシーシンポジウム
中高生に対する薬物乱用防止教育に関する文献調査 -薬学生の考える薬物乱用防止教育の在り方について-		2022年7月	医療薬学フォーラム2022/第30回クリニカルファーマシーシンポジウム
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2007年4月～2021年3月	日本医療情報学会 評議員		
2010年4月～2021年3月	日本医療情報学会関西支部 幹事		
2010年6月～現在	東大阪市災害対策通信協力隊		
2017年4月～現在	日本社会薬学会関西支部 幹事		
2020年6月～現在	日本社会薬学会 代議員		
2020年6月～現在	AIDS文化フォーラムin京都 幹事		
2021年4月～現在	関西医療情報処理懇談会 顧問		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 生物系薬学分野 (微生物学)	職名 教授	氏名 高松 宏治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ・ PowerPoint資料の作 提供  ・ 練習問題の提供  ・ 授業評価  ・ 学習動画の提供	2018年4月～現 在  2018年4月～現 在  2018年4月～現 在  2020年4月～現 在	学生が理解しやすくする工夫としてPowerPoint でイラストと短い文章の資料を作成し、オンラ イン (Teams等) で配布した。  学習テーマごとに練習問題を作成し、オンライ ンで配布又はFormsなどで利用させた。  学生アンケートによる授業評価を受けて、講義 内容の改善に利用した。  ・ 学習テーマごとに要点をまとめて解説動画を 作成しオンライン (Streams) で閲覧させた。	
2 作成した教科書、教材、参考書 ・ 第7版 薬科微生物学	2021年3月	芽胞及び滅菌と消毒に関連する項目を執筆した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 食品製造・検査における芽胞・損傷菌とそ の検出・制御技術	共著	2020年5月	シーエムシー出版
(著書) 衛生試験法・注解2015 追補2019	共著	2020年3月	金原出版株式会社
(著書) 衛生試験法注・注解2020	共著	2019年3月	金原出版株式会社
(論文) The Study of Diversity in Sporulation among Closely Genetically Related Bacillus cereus Strains.	共著	2022年10月	Biocontrol Sci. 2022;27(3):143-151.
(論文) Identification of the active site and characterization of a novel sporulation- specific cysteine protease YabG from Bacillus subtilis	共著	2022年3月	J Biochem 2022 3:171(3):315-324
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～現在	日本薬学会 環境・衛生部会 試験法委員会 微生物試験法専門委員会 委員		

2018年4月～現在	日本防菌防黴学会 評議員
2018年4月～現在	日本農芸化学会会員
2018年4月～現在	日本分子生物学会会員
2018年4月～現在	日本生化学会会員
2018年4月～現在	日本防菌防黴学会会員
2018年4月～現在	日本薬学会会員

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 薬効薬理学	職名 教授	氏名 奈邊 健
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 講義におけるアクティブラーニングの導入	2022年4月～12月	各講義前に約10分の事前動画を視聴させた後、講義時間の初めに課題を解答させることで、自ら学ぶ姿勢が醸成できるように工夫した。	
2 作成した教科書、教材、参考書 第54回日本アレルギー学会専門医認定教育セミナーテキスト	2018年10月28日	アレルギー専門医認定のための講座のテキストとして、「アレルギー疾患の発症機序と制御」と題して、B5版の印刷物7ページの教材を執筆した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第54回日本アレルギー学会 専門医認定教育セミナー	2018年10月28日	アレルギー専門医認定のための教育的講演を行った。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Antigen-specific airway IL-33 production depends on FcγR-mediated incorporation of the antigen by alveolar macrophages in sensitized mice.	共著	2018年9月	Immunology vol.155 No.3
(論文) Regulatory T and B cells in peripheral blood of subcutaneous immunotherapy-treated Japanese cedar pollinosis patients.	共著	2019年4月	Immunotherapy vol.11 No.6
(論文) Adoptive transfer of type 1 regulatory T cells suppressed the development of airway hyperresponsiveness in ovalbumin-induced airway inflammation model mice.	共著	2019年12月	J. Pharmacol. Sci. vol.141 No.4
(総説) Steroid-resistant asthma and neutrophil	単著	2020年1月	Biol. Pharm. Bull. Vol.43 No.1
(論文) Pathogenic changes in group 2 innate lymphoid cells (ILC2s) in a steroid-insensitive asthma model of mice.	共著	2022年2月	Eur. J. Pharmacol. vol.916
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 重症喘息の線維化におけるchemokine receptor type 5 (CCR5)の役割		2022年8月	次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム2022
(演題名) 気管支喘息の気道リモデリングに対するcyclin dependent kinase (CDK) 8/19阻害薬の効果		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
(演題名) 重症喘息の線維化に伴う間質マクロファージ(IMs)の病的変化について		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
(演題名) 重症喘息モデルマウスに対するIL-10局所補充療法の効果		2022年12月	第96回日本薬理学会年会／第43回日本臨床薬理学会学術総会
(演題名) 重症喘息の肺線維化におけるCCR5+間質マクロファージの関与		2023年3月	日本薬学会第143年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			

2018年4月～現在	日本薬理学会代議員
2018年4月～現在	日本眼薬理学会 理事・評議員（第40回日本眼薬理学会 会長）
2018年4月～現在	日本薬学会代議員
2018年4月～2019年3月、2020年4月～現在	日本薬学会関西（近畿）支部幹事（第72回日本薬学会関西支部 実施委員長）

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 複合薬物解析学	職名 教授	氏名 矢部 武士
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 なし (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書 薬学生・薬剤師のための漢方医薬学 第4版(南江堂)		2022年9月15日	漢方薬の薬理関連について執筆した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Methyl Donor Supplementation Prevents a Folate Deficiency-induced Depression-like State and Neuronal Immaturity of the Dentate Gyrus in Mice.	共著	2022年3月	Neuroscience. 485: 12-22, 2022.
(論文) Kihito prevents corticosterone-induced brain dysfunctions in mice.	共著	2021年11月	J. Tradit. Complement. Med. 11:513-519, 2021
(論文) Low folate induces abnormal neuronal maturation and DNA hypomethylation of neuronal differentiation-related genes in cultured mouse neural stem and progenitor cells.	共著	2021年9月	Heliyon. 7:e08071, 2021
(論文) Ferulic acid alleviates abnormal behaviors in isolation-reared mice via 5-HT 1A receptor partial agonist activity.	共著	2021年8月	Phytopharmacology(Berl). 238:2147-2154, 2021
(論文) Post-weaning folate deficiency induces a depression-like state via neuronal immaturity of the dentate gyrus in mice.	共著	2020年6月	J. Pharmacol. Sci. 143:97-105, 2020
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
なし			
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～現在	日本生薬学会代議員		
2018年4月～現在	Journal of Natural Medicine 編集委員		
2021年4月～現在	日本薬学会代議員		
2020年4月～現在	枚方市保健所運営協議会委員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 生体分子分析学	職名 教授	氏名 山岸 伸行
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年4月 現在	授業評価アンケートの自由記述コメントに基づき、教授法や配布プリントの改善を毎年行ってきた。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年4月 2020年7月	基盤実習(1年次)において、学生の状況を確認しながら毎年改訂した(2018年度、2019年度、2020年度)。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2020年度より本学薬学部のFD委員長として、授業改善を目的とするワークショップを毎年企画・運営した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Depletion of Csk preferentially reduces the protein level of LynA in a Cbl-dependent manner in cancer cells.	共著	2020年5月	Scientific Reports Voi.10, No.1, 7621
(論文) Development of a system for the detection of the inflammatory response induced by airborne fine particulate matter in rat tracheal epithelial cells.	共著	2020年7月	Toxicology Reports Voi.7, 859~866
(論文) Association of Protein and Endotoxin in Outdoor Air with Emergency Department Visits for Children and Adults with Asthma in Fukuoka, Japan.	共著	2020年9月	Biol Pharm Bull. Voi.43, No.1, 1361~1366
(論文) Binding of Cu <sup>2+</sup> to Aβ <sub>1-29</sub> causes aggregation and toxicity in SH-SY5Y cells.	共著	2021年1月	Biochem Biophys Res Commun. Voi. 534, 617~623
(論文) Depletion of Csk preferentially reduces the protein level of LynA in a Cbl-dependent manner in cancer cells.	共著	2022年7月	Scientific Reports Voi.12, No.1, 11819
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
転移能が異なる結腸がんCT116由来細胞の遊走・浸潤性の比較		2022年10月	日本薬学会関西支部総会・大会
上皮サイトカイン TSLP 遺伝子の発現誘導能評価系の作製及び大気粉塵抽出物による評価		2022年10月	日本薬学会関西支部総会・大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月~現在	日本私立薬科学協会学生部長会		
2018年4月~現在	日本私立薬科学協会薬剤師国家試験問題検討委員会部会(物理・化学・生物)		
2018年4月~現在	薬学教育協議会放射薬学系教科担当教員会議		
2021年4月~現在	薬学教育協議会分析化学系教科担当教員会議		
2018年4月~現在	「認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ」タスクフォース(2018年度2回、2019年度1回)		
2018年7月	大阪府薬剤師会「認定実務実習指導薬剤師養成のためのアドバンストワークショップ」タスクフォース		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 薬物治療学	職名 教授	氏名 吉岡 靖啓
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ・ Moodleを利用した復習テストの実施 ・ 学生による授業アンケート実施結果を活用した教員表彰 ・ 学生による授業アンケート実施結果を活用した教員表彰	2020年4月～ 現在 2021年度後期 2019年度後期	毎回の授業実施範囲に関する復習テストを Moodleで実施し、授業後の復習を促進した。 消化器・血液疾患治療学及び内分泌・代謝性疾患治療学の2科目で表彰された。 消化器・血液疾患治療学及び内分泌・代謝性疾患治療学の2科目で表彰された。	
2 作成した教科書、教材、参考書 ・ 病気と薬物療法 内分泌疾患/代謝疾患（オーム社）	2018年9月5日	骨・関節関連疾患の項目（p146～184）を執筆した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・ 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・ 病態・薬物治療関連教科担当教員会議 ・ 薬学部FD委員会委員長	2021年4月～ 現在 2019年4月～ 2020年3月	会議に出席した（2回、年1回） 薬学部FD活動の企画・運営	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Dopamine attenuates lipopolysaccharide-induced expression of proinflammatory cytokines by inhibiting the nuclear translocation of NF- $\kappa$ B p65 through the formation of dopamine quinone in microglia.	共著	2020年1月	European journal of pharmacology, 866, 172826.
Endogenous apelin is protective against age-associated loss of retinal ganglion cells in mice.	共著	2020年3月	Front Aging Neurosci., 12, 58.
Systemic Administration of an Apelin Receptor Agonist Prevents NMDA-Induced Loss of Retinal Neuronal Cells in Mice.	共著	2020年4月	Neurochem Res., 45 (4), 752-759.
Noradrenaline protects neurons against H2O2-induced death by increasing the supply of glutathione from astrocytes via $\beta$ 3 -adrenoceptor stimulation.	共著	2020年9月	J Neurosci Res., 99 (2), 621-637.
Dopamine inhibits the expression of proinflammatory cytokines of microglial cells through the formation of dopamine quinone in the mouse striatum.	共著	2022年1月	J Pharmacol Sci., 148 (1), 41-50.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
化学的虚血による遅発性神経細胞死に対するノルアドレナリンによるアストロサイトを介した神経保護作用		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
ヒトアストロサイトマ U-251 MG 細胞におけるアルブミンによる細胞内グルタチオン量の増加を介した細胞死抑制作用		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
培養アストロサイトへの変異 SOD1及び PRDX6遺伝子導入によるALS病態進行関連分子の発現への影響		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
網膜虚血再灌流による網膜神経障害に対するアペリン-APJ システムの保護作用		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
活性化ミクログリアによる細胞障害性アストロサイト誘導機構		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
Albumin suppresses hydrogen peroxide- and nimustine-induced cell death via increasing intracellular GSH levels in human astrocytoma U-251 MG cells.		2022年12月	第96回日本薬理学会年会・第43回日本臨床薬理学会学術総会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			

2007年4月～現在	薬理学会学術評議員
2015年4月～現在	香里ヶ丘看護専門学校 非常勤講師
2018年10月～2020年10月	薬理学会代議員

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 薬理学	職名 教授	氏名 米山 雅紀
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 生体情報伝達学（授業評価平均4.0-4.3/5） 薬理学Ⅰ（授業評価平均4.0-4.3/5）	2016年～現在 2016年～現在	授業評価アンケートに基づいた改善 授業評価アンケートに基づいた改善	
2 作成した教科書、教材、参考書 医療薬学実習(b)実習書 看護学テキスト NiCE 薬理学	2022年8月 2020年11月	学生に理解しやすいよう改訂した 看護師・薬剤師・薬理学者が編集した看護のための薬理学書	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 薬学部FDワークショップ 第1回学長ワークショップ	2021年11月 2020年12月	社会からのニーズにマッチした学習効果の高い教育方略とは 学生が出席したい価値ある対面授業とは？その創意工夫とは？	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Treatment with cyclophosphamide in post-weaning mice causes prolonged suppression of neural stem cell proliferation in the hippocampal dentate gyrus	共著	2022年9月	Brain Research
Bacopa monnieri (L.) Wettst. Extract Improves Memory Performance via Promotion of Neurogenesis in the Hippocampal Dentate Gyrus of Adolescent Mice	共著	2020年5月	International Journal of Molecular Sciences
Interleukin-19 as an immunoregulatory cytokine	共著	2020年4月	Current Molecular Pharmacology
Bacopa monnieri (L.) Ameliorates Cognitive Deficits Caused in a Trimethyltin-Induced Neurotoxicity Model Mice	共著	2019年8月	Biological and Pharmaceutical Bulletin
Disruption of gap junction-mediated intercellular communication in the spiral ligament causes hearing and outer hair cell loss in the cochlea of mice	共著	2019年1月	Biological and Pharmaceutical Bulletin
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2020年4月～現在	薬剤師国家試験委員		
2019年4月～現在	予防薬理学研究所評議員		
2018年4月～現在	日本薬理学会代議員		
2009年4月～現在	日本薬理学会評議員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名	摂南大学	講座名	公衆衛生学
職名	特任教授	氏名	上野 仁
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1	教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2021年4月～現在  2021年4月～2022年3月  2018年4月～2020年3月	対面授業でもMoodleによる課題提出だけでなく形成的評価による演習問題作成により受講者の復習に役立てた。 Teams, Streamによるオンライン講義とMoodleによる資料閲覧・演習問題実施と課題提出を行った。 まとめ資料。演習問題の作成と配布。
2	作成した教科書、教材、参考書	2020年3月  2018年2月	コンパス衛生薬学－健康と環境－改訂第3版 第6版 衛生薬学 健康と環境
3	教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし
4	その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)	2018年4月～現在	学部および全学主催のFDフォーラムに参加している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書)「学校環境衛生基準」解説2022	共著	2022年7月	薬事日報, 978-4-8408-1578-9.
(論文) Naturally Oxidized Olive Oil Promotes Active Cutaneous Anaphylaxis and Th2 Cytokine Production	共著	2021年6月	Biol Pharm Bull., 44(6), 838-843.
(論文) Seleno-L-Methionine Suppresses Immunoglobulin E-Mediated Allergic Response in RBL-2H3 Cells.	共著	2019年7月	Biol Pharm Bull., 42(7), 1179-1184.
(論文) Naturally oxidized olive oil exacerbates contact hypersensitivity by promoting differentiation into effector T cells and increasing antigen-specific IFN- $\gamma$ production	共著	2018年11月	Food Agric. Immunol., 30(1), 74-86.
(論文) IL-18 and IFN-gamma expression enhances contact hypersensitivity after oral administration of naturally oxidized olive oil to mice	共著	2018年10月	Food Agric. Immunol. 29(1), 886-897.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Relationship between induction of insulin resistance and selenoprotein expression in skeletal muscle in diabetic mouse model		2022年7月	第49回日本毒性学会学術年会
(演題名) 老化に伴う耐糖能および運動機能低下と骨格筋中セレンタンパク質発現との関連性		2022年8月	フォーラム2022衛生薬学・環境トキシコロジー
(演題名) 老化促進マウスモデルの組織中セレンタンパク質発現－酸化ストレスとの関連性－		2022年10月	日本薬学会関西支部総会・大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～2021年3月	環境省 PCB廃棄物適正処理推進に関する検討委員会		
2018年4月～2020年3月	厚労省 薬剤師試験委員会		
2022年現在	大阪PCB廃棄物処理事業監視部会		
2022年現在	日本免疫毒性学会 評議員		

2018年4月～2019年3月	日本薬学会 学術編集委員
2022年現在	日本薬学会 環境・衛生部会 試験法部会

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 薬剤系薬学分野 (薬剤学)	職名 特任教授	氏名 山下 伸二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 卒業研究		2018年～現在	卒業研究の成果を学会発表させることによって学生の問題解決能力およびプレゼンテーション能力の向上に努めた
2 作成した教科書、教材、参考書 図解薬剤学改訂6版		2021年9月	共著、南山堂
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)
(論文) Liposomal Formulation for Oral Delivery of Cyclosporine A: Usefulness as a Semisolid-Dispersion System		共著	2022年8月
(論文) Importance of Gastric Secretion and the Rapid Gastric Emptying of Ingested Water along the Lesser Curvature ("Magenstraße") in Predicting the In Vivo Performance of Liquid Oral Dosage Forms in the Fed State Using a Modeling and Simulation.		共著	2022年2月
(論文) Bioequivalence of Oral Drug Products in the Healthy and Special Populations: Assessment and Prediction Using a Newly Developed In Vitro System "BE Checker".		共著	2021年6月
(論文) In vitro-in vivo correlation in the effect of cyclodextrin on oral absorption of poorly soluble drugs		共著	2021年5月
(論文) Species differences in the drug-drug interaction between atorvastatin and cyclosporine: In vivo study using a stable isotope-IV method in rats and dogs		共著	2020年9月
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) For what, so what?		2022年11月	第4回経口剤の生物学的利用率および同等性に関する国際シンポジウム
(演題名) 消化管内の薬物濃度を考える		2022年11月	日本薬物動態学会第37年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年5月～2022年6月		日本薬剤学会 監事	
2012年1月～2019年1月		創剤フォーラム代表世話人	
2018年9月～2022年9月		International Pharmaceutical Federation (FIP 世界薬学連合), Bard of Science 理事	

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 薬剤系薬学分野 (薬剤学)	職名 准教授	氏名 片岡 誠
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
生物薬剤学 (3年生)		2020年4月～	Formsを用いた講義後の確認問題の提供 事前動画(他科目で本科目に必要な内容)の提供 学生からの個別質問の受付
物理化学Ⅱ (2年生)		2020年4月～	Formsを用いた講義後の確認問題の提供 事前動画(他科目で本科目に必要な内容)の提供 学生からの個別質問の受付
実践薬学Ⅰ (4年生)		毎年	臨床前準備教育の一環として、臨床上の問題点 やその解決策等をわかりやすく解説した
2 作成した教科書、教材、参考書			
医療薬学実習a		毎年	学生実習用のテキストを作成した(共著)
図解薬剤学		2018年9月	講義に使用する教科書を編纂(改訂)した(共著)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
本学部FD委員長		2018年4月～ 2019年3月	委員長として本学部のFD活動の活性化に取り組ん
高校生に対する模擬授業		2019年7月8日	本学に来た高校生に対して物理化学の模擬講義 を行った
高校生に対する模擬授業		2021年10月14 日	高校に出張し、高校化学が薬学にどの様に関連 しているかわかりやすく講義した
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Impact of dietary intake of medium-chain triacylglycerides on the intestinal absorption of poorly permeable compounds	共著	2019年12月	Mol Pharmaceutics. 17:212-218 (2020)
(論文) An enteric polymer mitigates the effects of gastric pH on oral absorption of poorly soluble weak acid drugs from supersaturable formulations: A case study with dantrolene	共著	2020年8月	Eur J Pharm Biopharm 155:29-36 (2020)
(論文) In vivo screening of oral formulations using rats: Effects of ingested water volume on oral absorption of BCS class I and III drugs from immediate-release formulations	共著	2020年9月	J Drug Deliv Sci Technol. 60:102100 (2020)
(論文) In vitro-in vivo correlation in cocrystal dissolution: Consideration of drug release profiles based on cofomer dissolution and absorption behavior	共著	2021年11月	Mol. Pharmaceutics 18:4122-4130 (2021)
(論文) Effects of Ingested Water Volume on Oral Absorption of Fenofibrate, a BCS Class II Drug, from Micronized and Amorphous Solid Dispersion Formulations in Rats	共著	2022年10月	Biol. Pharm. Bull. 45, 1452-1457 (2022)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 難溶性薬物の過飽和製剤のin vivo performance評価		2022年5月	日本薬剤学会第37年会

(演題名) Oral Absorption of BCS Class II Drugs from Cocrystals: Evaluation and Control of In Vivo Cocrystal Dissolution Based on Physicochemical Properties of Cocrystals	2022年11月	4th International Symposium on BA/BE of Oral Drug Products, 2022
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2020年4月～現在	日本薬学会 学術誌編集委員	
2022年4月～現在	日本薬剤学会 FG統括委員	
2022年4月～現在	日本薬剤学会 投稿論文審査委員	
2018年10月～現在	日本薬物動態学会 DIS委員	

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 化学系薬学分野 (医薬品化学)	職名 准教授	氏名 河合 健太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2018年～現在	アクティブラーニングを取り入れた演習を行っている。また、授業評価アンケートのコメントを参考に、教材を改善している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2018年～現在	授業配布プリント、パワーポイントスライド 授業中に実施するための小テスト
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2018年～現在	学部および全学主催のFDフォーラムに参加し、教育改善に活用している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Fluorophenylalkyl-Substituted Cyanoguanidine Derivatives as Bacteria-Selective MATE Transporter Inhibitors for the Treatment of Antibiotic-Resistant Infections	共著	2022年10月	Bioorg. Med. Chem., 2022, 74, 117042. (Elsevier)
(論文) Discovery of benzyloxyphenyl- and phenethylphenyl-imidazole derivatives as a new class of ante-drug boosters	共著	2022年6月	Bioorg. Med. Chem. Lett., 2022, 72, 128868. (Elsevier)
(論文) Synthesis of 2,2-difluoro-2-arylethylamines as fluorinated analogues of octopamine and noradrenaline	共著	2022年3月	Heterocyclic Communications, 2022, 28, 26-34. (De Gruyter)
(論文) LCP: Simple Representation of Docking Poses for Machine Learning: A Case Study on Xanthine Oxidase Inhibitors	共著	2021年11月	Molecular Informatics, 2021, 40, 2100245. (Wiley)
(論文) Importance of the azole moiety of cimetidine derivatives for the inhibition of human multidrug and toxin extrusion transporter 1 (hMATE1)	共著	2021年9月	Chem. Pharm. Bull., 2021, 69, 905-912. (The pharmaceutical society of Japan)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
細菌多剤排出輸送体MATE阻害化合物の探索合成と活性評価		2022年10月	日本薬学会関西支部大会
多剤耐性菌に有効な細菌選択的MATE型輸送体阻害剤(SS-322)の創生		2022年7月	創薬懇話会2022 in名古屋
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年4月～現在	日本薬学会 学術誌編集委員		
2019年4月～現在	日本薬学会 構造活性相関部会 常任幹事		
2018年4月～現在	文部科学省 科学技術・学術政策研究所 専門調査員		
2016年4月～2022年9月	日本薬学会 構造活性相関部会 SAR News 編集委員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 薬効薬理学	職名	氏名 北谷 和之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2022年5月	病態生理学での反転授業	
	2022年6月	病態生理学での反転授業	
2 作成した教科書、教材、参考書	2019年6月	“リポソーム化セラミド製剤の前臨床研究” セラミド研究の新展開, 310-313 食品化学新聞社	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2021年4月 - 現在	FD委員活動	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Pathogenic changes in group 2 innate lymphoid cells (ILG2s) in a steroid-insensitive asthma model of mice	共著	2022年2月	European Journal of Pharmacology
Ceramide synthase 2-G24:1 -ceramide axis limits the metastatic potential of ovarian cancer cells.	共著	2021年2月	FASEB Journal
喘息関連遺伝子 ORMDL3 : スフィンゴ脂質合成との関り	単著	2020年10月	ファルマシア
Regulation of Necroptosis by Phospholipids and Sphingolipids	共著	2020年3月	Cells
Tyrosine kinase receptor TIE-1 mediates platinum resistance by promoting nucleotide excision repair in ovarian cancer	共著	2018年12月	Scientific Reports
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 喘息病態形成へのスフィンゴミエリン合成酵素2の関与		2022年10月	第15回セラミド研究会学術集会・第16回スフィンゴセラピ研究会
(演題名) 極長鎖セラミド依存的なネクロプトーシスの誘導		2022年10月	第15回セラミド研究会学術集会・第16回スフィンゴセラピ研究会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2022年6月 - 現在	Cells 誌 Special Issue Editor, Special Issue "Sphingolipid Signaling and Human Disease 2022"		
2021年11月 - 現在	第72回日本薬学会関西支部総会・大会 実施副委員長		
2021年3月	日本薬学会第141年会シンポジウム(オーガナイザー): スフィンゴ脂質生物学と治療		
2019年6月 - 現在	スフィンゴセラピ研究会 組織委員長		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 実践薬学分野	職名 准教授	氏名 小森 浩二
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2022年9月16日	自分が担当する授業において、教科書に基づく講義内容を動画として学生に配信し、対面での授業では臨床症例を呈示し、その問題解決を図る作業を中心とした反転授業を実施している。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2020年11月30日	南江堂より「看護学テキストNICE 薬理学」を共同執筆した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2020年12月1日	薬学教育学会の学会誌に「薬学実務実習における薬局・病院合同処方解析教育プログラムの導入とその評価」と題した論文を共同執筆・発表した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	なし	なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 看護学テキストNICE 薬理学	共著	2020年11月	南江堂
(論文) 早産児における新生児期の医薬品添加剤によるプロピレングリコール曝露量の検討	共著	2022年9月	日本小児臨床薬理学会誌 in press
(論文) 外来がん患者への継続的な面談による薬剤師の印象変化とその影響因子	共著	2022年2月	アプライド・セラピューティクス(第17巻)
(論文) 認知症カフェを継続的に運営するための課題とその提案 姫路市における20ヶ所の認知症カフェの調査から得た考察	共著	2022年1月	日本認知症ケア学会誌(第20巻第4号)
(論文) 認知症者が安心して生活できる地域づくりのために薬局ができること	共著	2021年12月	日本地域薬局薬学会誌(第9巻第2号)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 緑茶成分L-Theanineの乳汁移行性に関する非臨床的検討		2022年11月	第49回 日本小児臨床薬理学会
(演題名) トレーシングレポート(服薬情報提供書)の作成頻度の向上を目指した実態と意識調査		2022年7月	第24回 医薬品情報学会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2013年4月~2019年3月、2021年4月~現在	常翔啓光学園中学校・高校 学校薬剤師		
2018年10月~現在	日本アプライド・セラピューティクス学会 評議員		
2002年4月~現在	日本薬学会会員		
2006年4月~現在	日本病院薬剤師会・大阪府病院薬剤師会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 化学系薬学分野 (医薬品化学)	職名 准教授	氏名 佐藤 和之
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
1) 講義資料のweb公開		2018年4月より 現在	講義で用いる内容をPowerPointやpdfにまとめ、webやMS TEAMS上にて公開している。
2) 教育方法の工夫		2018年4月より 現在	学生の能動的な学修を促すため、演習やグループワークなどのアクティブラーニングを講義に取り入れている。
2 作成した教科書、教材、参考書			
1) 化学系薬学実習 実習講義用資料		2018年4月より 現在	薬学部2年次の実習講義用資料を随時作成し、webやMS TEAMS上にて公開、活用している。
2) 化学系薬学実習 実習書		2018年4月より 現在	薬学部2年次の学生実習用の実習書を毎年作成し、活用している。
3) 基盤演習Ⅲ (化学) 演習教材		2018年4月より 現在	薬学部1年次の学生に対し、有機化学の問題および解説教材を作成し、活用している。
4) 基礎薬学演習Ⅰ (化学系薬学)、実践薬学 演習教材		2018年4月より 現在	薬学部4年次の学生に対し、CBTや国家試験対策用の問題 (化学) および解説教材を作成し、活用している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
1) 中高大連携プログラム		2018年4月より 現在	中高大連携事業の一環として、付属学園の中学生を受け入れ化学実験を実施
2) 摂南大学薬学部オープンキャンパス		2018年4月より 現在	本学が主催するオープンキャンパス活動の一環として、来学した高校生を受け入れ化学実験を実施
3) 摂南大学薬学部 FD・SDフォーラム、摂南大学学長主催FDフォーラム		2018年4月より 現在	薬学部および学長が主催するFD・SDフォーラムに参加し、各種議題について討論・発表を行った
4) 摂南大学薬学部 教員活動評価 表彰		2019年4月、 2022年4月	本学が毎年実施している教員活動評価 (教育や研究など) において、優秀教員として表彰された。
5) 新入生ふれあいキャンプ		2018年5月	本学1年次の学生の学生間交流を促進する目的として、新入生ふれあいキャンプに参加・支援した。
6) 有機化学系教科担当教員会議		2018年11月	薬学教育協議会が主催する有機化学系教科担当教員会議に参加した。
7) 入試出題者委員会 (化学) 委員		2021年4月より 現在	本学の入学選抜試験の作問や採点業務を担っている。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
1) 医療に用いられるフッ素	共著	2021年	シーエムシー出版, 2021年, 第2章 10-20.

2) Reductive carbon-carbon bond forming reactions with carbonyls mediated by Rh-H complex.	共著	2020年	Wiley, Eur. J. Org. Chem., 2020, 2020 (42), 6503-6511.
3) Synthesis of new fluorescent molecules having an aggregation-induced emission property derived from 4-fluoroisoxazoles.	共著	2020年	Beilstein-Institut, Beilstein J. Org. Chem., 2020, 16, 1411-1417.
4) Lewis acid promoted fluorine-alkoxy group exchange reactions for the synthesis of 5-alkoxy-4,4-difluoroisoxazoline systems.	共著	2019年	Royal Society of Chemistry, Org. Biomol. Chem., 2019, 17 (10), 2818-2823.
5) 18. 因学発のオリジナル農薬創製を企図した新たな農薬分子骨格の構築と活性評価 (2)	共著	2019年	摂南大学地域総合研究所報 第5号, 2019, 71-82.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
細菌多剤排出輸送体MATE阻害化合物の探索合成と活性評価		2022年10月	第72回 日本薬学会関西支部大会
プロテアーゼ阻害剤シード化合物となるフッ素化ジペプチドの酵素的速度論的分割とその活性		2022年10月	第72回 日本薬学会関西支部大会
Krapcho脱炭酸を鍵とした連続反応による含フッ素キノリン合成法の開発		2022年10月	第72回 日本薬学会関西支部大会
多剤耐性菌に有効な細菌選択的MATE型輸送体阻害剤の創生		2022年8月	第42回 有機合成若手セミナー
多剤耐性菌に有効な細菌選択的MATE 型輸送体阻害剤 (SS-322) の創生		2022年7月	創薬懇話会 2022 in名古屋
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2021年11月~2022年10月	第72回 日本薬学会関西支部大会 実行委員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 臨床研究センター	職名 准教授	氏名 首藤 誠
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ・顧客シミュレーションの導入  ・調剤報酬を理解するための計算トレーニング  ・授業評価	2018年4月～  2018年4月～  2018年4月～	3年次「セルフメディケーション論」 疾患対応別にOTC薬の講義を行い、その際、実薬を回覧するなどし、学生がイメージしやすいよう、講義を実施。また、講義の最後20分間程度で、想定される顧客背景を示し、顧客に対する質問あるいは服薬指導などを学生に一問一答形式で、シミュレーションさせている。 3年次「社会薬学」 日本の医療経済の推移の変化から、薬剤師に関係する診療報酬の改定まで、解説を行い、調剤報酬に関しては、実際に計算を学生に実施させ、基礎的な部分の理解を深めさせている。 本学の学生による授業評価を行い、学生の要望に対応している。	
2 作成した教科書、教材、参考書 該当なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項	2018年4月～	学部開催のFD・SDフォーラムに参加している。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(著書) 看護学テキストNICE 薬理学	共著	2020年11月	南江堂
(著書) 小児製剤ハンドブック	共著	2020年9月	PHARM TECH JAPAN
(著書) 製剤設計の新展開-製剤技術が拓く薬物治療の新しい可能性-小児製剤の開発における薬剤学的な課題:アカデミアにおける取り組み	共著	2021年1月	月刊ファインケミカル
(論文) アジスロマイシン細粒の先発品および後発品の服用性に関する評価	共著	2020年2月	日本小児臨床薬理学会誌(第33巻第1号62-66)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
プレドニゾン含有小児用ゼリー剤の開発～苦味マスキング効果及び調剤時のハンドリング性の改善～		2022年10月	第72回 日本薬学会関西支部総会・大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年11月～	一般社団法人予防薬理研究所 評議員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 薬剤系薬学分野 (臨床薬物動態学)	職名 准教授	氏名 高木 敏英
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
①臨床薬物動態学におけるFormsによる確認テストの実施と個別添削	2020年～現在	講義後にその内容を反映させた練習問題をオンラインで出題し、提出者全員の記述内容を確認した。誤った回答をした学生には、どの段階で間違っているのかを個別にフィードバックすることで、学生自身の学びを積極的にサポートした。	
②授業アンケートに基づく教員表彰	2021年4月5日	2020年度前期に担当した臨床薬物動態学について、学生による授業アンケートの評価に基づいた表彰を受けた。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
①臨床薬物動態学 講義ノート	2020年～現在	重要項目をまとめた「講義ノート」を事前配布し、学生の理解の充実を図った。「講義ノート」は一部の内容を穴埋めとすることで、学生が緊張感をもって聴講する工夫を施した。	
②医療系薬学実習a 実習書	2020年～現在	国家試験対策として、薬剤学に関する計算問題の解答能力を確認するまとめテストを作成・実施し、学生の学力向上を図った。	
③国家試験対策 計算ドリル	2021年～現在	国家試験対策として、薬剤学に関する計算問題を繰り返し実施できるドリルを作成・実施し、学生の学力向上を図った。	
④国家試験対策 計算まとめテスト	2021年～現在	国家試験対策として、薬剤学に関する計算問題の解答能力を確認するまとめテストを作成・実施し、学生の学力向上を図った。	
⑤薬物動態学 配布資料	2022年～現在	講義に用いるスライドのうち、特に重要なものを事前配布し、学生の理解の充実を図った。配布資料は一部の内容を穴埋めとすることで、学生が緊張感をもって聴講する工夫を施した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
①第10回長崎大学薬学フォーラム 講演	2019年12月13日	薬学部学生および大学院生を対象とした内容として、製薬企業における創薬研究の変遷について紹介し、これまでの業務経験や創薬のおもしろさについて講義した。	
②2020年度授業デザイン研修ワークショップ参加	2020年	新しく着任した教員に対して実施された研修ワークショップに参加し、学修目標の立て方、学修方法、評価方法について議論した。	
③薬学部FD・SDフォーラム参加	2020年～現在	学部運営方針、国家試験対策方針等の協議に参加した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) In vitro sensitivity analysis of gastrointestinal dissolution profile of weakly basic drugs in the Stomach-to-Intestine Fluid Changing system: explanation for variable plasma exposure after oral administration.	共著	2021年2月	Molecular Pharmaceutics, 18(4), 1711-1719 (2021)

(論文) In vitro-in vivo correlation in the effect of cyclodextrin on oral absorption of poorly soluble drugs.	共著	2021年3月	International Journal of Pharmaceutics, 600, 120494 (2021)
(論文) New biphasic system in side-by-side chambers for testing drug dissolution and permeation in vitro (BiDP system).	共著	2021年7月	Journal of Drug Delivery Science and Technology, 65, 102747 (2021)
(論文) Bioequivalence of Oral Drug Products in the Healthy and Special Populations: Assessment and Prediction Using a Newly Developed In Vitro System "BE Checker".	共著	2021年7月	Pharmaceutics, 13(8), 1136 (2021)
(論文) Mechanistic analysis for positive and negative food effects on oral absorption of poorly soluble drugs from cyclodextrin containing formulations: Study with a mini-scale in vitro system.	共著	2022年5月	Journal of Drug Delivery Science and Technology, 73, 103440 (2022)
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
BEチェッカーへの炭酸緩衝液の導入：落とし蓋法の応用		2022年5月	日本薬剤学会第37年会
BEチェッカーを用いたOD錠のBE予測(2)：酸性薬物を含む製剤についての検証		2022年5月	日本薬剤学会第37年会
pH調節剤含有製剤の処方設計へのMicroFLUX®の適用		2022年5月	日本薬剤学会第37年会
BEチェッカーによる食後投与時の生物学的同等性評価法の構築		2022年5月	日本薬剤学会第37年会
アガロース膜/オクタノール system を用いた in vitro 薬物膜透過性評価		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2017年～2020年	日本薬剤学会核酸・遺伝子医薬FG幹事		
2017年～2020年	日本核酸医薬学会評議員・生物担当幹事		
2021年～現在	立命館大学創薬科学研究センター創剤研究コンソーシアム「経口剤のBEに関する検討会」実行委員		
2022年～現在	日本薬剤学会評議員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 生物系薬学分野 (生化学)	職名 准教授	氏名 竹内 健治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	～現在	教科書の内容に沿って、理解しにくい部分の図を作成しそれをプロジェクターで映すことにより視覚的に理解しやすいようにした。また、講義内容と講義順序に沿った穴埋めプリントを作成し、学生の理解の手助けになるように工夫した。演習科目では、薬剤師国家試験の過去問題などを用い、編集しなおして学生が理解しやすい演習問題を作成した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	～現在	教科書を使用しているが、教科書だけでは理解しにくい部分を演習形式にしたプリントを作成し講義内で使用している。毎講義の達成度を確認するために小テストを作成し配布した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項	～現在	学内で行われるFD関連の会議にはすべて参加している。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) Identification of the active site and characterization of a novel sporulation-specific cysteine protease YabG from <i>Bacillus subtilis</i> .	共著	2022年3月	Journal of Biochemistry vol.171 No. 3
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
～現在	日本薬学会会員		
～現在	日本分子生物学会会員		
～現在	日本生化学会会員		
～現在	日本癌学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 薬学教育センター (統合薬学)	職名 准教授	氏名 田中 雅幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
循環器疾患治療学 (薬学部)		2020年度～	講義毎の予習問題・復習問題 (moodle) と、講義中のFormsによる確認試験を実施するなど、アウトプットの場を多く設けることで、学生が成長実感を持てる学びの場の創出に努めた。
薬物治療学 (看護学部)		2016年度～	
患者コミュニケーション (薬学部・看護学部)		2021年度～	薬学部生・看護学生の混合グループでディスカッションをすることで、多職種連携への理解を深め、実践できる能力の醸成に努めた。
プレファーマシー実習		2022年度～	コミュニケーション分野において、学生の実習風景をスマホやタブレットで動画撮影し、自身の実技を後から振り返る機会を設けた。
2 作成した教科書、教材、参考書			
薬理学 (看護学テキストNiCE)		2020年11月	第3章 (心臓・血管系疾患治療薬)、第4章 (血液・造血器系疾患治療薬)、第6章 (呼吸器系疾患治療薬) を執筆した。(南江堂)
循環器疾患治療学 (薬学部)		2020年度～	講義スライド1～13回分。予習問題5問×12回、復習問題10問×13回、講義中試験5問×13回分作成。
薬物治療学 (看護学部)		2020年度～	講義スライド1～15回分。予習問題5問×14回、復習問題10問×15回、講義中試験5問×15回分作成。
プレファーマシー実習テキスト		2022年	「医師への情報提供」の執筆・確認を担当した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			該当なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
薬学部主催によるFD・SD研修会への参加		2020年度～	4月、10月に学部で開催されるFD・SDフォーラムに参加し、教育活動に対する見識を深めた。
OSCE委員		2020年度～	2021年度OSCEステーション責任者を担当した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) ニボルマブによるリウマチ性多発筋痛症に低用量の副腎皮質ステロイドが有効であった一例	共著	2019年3月	薬学雑誌 (139巻・3号)
(論文) Efficacy of Oxycodone for Dyspnea in End-stage Heart Failure with Renal Insufficiency: A Case Report	共著	2018年1月	Internal Medicine, Vol. 57, No. 1, 53-57

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
（演題名）舌下適用型ゼリー剤によるペプチド医薬品の新たな投与法の開発	2022年5月	日本薬剤学会第37回年会
（演題名）腎機能に応じたテイコプラニン初期負荷投与の検討	2022年6月	第70回 日本化学療法学会総会
（演題名）心リハスタッフが知っておきたい慢性心不全新規治療薬のチェックポイント	2022年6月	第28回 日本心臓リハビリテーション学会学術集会
（演題名）マウス皮膚への近赤外線照射による熱ショックタンパク質HSPの発現誘導	2022年7月	医療薬学フォーラム2022・第30回 クリニカルファーマシーシンポジウム
（演題名）Doxil <sup>®</sup> 投与による手足症候群様の特徴を有する皮膚障害モデル動物の作製とその評価	2022年7月	医療薬学フォーラム2022・第30回 クリニカルファーマシーシンポジウム
（演題名）ドキシソルビン皮下投与マウスにおける皮膚潰瘍の組織形態学的解析	2022年7月	医療薬学フォーラム2022・第30回 クリニカルファーマシーシンポジウム
（演題名）ドキシル投与ラットの後肢皮膚組織における手足症候群様症状の解析	2022年7月	医療薬学フォーラム2022・第30回 クリニカルファーマシーシンポジウム
（演題名）非弁膜症性心房細動患者に対するアピキサバンの過少用量における有効性と安全性の検討	2022年7月	医療薬学フォーラム2022・第30回 クリニカルファーマシーシンポジウム
（演題名）免疫グロブリン大量点滴静注療法における血圧上昇に関する危険因子の検討	2022年7月	医療薬学フォーラム2022・第30回 クリニカルファーマシーシンポジウム
（演題名）がん患者における心不全の予防・治療と緩和ケア～循環器担当薬剤師の視点から～	2022年9月	第32回 日本医療薬学会年会
（演題名）ルキシリチニブによる薬剤関連進行性多巣性白質脳症を疑った骨髄線維症の一例	2022年9月	第32回 日本医療薬学会年会
（演題名）高齢者心不全における慢性心不全治療薬のチェックポイント	2023年3月	第87回 日本循環器学会学術集会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2003年～現在	日本臨床薬理学会 会員（臨床薬理学会認定薬剤師、臨床薬理学会指導薬剤師、「臨床薬理学の技術専門員」の依頼受託可能）	
2005年～現在	日本医療薬学会 会員（医療薬学専門薬剤師、医療薬学指導薬剤師、薬物療法専門薬剤師、薬物療法指導薬剤師）	
2016年～現在	日本心臓リハビリテーション学会 会員	
2016年～現在	日本医薬品安全性学会 会員	
2017～2022年	日本糖尿病療養指導士認定機構（糖尿病療養指導士）	
2018年9月	関西医科大学附属病院 市民公開講座（心不全）にて講師	

2019年9月	関西医科大学附属病院 市民公開講座（認知症）にて講師
2019年11月～現在	関西医科大学附属病院心臓集中治療室 薬剤師
2020年10月	京都府立南陽高等学校 模擬授業を実施
2020年～現在	日本循環器学会 会員（心不全療養指導士）

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 病態医科学	職名 准教授	氏名 辻 琢己
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2018年度～現在	学習意欲の向上を企図し、修得した知識や技能の実臨床での活用方法について具体的に説明。学生のニーズに合致した科目運営を企図し、授業アンケート結果を用いた授業改善。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年度～現在	担当科目（講義・演習・実習）の資料及び実習書の作成/改訂。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演	2021年12月	完全遠隔方プログラムによる臨床マインド育成の試み（薬学教育，第5巻，2021）	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2018年度～現在	学部開催のFDフォーラム及びFDWSへの参加。 認定実務実習指導薬剤師養成のためのWSに実行委員として参加。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Therapeutic Strategy for Rheumatoid Arthritis by Induction of Myeloid-Derived Suppressor Cells with High Suppressive Potential	共著	2022年8月	Biol. Pharm. Bull. (45. 8)
(論文) Renin-angiotensin system inhibitors combined with cisplatin exacerbate cisplatin-induced nephrotoxicity in mice	共著	2022年4月	Transl. Oncol. (18)
(論文) Sivelestat's effect on Candida albicans water-soluble fraction-induced vasculitis	共著	2022年1月	Pediatrics International (64. 1)
(論文) Preventive effect of edaravone ointment on cyclophosphamide-chemotherapy induced alopecia.	共著	2021年10月	Support Care Cancer (29. 10)
(論文) Characterization of an Expanded IL-10-Producing-Suppressive T cell Population Associated with Immune Tolerance.	共著	2021年4月	Biol. Pharm. Bull. (43. 9)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 関節リウマチ治療での生物学的製剤の早期効果判定に有用な因子に関する研究		2022年10月	第72回 日本薬学会関西支部総会・大会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2019年4月～現在	一般社団法人薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構委員		
2020年10月～現在	一般社団法人大阪府薬剤師会 薬学生実務実習受入対策委員会委員		
2022年4月～現在	認定実務実習指導薬剤師養成小委員会委員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 疾病予防学	職名 准教授	氏名 中尾 晃幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫  (授業評価等を含む)	2018年～現在  2018年～現在	授業評価アンケートのコメントに基づいて、教授法、授業プリント及びLMS(Learning Management System:学習管理システム)－Moodleの改善作業を行っている。  演習科目において、演習問題解答、自己学習、グループワークによる答え合わせ、解説講義など、双方向性の演習講義を実施している。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年～現在 2020年～現在	自作した授業プリントの配布  LMS-Moodleを利用した授業プリント、参考資料、小テストの配信	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項  (FDを含む)	2018年～現在  2018年～現在	学部および全学主催のFDフォーラムに参加している。  高校を訪問し、薬学部の概要を説明するとともに模擬授業を行っている。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Distribution, Metabolism, Excretion, and Lactational Transfer to Pups of Tetrabromobisphenol A and Its Metabolites in C57BL/6 Mice	共著	2022年6月	BPB-Reports, vol. 5 No. 3
(論文) Long-term orally exposure of dioxins affects antigen-specific antibody production in mice	共著	2021年12月	Toxicology Reports, vol. 9
(調査報告書) 移民・難民問題に触れて -長期海外出張(カナダ)での体験談-	単著	2020年12月	摂南大学「地域と結びついた『異文化間相互理解と不寛容除去』の研究プロジェクト
(論文) 薬毒物代謝酵素と環境汚染物質の代謝活性化	単著	2019年4月	廃棄物資源循環学会誌(第30巻第3号)
(論文) Complex toxicity as disruption of adipocyte or osteoblast differentiation in human mesenchymal stem cells under the mixed condition of TBBPA and TCDD	共著	2018年6月	Toxicology Reports, vol. 5
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
有機リン系難燃剤による母乳汚染と乳児摂取量の解明		2022年・6月	第30回環境化学討論会
皮膚アレルギー増悪化作用を有する紫外線吸収剤の探索		2022年・6月	第30回環境化学討論会
PPAR $\alpha$ の活性化はベンゾトリアゾール系紫外線吸収剤のCYP1A誘導作用を増強する		2022年・6月	第30回環境化学討論会
生活習慣病を誘発するトランス脂肪酸の摂取量調査:固相カートリッジを用いたトランス異性体の分離方法の検討		2022年・10月	第72回 日本薬学会関西支部総会・大会
紫外線吸収剤の皮膚曝露によるアレルギー増悪化作用の評価		2022年・10月	第72回 日本薬学会関西支部総会・大会

ベンゾトリアゾール系紫外線吸収剤とPPAR $\alpha$ リガンドの複合曝露がCYP1A発現とROSに及ぼす影響に関する検討	2022年・10月	第72回 日本薬学会関西支部総会・大会
有機リン系難燃剤を指標とした母乳汚染実態の解明	2022年・10月	第72回 日本薬学会関西支部総会・大会
炎症性サイトカインの産生を指標としたトランス脂肪酸の影響評価	2022年・10月	第72回 日本薬学会関西支部総会・大会
ヒト肝星細胞株LX-2の活性化に対するベンゾトリアゾール系紫外線吸収剤の影響の解明	2022年・10月	第72回 日本薬学会関西支部総会・大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2009年4月～現在	日本環境化学会 評議員	
2019年6月～2021年6月	第29回環境化学討論会 実行委員長	
2021年4月～現在	日本環境化学会 理事	
2021年6月～2022年6月	第30回環境化学討論会 実行委員	
2022年6月～現在	第31回環境化学討論会 副実行委員長	
2022年10月～現在	令和4年度臭素系ダイオキシン類実態解明等に関する調査業務検討会委員	

教育および研究活動の業績一覧

大学名 摂南大学	講座名 薬学教育センター (統合薬学)	職名 准教授	氏名 西田 健太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
臨床準備教育における科目横断的な統合型演習のシナリオ作成及び演習の企画・実施	2018年4月1日	<p>【実践薬学Ⅲ】処方・疾患から患者状態を推測するために必要な生物学および薬理学的視点を身に付けることを目的としたSGDを企画運営した。</p> <p>【実践薬学Ⅴ】実践的な薬剤師としての資質能力を醸成することを目的としたシナリオ作成、SGDの企画運営を行った。具体的には、各専門領域を一つのシナリオを通じて演習することによって、各専門科目の履修が済んでいる学生が患者の病態進展を理解しやすいように配慮した。</p> <p>【物理学】2019年度 (Q3~9Ave. 4.2/5点、回収率79.6%) 学生の意欲的な取り組み (Q1) は、4.0 (そう思う) であり、前年度の2.8 (そう思わない、どちらともいえない) に比べて明らか増加した。しかし、学習時間 (Q2) は前年度をほぼ変わらなかったことから、学習時間を増やすことが2019年度の課題である。</p>	
講義内容の学生による授業評価 (物理学)	2019年4月1日 ~	<p>学生のコメントでは、『熱心に教えてくれて、物理が苦手な人でもとても分かりやすくして良い授業だと思います。』、『物理は難しいですが先生の話の聞いたら理解できる問題があります。』、『高校で物理をしていなかったため不安だったが、分かりやすかったため、頭に入りやすかった。』 (原文のまま) などリメディアル教育を意識していた成果を認めた。</p> <p>2020年度 (項目平均3.8/5点) 2021年度 (項目平均4.0/5点) 2022年度 (項目平均3.7/5点)</p> <p>●2018年度前期授業アンケートに基づく教員表彰 (第一席) に選ばれた。</p>	
基礎科目と臨床領域をリンクさせることを意図とした講義教材の作成	2019年4月1日	<p>【物理学】『点滴バックにオレンジ色の遮光シートを被せること』、『胎児の心血流をイメージできるメカニズム』等の物理学的な考え方を促すための教材を作成した。</p> <p>【生化学 I 特別講義】『点滴にビタミン剤を混ぜる理由』を生化学的に説明させる教材を作成した。</p>	
講義内容の学生による授業評価 (生化学 I 特別講義)	2019年4月1日	<p>【生化学 I 特別講義】対象: 生物系科目下位26名 (Q3~9 Ave. 4.5/5点、回収率61.5%) 学習時間 (Q2) は2.8であり、本講義対象者の1.8に比べて明らかに長く、学習習慣を形成させることに寄与した結果であると考えられた。教員の板書・スライドの項目 (Q3)、熱意 (Q7)、理解させるための工夫 (Q8) 及び総合評価 (Q9) はそれぞれ4.8、4.4、4.6及び4.6と高い評価であった。自由記述より、『授業に於ける解説が非常に解りやすかったので、本授業を受講するにあたって十分な予習をすることが出来た。また、本授業の内容が格段に理解できるようになった。』 (原文のまま) と回答した学生もあり、開講目的は達成されたと考えている。</p>	

講義内容の学生による授業評価（物理化学）	2020年4月1日～	【物理化学 I 特別講義】対象：物理系科目下位26名 (Q3~9Ave. 4.3/5点、回収率57.7%) 学習時間(Q2)は2.7であり、本講義の1.8に比べて明らかに長かった。教員の板書・スライドの項目(Q3)、熱意(Q7)、理解させるための工夫(Q8)及び総合評価(Q9)はそれぞれ4.4、4.4、4.3及び4.4と高い評価であった。自由記述より、『とても熱心に授業をしてくれてありがたいです。感謝しかありません。』（原文のまま）とあり、学生のニーズに合致していたと考えられる。 2020年度（項目平均4.1/5点） 2021年度（項目平均4.0/5点） ●2020年度後期授業アンケートに基づく教員表彰（第一席）に選ばれた。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2021年1月30日	完全遠隔型プログラムによる臨床マインド育成の試み。辻 琢己, 倉本 展行, 安原 智久, 西田 健太郎, 久家 貴寿, 5巻, 薬学教育	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2018年4月1日～	毎年の摂南大学FDSDフォーラムへの参加 毎年の薬学部FDワークショップへの参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Ergothioneine ameliorates oxaliplatin-induced peripheral neuropathy in rats	共著	2018年7月	Life Sciences, vol207, 516-524
(論文) Ceramide synthase 2-C24:1-ceramide axis limits the metastatic potential of ovarian cancer cells	共著	2021年1月	FASEB J, vol35, e21287
(論文) The conserved C-terminal residues of FAM83H are required for the recruitment of casein kinase 1 to the keratin cytoskeleton	共著	2022年7月	Sci Rep, vol12, 11819
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) Doxil投与による手足症候群様の特徴を有する皮膚障害モデル動物の作製とその評価		2022年7月	医療薬学フォーラム2022
(演題名) ドキソルビシン皮下投与マウスにおける皮膚潰瘍の組織形態学的解析		2022年7月	医療薬学フォーラム2022
(演題名) マウス皮膚への近赤外線照射による熱ショックタンパク質HSPの発現誘導		2022年7月	医療薬学フォーラム2022
(演題名) ドキシル投与ラットの後肢皮膚組織における手足症候群様症状の解析		2022年7月	医療薬学フォーラム2022
(演題名) アピキサバンの過少用量における有効性と安全性について：非弁膜症性心房細動患者における検討		2022年7月	医療薬学フォーラム2022
(演題名) 免疫グロブリン大量点滴静注療法における血圧上昇に関する危険因子の検討		2022年7月	医療薬学フォーラム2022
(演題名) 抗てんかん薬バルプロ酸と食物繊維の相互作用—バルプロ酸のCaco-2細胞での膜輸送に対するキトサンの影響—		2022年7月	医療薬学フォーラム2022
(演題名) ドキシル投与ラットの後肢皮膚障害における制御された細胞死の関与について		2022年10月	日本薬学会関西支部会
(演題名) Doxorubicin誘発性皮膚潰瘍形成におけるネクロトーシスの関与		2022年10月	日本薬学会関西支部会
(演題名) ソタロールによる薬剤性QT延長の危険因子の解析		2022年10月	日本薬学会関西支部会
(演題名) 免疫グロブリン大量点滴静注療法の血圧上昇に関する危険因子の解析：ヴェノグロブリン®における検討		2022年10月	日本薬学会関西支部会
(演題名) 抗てんかん薬バルプロ酸と食物繊維キトサンの相互作用		2022年10月	日本薬学会関西支部会

Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）	
2018年4月～現在	薬学部教務委員
2018年4月～現在	薬学部国家試験対策委員会 副委員長
2018年9月～2020年3月	薬学部学習能力適性試験WG グループ長
2022年4月～	薬学部将来構想委員会 副委員長

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 実践薬学分野	職名 准教授	氏名 向井 啓
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	～現在	重要なポイントをまとめた資料を作成し、教科書を理解するためのポイントをわかりやすく解説している	
2 作成した教科書、教材、参考書	～現在	配布資料、パワーポイントスライド	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	～現在	なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	～現在	学部および全学FDに参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
外来がん患者への継続的な面談による薬剤師の印象変化とその影響因子	共著	2022年2月	日本アプライド・セラピューティクス学会 17 1-11
認知症カフェを継続的に運営するための課題とその提案 姫路市における209ヶ所の認知症カフェの調査から得た考察	共著	2022年1月	日本認知症ケア学会 20 4 572-583
認知症者が安心して生活できる地域づくりのために薬局ができること	共著	2021年10月	日本地域薬局薬学会 9 2 50-61
出生前母体硫酸マグネシウム投与による新生児の未熟児動脈管閉存症発症リスクの検討	共著	2020年1月	日本小児臨床薬理学会雑誌 33 1 8-13
Characterization of Nocardithiocin Derivatives Produced by Amino Acid Substitution of Precursor Peptide notG	共著	2019年3月	International Journal of Peptide Research and Therapeutics 25 103 1-10
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2012～現在	日本化学療法学会会員		
2017～現在	薬学教育学会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 複合薬物解析学	職名 講師	氏名 荒木 良太
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2018年4月～ 現在	講義前に独自で作製したテキストやプリントを配布している。Moodleによる確認試験を実施しているほか、2022年からは復習用の講義動画をアップロードしている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2018年4月～ 現在	テキスト、プリント、講義動画を作成し配布している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2018年4月～ 現在	高校での模擬授業を3回実施した。また、学園内の高大連携プログラムを通して、高校の1科目を担当している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Methyl donor supplementation prevents a folate deficiency-induced depression-like state and neuronal immaturity of the dentate gyrus in mice.	共著	2022年5月	Neuroscience, <b>485</b> , 12-22, 2022.
(論文) Low folate induces abnormal neuronal maturation and DNA hypomethylation of neuronal differentiation-related genes in cultured mouse neural stem and progenitor cells.	共著	2021年7月	Heliyon, <b>7</b> , e08071, 2021.
(論文) Kihito prevents corticosterone-induced brain dysfunctions in mice.	共著	2021年5月	J Tradit Complement Med., <b>11</b> , 513-519, 2021.
(論文) Ferulic acid alleviates abnormal behaviors in isolation-reared mice via 5-HT1A receptor partial agonist activity.	共著	2021年4月	Psychopharmacology, <b>238</b> , 2147-2154, 2021.
(論文) Post-weaning folate deficiency induces a depression-like state via neuronal immaturity of the dentate gyrus in mice.	共著	2020年6月	J Pharmacol Sci., <b>143</b> , 97-105, 2020.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
抗菌薬による発達期の腸内細菌叢の異常と自閉症スペクトラム障害との関連性についての基礎的研究		2022年11月	第96回日本薬理学会年会
フェルラ酸のBPSD改善作用に関する基礎研究		2022年11月	第27回国際個別化医療学会 学術集会
フェルラ酸の認知症周辺症状改善作用のメカニズム解析—5-HT1A受容体の関与—		2022年11月	第27回国際個別化医療学会 学術集会
幼少期のクラリスロマイシン投与は成熟後の自閉症様行動を誘発する		2022年11月	第142回日本薬理学会近畿 部会
コルチコステロン慢性投与によるうつ様行動および神経新生の減少に対するアルカリイオン水の影響の解析		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部 総会・大会
幼若期クラリスロマイシン投与が腸内細菌叢と大脳皮質遺伝子発現に及ぼす影響の網羅的解析		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部 総会・大会
フェルラ酸およびフェルラ酸代謝物の神経薬理学的プロファイルの解析—アゴニスト活性の評価—		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部 総会・大会
神経精神疾患領域で用いられる漢方薬の細胞外モノアミン取り込み作用に及ぼす影響の解析		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部 総会・大会
コルチコステロンによる脳内pHおよびアストロサイトの細胞外pHへの影響の解析		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部 総会・大会
幼若期クラリスロマイシン投与と自閉症スペクトラム障害様行動に関する基礎的研究		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部 総会・大会
大脳皮質前頭前野におけるセロトントランスポーターの減少が不安様行動を誘発する		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部 総会・大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～現在	日本薬理学会 学術評議員		
2018年10月 - 2020年9月	日本薬理学会 代議員		

教育および研究活動の+B34+B+B2: G25			
大学名 摂南大学	講座名 薬物治療学	職名 講師	氏名 石丸 侑希
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ・ Microsoft Formsを利用したプレ・ポストテストの実施	2022年4月～ 現在	毎回の授業前後にプレ・ポストテストをMicrosoft Formsで実施し、授業内容の理解と復習を促した。	
2 作成した教科書、教材、参考書 ・ 該当なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・ 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・ 2020年度教員活動評価表彰 ・ 薬理学エデュケーター認定（第0051号）  ・ 学長ワークショップおよび薬学部FDワークショップへの参加	2021年10月13日  2019年12月3日  2018年7月14日 2019年7月13日 2020年12月7日 2021年6月4日 2021年7月1日 2022年9月9日	教育活動を含めた教員活動評価（2020年度）において表彰された。  日本薬理学会から薬理学教育能力を有する者として認定を受けた。  ・ 学長ワークショップに参加し、学生が出席したい価値ある対面授業とその創意工夫などについて議論した。 ・ 薬学部FDワークショップに参加し、卒業率の向上や学生が望む授業などについて議論した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Dopamine attenuates lipopolysaccharide-induced expression of proinflammatory cytokines by inhibiting the nuclear translocation of NF- $\kappa$ B p65 through the formation of dopamine quinone in microglia.	共著	2020年1月	European journal of pharmacology, 866, 172826.
Endogenous apelin is protective against age-associated loss of retinal ganglion cells in mice.	共著	2020年3月	Front Aging Neurosci., 12, 58.
Systemic Administration of an Apelin Receptor Agonist Prevents NMDA-Induced Loss of Retinal Neuronal Cells in Mice.	共著	2020年4月	Neurochem Res., 45(4), 752-759.
Noradrenaline protects neurons against H2O2-induced death by increasing the supply of glutathione from astrocytes via $\beta$ 3-adrenoceptor stimulation.	共著	2020年9月	J Neurosci Res., 99(2), 621-637.
Dopamine inhibits the expression of proinflammatory cytokines of microglial cells through the formation of dopamine quinone in the mouse striatum.	共著	2022年1月	J Pharmacol Sci., 148(1), 41-50.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
化学的虚血による遅発性神経細胞死に対するノルアドレナリンによるアストロサイトを介した神経保護作用		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
ヒトアストロサイトーマ U-251 MG 細胞におけるアルブミンによる細胞内グルタチオン量の増加を介した細胞死抑制作用		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
培養アストロサイトへの変異 SOD1及び PRDX6遺伝子導入によるALS病態進行関連分子の発現への影響		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会

網膜虚血再灌流による網膜神経障害に対するアペリン-APJ システムの保護作用	2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
活性化ミクログリアによる細胞障害性アストロサイト誘導機構	2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
Albumin suppresses hydrogen peroxide- and nimustine-induced cell death via increasing intracellular GSH levels in human astrocytoma U-251 MG cells.	2022年12月	第96回日本薬理学会年会・第43回日本臨床薬理学会学術総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2012年4月～現在	（一社）堺市歯科医師会堺歯科衛生士専門学校 非常勤講師	
2019年4月～現在	日本薬理学会学術評議員	
2022年4月～現在	日本口腔ケア学会評議員	
2022年6月～現在	Frontiers in Ophthalmology Review editor	

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 薬学教育センター (統合薬学)	職名 講師	氏名 伊藤 優
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 なし (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Molecular species delimitation reveals underestimated diversity in the tree genus <i>Nothapodytes</i> (Icacinaceae)	共著	2022年2月	Molecular species delimitation reveals underestimated diversity in the tree genus <i>Nothapodytes</i> (Icacinaceae)
(論文) Phylogeny and biogeography of <i>Sagittaria</i> (Alismataceae) revisited: evidence for cryptic diversity and colonization out of South America	共著	2020年11月	Journal of Plant Research 133(6) 827-839
(論文) First molecular phylogenetic insights into the evolution of <i>Eriocaulon</i> (Eriocaulaceae, Poales)	共著	2019年8月	Journal of Plant Research 132(5) 589-600
(著書) A Field Guide to Aquatic Plants of Myanmar	共著	2019年4月	Natural History Publications Borneo
(論文) Molecular phylogenetic species delimitation in the aquatic genus <i>Ottelia</i> (Hydrocharitaceae) reveals cryptic diversity within a widespread species	共著	2019年4月	Journal of Plant Research 132(3) 335-344
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2022年10月	日本薬学会関西支部大会庶務		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 薬学教育センター (統合薬学)	職名 講師	氏名 岩崎 綾乃
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
①薬学部・看護学部との合同講義における学生協働学習の構築	2016年4月～ 2022年3月	患者安全、患者コミュニケーション  看護学部の教員とともに、医療現場で生じる事象について学生の学習向けに課題作成を行い、薬学部と看護学部の学生がそれぞれの特性を活かしながら課題解決に協働して取り組める様に工夫をした。また、ロールプレイを活用し、学生が自ら「気づく」ことで体得する学習の工夫を行った。毎年、講義に向けて看護学部の教員とdiscussionを行いながら、学生が自ら学ぶ力を養う授業を構築した。	
②初年次の少人数指導を活用した学生のコミュニケーション力向上と大学での学びの意識づけ	2016年4月～継続	スタートアップゼミ、早期体験学習  担任制度を活用し、少人数学生に対して、コミュニケーションを定期的にとり、ゼミでの調査、発表、実験、レポート作成を通じ、大学での「課題発見」「能動的学び」を意識づけた。また、早期体験学習でのレポート添削を通じ、他者に伝える「言葉」の大切さについて学ぶ機会を設けた。加えて学生同士のコミュニケーションが出来るように促した。	
③1～3年次の知識を活用した臨床事例への応用力醸成に向けた講義構築（4年次生対象）	2018年4月～ 2021年3月	実践薬学Ⅱ、実践薬学Ⅴ  薬局における薬剤師の対応事例に対し、学生がこれまで学んだ知識を応用し、チーム・グループで解決策を見出していく能動的授業の構築を担当教員全員でdiscussionをしながら行った。実務実習に向けてのルーブリック評価を活用し、学生の評価を行った。「倫理」に関する内容について、学生が考えるきっかけを事例に組み込み、倫理的問題への思考を促すように工夫をした。	
④学生自らの「教育力・指導力」の醸成を目指す授業内容の工夫	2018年4月～継続	キャリア形成Ⅰ  2年次生が1年次生を教える機会を設け、その体験を通じて、その都度ふりかえりを行わせた。さらに教員からのフィードバックも行い、学生が自らの反省も活かして、能動的に教育に携われる様に工夫した。担当教員全員で学生と積極的にコミュニケーションをとり、他者との対話についても意識させた。	
⑤動画講義による事前学習およびフィードバックによる学習内容の定着の工夫	2020年9月～継続	基盤実習  2020年、対面講義が不可能になったため、学生が実習の前に自己学習できる動画を作成した。学生には動画講義を視聴するだけでなく、ワークを行わせた。対面での実習時には、そのワーク（宿題）について教員からのフィードバックを行うことで、事前学習と実習を結びつけて深められるようにした。実習内では、科学的知識を活用して、未知試料が何かを考えさせる、他者の結果と情報共有を行う、教員が質問を行い思考を促す等して、結果を多面的に見ていく力を養えるよう、担当教員で協働して学生教育に務めた。	

<p>⑥チーム・グループワークを活用した多面的視点の構築と対話による深い学びの場の提供、Moodle・Formsを活用した事前小テスト、課題提出による反転講義</p> <p>⑦患者講義による学生の患者への共感姿勢の醸成</p>	<p>2015年4月～継続</p> <p>2018年4月～2019年3月</p>	<p>生命倫理学</p> <p>臨床現場での倫理的問題、医療技術の急速な発展に伴う社会における倫理的問題について、チームで意見を交換し、討議をさせることで、自分とは違う考えがあること、正解のない問題に対しどのように考えるのか、を学ぶ場の提供を行っている。また、ジグソー法を活用し、自主的に考える力や積極性、協調性を培うように工夫している。2020年以前は、ディベートも用い、倫理的問題について内容を深める工夫も行った。</p> <p>学生は、事前にMoodle等で小テストを行う、事前課題を提出するなどし、講義時にはある程度の事前知識をつけた状況でdiscussionを行う反転講義を取り入れている。</p> <p>プレファーマシー実習</p> <p>実務実習前の4年次生を対象とし、B型肝炎患者による講義を行っている。患者の治療時の思いとともに薬剤師を含む医療従事者の対応等について、患者の視点でお話いただき、学生が患者のことを考える時間、自身のふるまいについて省察する時間となっている。さらに日本での集団予防接種によるB型肝炎の感染拡大の歴史的事実や患者への差別偏見について学生が知る機会としている。講義開催前には患者・弁護士とともに綿密に打ち合わせ運営している。</p>	
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>基盤実習（1年生）実習テキスト改訂と校正</p>	<p>2008年4月～継続</p>	<p>毎年、実習のテキスト、補助プリントを精査し、前年の実習時における学生の行動もふまえ、より分かりやすく、かつ学生自身が考えることができるよう工夫し改良している。</p>	
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <p>薬学部・看護学部の学生を対象とした「患者コミュニケーション」講義受講前後の医療コミュニケーションに関する認識変化</p> <p>摂南大学薬学部での臨床準備教育におけるB型肝炎患者講義による実務実習前の学生の患者・家族に対する意識変化</p> <p>薬学部1年生に対する「生命倫理学」受講前と受講後における意識調査</p>	<p>2022年3月26日</p> <p>2019年11月3日</p> <p>2019年7月14日</p>	<p>第142年会日本薬学会発表</p> <p>第29回日本医療薬学会年会、第139年会日本薬学会（続報報告）</p> <p>医療薬学フォーラム2019</p>	
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>FDフォーラムおよびFDワークショップ出席</p> <p>授業見学参加、学生授業アンケートの活用</p> <p>E-learningによる個人情報保護研修会の受講</p>	<p>2002年～現在</p> <p>2016年～</p> <p>2021年3月</p>	<p>摂南大学で開催のFDフォーラム、ワークショップに出席し、教育に活かすようにしている。また、近年増えてきている発達障がいへの理解を深め、合理的配慮に関する内容を学び学生指導に活かしている。</p> <p>摂南大学のFD活動の一環として、他の講義を見学し、自身の講義の構築に活かしている。また、学生の講義アンケートの内容も次年度講義に活かしている。</p> <p>個人情報およびデジタル資料に関する著作権等に関するe-learningを受講し、教育活動で注意している。</p>	
<p>II 研究活動</p>			
<p>1. 著書・論文等の名称</p>	<p>単著・共著の別</p>	<p>発行または発表の年月（西暦）</p>	<p>発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称</p>

(論文) テオフィリン徐放錠の溶出試験による品質評価	共著	2019年7月	アプライド・セラピューティクス vol.12 No.1
(論文) Population pharmacokinetics of afatinib and exposure-safety relationships in Japanese patients with EGFR mutation-positive non-small cell lung cancer.	共著	2019年8月	Scientific Reports vol.9 No.1
(論文) B型肝炎ウイルス感染患者が薬学生の学びを支援する学習方略：学びが患者への共感とリンクし深化する患者参加型教育	共著	2020年10月	YAKUGAKU ZASSHI vol.140 No.10
(論文) Effect of Dietary Fiber on the Level of Free Hypoglycemic Agents in Vitro	共著	2022年11月	Biol. Pharm. Bull. Vol.45 No.11
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
メトホルミンと食物繊維の相互作用—アルギン酸ナトリウムがCaco-2細胞でのメトホルミン膜輸送に与える影響—		2022年7月	医療薬学フォーラム2022
抗てんかん薬バルプロ酸と食物繊維の相互作用—バルプロ酸のCaco-2細胞での膜輸送に対するキトサンの影響—		2022年7月	医療薬学フォーラム2022
「生命倫理学」受講前と受講後における薬学部1年生の生命倫理に関する意識の変化		2022年7月	医療薬学フォーラム2022
薬学部生の「生命倫理」に対する捉え方の特徴～農学部生との認識や興味と比較～		2022年7月	医療薬学フォーラム2022
Doxil®投与による手足症候群の特徴を有する皮膚障害モデル動物の作製とその評価		2022年7月	医療薬学フォーラム2022
抗てんかん薬バルプロ酸と食物繊維キトサンの相互作用		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
ドキシル投与ラットの後肢皮膚障害における制御された細胞死の関与について		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2018年4月～2021年3月	アプライド・セラピューティクス学会誌 査読		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 機能形態学	職名 講師	氏名 宇野 恭介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ICTツールを利用した授業  少人数クラスでの反復学習	2020年～現在  2019年～現在	コロナ感染対策として、講義、演習、実習及び卒業研究等における学生指導にWEB 会議ツールを使った生配信授業・ゼミを実施し、多人数授業も含めて同ツールを活用した質問対応、資料提供を行う等、対面に劣らない授業の実現を目差した。また実習科目においては動画を配信したのちに、実際に操作してもらうことによる反転授業を取り入れた。  演習問題を解かせ、その解答解説を行った後日、再び自力で演習問題の解答を作成させること（反復）により学生に理解を深めさせた。学生の本試験での合格率の向上が認められた。	
2 作成した教科書、教材、参考書 生理解剖学Ⅱ講義ノート	2020年～現在	講義で説明する事項について講義ノートとしてまとめたものを活用することにより学生の学習進度促進及び理解を深めることを試みた。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 2022年度薬学部第1回FD・SDフォーラム 2022年度薬学部第2回FD・SDフォーラム	2022年4月6日 2022年9月8日	薬学部におけるFD・SDフォーラムには毎回参加し学部運営等について理解を深めている。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Delayed Expression of Both GABABR1 and GABABR2 Subunits in Murine Hippocampal Dentate Gyrus After a Single Systemic Injection of Trimethyltin	共著	2022年	Springer Neurochemical Research volume 47, pages2780-2792
Knockdown of Piccolo in the Nucleus Accumbens Suppresses Methamphetamine-Induced Hyperlocomotion and Conditioned Place Preference in Mice	共著	2022年	Springer Neurochemical Research volume 47, pages2856-2864
Apelin/Apelin Receptor System: Molecular Characteristics, Physiological Roles, and Prospects as a Target for Disease Prevention and Pharmacotherapy	共著	2021年	Ingenta Current Molecular Pharmacology, Volume 14, Number 2
Impairment of cognitive function induced by Shati/Nat8l overexpression in the prefrontal cortex of mice	共著	2020年	ELSEVIER Behavioural Brain Research Volume 397, 15 January 2021, 112938
Vulnerability to depressive behavior induced by overexpression of striatal Shati/Nat8l via the serotonergic neuronal pathway in mice	共著	2019年	ELSEVIER Behavioural Brain Research Volume 376, 30 December 2019, 112227
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
マウス海馬CA3領域へのPP5過剰発現は抗不安作用を惹起する		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
マウス脳海馬CA3領域特異的PP5過剰発現マウスの行動解析		2022年12月	日本薬理学会第96回年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2006年4月～現在	日本薬理学会 会員（2014年4月～学術評議員）		

2007年10月～現在	日本薬学会 会員 (2017年4月～薬理系薬学部会若手世話人会)
2011年6月～現在	日本神経化学会 会員
2011年11月～現在	日本神経精神薬理学 会員

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 薬理学	職名 講師	氏名 尾中 勇祐
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2019年4月1日 ～現在	全ての授業動画を授業開始時点から配信しており、いつでも予習復習ができるようにしている。対面授業ではMoodleやFormsを用いたアウトプットを主とした演習型の授業を行っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書		該当なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2019年4月1日 ～現在	学内FDワークショップへの参加。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Treatment with cyclophosphamide in post-weaning mice causes prolonged suppression of neural stem cell proliferation in the hippocampal dentate gyrus	共著	2022年9月	Brain. Res. 1796巻
（論文）Disruption of Gap Junction-Mediated Intercellular Communication in the Spiral Ligament Causes Hearing and Outer Hair Cell Loss in the Cochlea of Mice	共著	2018年10月	Biol. Pharm. Bull. 42巻
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
ミノサイクリンは腫瘍切除マウスで認められるうつ様行動および海馬ミクログリアの形態変化を改善する		2022年7月	日本薬理学会
Possible involvement of the hippocampal microglia in the abnormal sociability lasting after tumor resection in mice		2020年3月	日本薬理学会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2015年4月～現在	日本薬学会会員		
2019年4月～現在	日本薬理学会学術評議員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 疾病予防学	職名 講師	氏名 角谷 秀樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
①衛生薬学実習における個別対応型教育による課題発見能力と問題解決能力との育成	2018年4月～現在	3年次生に対して、各実習項目を1グループ3～4名の少人数で実施することで、マンツーマンの指導ができるように心がけている。教員の都合で実習を仕切るのではなく、学生の自主性を尊重し、失敗した際には何がいけなかったのか考えさせることで、課題発見能力と問題解決能力を育成することに重点をおいた。また、実習書の他に、穴埋め形式のプリントを配布することで、衛生試験法で取り上げられている試験法の基本から応用までを理解させることができ、学力向上に繋がった。	
②C-Learningの利用 (大阪工大情報科学部での環境情報科学(兼担))	2018年4月～現在	インターネットを経由したC-Learningを利用し、講義中に理解できなかったこと質問事項等を受付することにより、一方通行となりがちな授業スタイルを改善した。これは摂南大学薬学部と大阪工大情報科学部の校地間のギャップを埋めるための非常に有効な手法であり、質問事項をC-Learningの講義サイトに投稿することで、次の講義中あるいは個別に対応するといったシステムである。	
③スタートアップゼミにおける早期研究体験学習の指導	2018年4月～現在	自分の担任学生(1年次生)を対象にスタートアップゼミを開講しており、薬学の概要、ITを用いた情報収集法、早期体験学習における病院・薬局見学の発表指導、OTC薬の調査などを通して、初年次生に薬学に早くなじんでもらう努力を行っている。これに加えて、私は、早期に研究体験をさせることを目的として、本研究室の助教に協力を仰ぎ、簡単なタンパク質や遺伝子の取り扱いに関する体験学習を試みている。これにより、低学年時より、勉強へのモチベーションを高める工夫を行っている。	
④応用薬学実習生の学力向上を目的とした基礎薬学知識の確認	2018年4月～現在	研究活動を行う上で必要な基礎薬学の知識の確認・復習のために、研究室配属の4年次生に対して、これまで学んできた基礎薬学の中でも科学現象の原理原則に結びつきの強い、化学および物理の課題を与え、その確認試験を行った。また、勉強法についてもアドバイスを行った。これによって、これまでに身につけている知識を再確認することができ、基礎学力の向上に繋がりが、CBT対策にも一役買う結果となった。	
⑤特別研究I実習生の実務実習の充実化を目的とした薬理学の基礎知識の確認	2018年4月～現在	実務実習では実際の薬剤師の現場で、実習を行うことから、薬学の根幹の1つである薬理学の知識が極めて重要である。従って、研究室配属の5年次生に対して、薬理学の課題とその確認試験を行うことで、これまで学んできた薬理学の知識の確認・復習を行った。これによって、座学と現場とでの薬理学の関わりを深く理解することができた。また、実務実習期間で薄れがちな知識の予防ともなり、6年次における国家試験対策の一助にも繋がった。	

⑥学会発表及び研究室ゼミ、学術論文を活用したプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、問題解決能力の育成	平成22年4月～現在に至る	研究室配属の4、5、6年次生に対して、研究で得た成果を学会や研究室内でパワーポイント資料を作成し、発表させた。その発表成果を元に、個人個人にフィードバックし、改善点についてアドバイスをを行った。これによって、プレゼンテーション能力の向上に繋がった。さらに、発表を聞いている学生には必ず1つ以上質問することを決まりとすることで、発表者及び聴講者のコミュニケーション能力と問題解決能力が育成された。また、多くの相手と討議を行うことにより相手ごとに適した答え方や、表情により相手の理解を確認する習慣が身につく、将来、薬剤師として必要な患者に配慮する姿勢が身についた。加えて、英語の学術論文を活用することにより、英語力の向上、分からないことを調べることによる情報収集能力も併せて養うことができた。	
⑦授業アンケートを基礎とした改善・工夫	2021年4月～現在	食品衛生学では、市販されている食品中の有害物質と健康の関連、また、臨床栄養学では、食生活から見た生活習慣病の予防法等の、学生の興味ある内容を盛り込んで行うように努めた。また、授業アンケートに基づき、①わかりやすい授業への取り組み、②授業の質を高めるための取り組み、③教授能力向上のための取り組みについて、以下の工夫を行った。まず、必ず、授業の最初20分間は、前回の授業の重要点に関して、再度説明を行い、復習を心掛けた。また、授業の後半では、当日講義した内容を小テスト(形成的評価)形式で実施し、理解の定着を促す様にしている。教材プリントおよび授業の進め方については概ね好評を得ている。	
2 作成した教科書、教材、参考書 衛生薬学実習実習書	2018年4月～現在	3年次生に対して、衛生試験法の内容について、学生が理解しやすいように図表を多く用いて、この教材を作成した。また、本テキストには、各実習項目ごとにチェックシートが付属しており、実習の中で何を学ぶことができるのかを確認しながら実習するとともに、自身の到達度についても評価することが可能となっている。さらに、各実習項目ごとに、設問を記載し、学生の自己学習により実習内容の復習及び補助知識の確認を促すように工夫している。これによって、学生の衛生試験法に対する理解力の向上に繋がった。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		該当なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 ①薬学部FDフォーラムに参加	2018年4月～現在	毎年、学部全教員が参加し教育方法の改善について議論した。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Complex toxicity as disruption of adipocyte or osteoblast differentiation in human mesenchymal stem cells under the mixed condition of TBBPA and TCDD	共著	2018年6月	Toxicology Reports, 5, 737-43
(論文) Long-term orally exposure of dioxins affects antigen-specific antibody production in mice	共著	2021年12月	Toxicology Reports, 9, 53-57

(論文) Distribution, Metabolism, Excretion, and Lactational Transfer to Pups of Tetrabromobisphenol A and Its Metabolites in C57BL/6 Mice	共著	2022年3月	BPB reports, 5, 50-58
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 皮膚アレルギー増悪化作用を有する紫外線吸収剤の探索		2022年6月	環境化学物質 3 学会合同大会
(演題名) 炎症性サイトカインの産生を指標としたトランス脂肪酸の毒性評価		2022年10月	日本薬学会関西支部会
Ⅲ 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2021年4月～現在	日本環境化学会評議員		
2021年4月～現在	日本環境化学会「環境化学」誌編集委員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 生体分子分析学	職名 講師	氏名 久家 貴寿
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2017～現在	授業においては、学生のアウトプットを最重要視している。基本事項のインプットは、講義動画等を活用し、原則授業外で行う。授業中は、演習等で知識の活用方法を学ぶ。また、演習等の取組結果を分析することで、学生が必要とする情報を見極めて、フィードバックしている。 授業期間中は、授業方法等に関するの要望を、学生から毎週収集しており、常に授業方法の改善に取り組んでいる。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2017～現在	講義動画、演習用問題集などを教材として提供している。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項	2017～現在	学部開催のFDフォーラムに参加し、中長期的な教育改革についても議論している。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) The conserved C-terminal residues of FAM83H are required for the recruitment of casein kinase 1 to the keratin cytoskeleton	共著	2022年7月	Scientific Reports 12, 11819
(論文) The tyrosine kinase v-Src modifies cytotoxicities of anticancer drugs targeting cell division	共著	2021年2月	Journal of cellular and molecular medicine 25, 1677-1687
(論文) Binding of Cu <sup>2+</sup> to Aβ1-29 causes aggregation and toxicity in SH-SY5Y cells	共著	2021年1月	Biochemical and biophysical research communications 534, 617-623
(論文) Depletion of Csk preferentially reduces the protein level of LynA in a Cbl-dependent manner in cancer cells	共著	2020年5月	Scientific Reports 10, 7621
(論文) The tyrosine kinase v-Src causes mitotic slippage by phosphorylating an inhibitory tyrosine residue of Cdk1	共著	2018年10月	Journal of Biological Chemistry 293, 15524-15537
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
転移能が異なる結腸がんHCT116由来細胞の遊走・浸潤性の比較		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部大会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2020年7月、2021年7月	滋賀県立八日市高等学校出張講義		
2001年4月～現在	日本薬学会会員		
2009年4月～現在	日本プロテオーム学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 生物系薬学分野 (微生物学)	職名 講師	氏名 桑名 利津子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・ PowerPoint資料の提供 ・ 練習問題の提供 ・ 授業評価 ・ 学習動画の提供 ・ 学生からの質問に対する回答		～現在 ～現在 ～現在 ～現在 ～現在	学生が理解するための工夫としてPowerPointで資料を作成し、オンライン（Teams等）で配布した。 学習テーマごとに練習問題を作成し、Moodleで課題に取り組むように指導した。 学生アンケートによる授業評価を受けて、講義内容の改善に利用した。 パワーポイントの資料ごとに要点をまとめて解説動画を作成しオンライン（Streams）上にアップロードした。 メール、チャットを利用して講義に対する質問に回答する
2 作成した教科書、教材、参考書 ・ 講義プリントの作成 ・ 生物・衛生系薬学実習（微生物学実習）の実習書 ・ 生物・薬理学演習の問題を作成		～現在 ～現在 ～現在	細胞生物学・分子細胞生物学II講義用のプリントの作成 微生物学実習の実習書を作成し、動画もあわせて提供した 練習問題を作成し、小テストを行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・ 薬学部の大学教育における後継者問題		2019年10月	日本防菌防黴学会誌
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・ FD・SD研修会への参加 ・ ワークショップに参加 ・ 企業研究者向け講演会の講師 ・ 指導学生が学会にて若手奨励賞受賞 ・ 指導学生の学長賞受賞 ・ 指導技術士		～現在 ～現在 2014年～現在 2020年8月 2021年3月 2016年～現在	薬学部FD・SD研修会に参加した。 学長主催WSに参加した。 企業研究者向けの芽胞取り扱いについての講義特別研究I/IIで行った研究が第32回微生物シンポジウムにおいて若手奨励賞を受賞 指導学生が学長賞を受賞 技術士を目指す方の指導技術士を行っている（生物工学部門）
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）食品製造・検査における芽胞・損傷菌とその検出・制御技術	共著	2020年5月	シーエムシー出版
（著書）細菌芽胞の損傷	単著	2020年6月	J. Antibact. Antifung. Agents Vol.48 No.6, p279-284, 2020.
（論文）Identification of the active site and characterization of a novel sporulation-specific cysteine protease YabG from Bacillus subtilis	共著	2022年3月	J Biochem 2022 3;171(3):315-324
（論文）The Study of Diversity in Sporulation among Closely Genetically Related Bacillus cereus Strains.	共著	2022年10月	Biocontrol Sci. 2022;27(3):143-151.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
(演題名) Bacillus cereus の近縁株間における芽胞形成の多様性に関する研究	2022年9月	日本防菌防黴学会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
2020年6月～現在	日本防菌防黴学会 論文賞選考委員	
2020年6月～現在	日本防菌防黴学会 編集委員	
2011年1月～現在	日本農芸化学会会員	
2001年8月～現在	日本分子生物学会会員	
2011年5月～現在	日本防菌防黴学会会員	
2001年1月～現在	日本薬学会会員	

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 生命融合化学分野	職名 講師	氏名 田中 龍一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫	授業デザイン研修 ワークショップ	2018.8~2021.3	摂南大学全体の教育の質向上のための副学長 (萩田学長) 指導のワークショップメンバーと して協力
2 作成した教科書、教材、参考書			なし
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2021年9月5-9日	顧問兼監督(部長)を務める摂南大学準硬式野 球部枚方が28年ぶり2回目となる第53回全日本大 学選抜準硬式野球大会(清瀬杯)の出場権を獲 得
4 その他教育活動上特記すべき事項		2020年3月	医歯薬準硬式野球連盟内規ならびにコロナ感染 拡大防止規定を作成(平泉渉医歯薬理事(医 師)との連携)
		2022年3月	京阪神準硬式野球連盟へ新設学部である摂南大 農学部チームの正式登録(摂南枚方支部の2連 盟登録)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) The use of translucent skin mutants of the silkworm "o06" strain as a model of hyperuricemia based on analysis of uric acid metabolism	共著	2020年11月	AATEX, 25(1), 1-12.
(論文) The xanthine oxidase inhibitory activity and hypouricemic effects of new phenylpropanoid obtained from aerial parts of Matricaria chamomilla L.	共著	2019年10月	J. JSMUFF, 2(13), 77-90.
(論文) A Novel Lactone-Galactoside from the Rhizome of Ephedra sp.	共著	2019年3月	Food Function, 16, 2-6.
(特許) メタボリックシンドローム改善機能評価用モ デル動物の作製方法	共著	2022年7月	特願2022-116791
(特許) キサンチンオキシダーゼ阻害剤及びその製造 方法	共著	2019年12月	特許第6628204号
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
メタボリックシンドローム改善機能評価を目的とする代替実験動物と してのカイコ系統の利用		2022年11月	日本動物実験代替法学会 第35回大会
カミツレ由来XO阻害成分の高収率製造法 ―栽培、抽出、およびUV改 質法について		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部 総会・大会
天然由来成分スクリーニングに利用できる痛風-糖尿病代替動物モデル の作成		2022年7月	医療薬学フォーラム2022
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2020年3月~現在	関西医歯薬準硬式野球連盟 理事(常任、定例会年6回)		
2021年1月~現在	全日本大学準硬式野球連盟 関西地区選出理事(広報担当、定例会年7回)		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 化学系薬学分野 (薬化学)	職名 講師	氏名 樽井 敦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 アクティブラーニングの実施 反転授業 有機化学Ⅰ 特別合議 有機化学Ⅱ 特別講義	2016年～2022年 2022年4月1日 2017年～2020年 2019年～2022年	マークシートによるiRATとSGDによるtRATでの学習。基本開設等は実施しない。学生の積極性を育てている。 動画の事前配信とFormsによる学習状況の確認、そして対面授業下での問題演習や作業系講義を実施。 選抜した成績不良学生に対する演習型補習講義。通常の一斉発信型講義は一切せず、課題の添削や個別学習指導でフォローアップする。	
2 作成した教科書、教材、参考書 化学系薬学実習 実習書2018 化学講義プリント 2018 化学講義プリント 2019 化学講義プリント 2020 化学講義プリント 2021 化学講義ノート	2018年4月1日 2018年4月1日 2019年4月1日 2020年4月1日 2021年4月1日 2022年4月1日	2年次化学系実習の実習書で、研究課題などを含む。 1年次前期講義のプリント型教材である。 1年次前期講義のプリント型教材である。 1年次前期講義のプリント型教材である。 1年次前期講義のプリント型教材である。 1年次前期講義の冊子体となり、書き込み型の部分と演習問題を含んだ教科書に匹敵するサブノート。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 次世代シンポジウム運営委員会	2017年～現在	次世代を担う有機化学シンポジウムで開催される教員会議で、化学系薬学部会の本教員会議につながる若手教員の意見をまとめる会議に出席している。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Decarboxylative aldol reaction of $\alpha, \alpha$ -difluoro- $\beta$ -ketocarboxylate salt: a facile method for generation of difluoroenolate	共著	2018年5月	RSC Adv., Vol 8, 20568-20575.
Stereoselective Synthesis of Multisubstituted $\alpha$ -fluoro- $\beta$ -lactams	共著	2020年1月	Curr. Org. Chem., Vol 24, Issue 18, 2169-2180.
Copper-Catalyzed Oxidative Trifluoromethylation of Terminal Alkenes Using AgCF <sub>3</sub>	共著	2020年3月	J. Org. Chem., Vol 85, Issue 7, 5104-5108.
One-Pot Ring-Opening Peptide Synthesis Using $\alpha, \alpha$ -Difluoro- $\beta$ -Lactams	共著	2020年8月	Synthesis, Vol 52, Issue 23, 3657-3666.
Synthesis of 2,2-difluoro-2-arylethylamines as fluorinated analogs of octopamine and noradrenaline	共著	2022年3月	Heterocyclic Communications, Vol 28, Issue 1, 26-34.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Krapcho脱炭酸を鍵とした連続反応による含フッ素キノリン合成法の開発		2022年10月	日本薬学会関西支部大会
プロテアーゼ阻害剤シード化合物となるフッ素化ジペプチドの酵素的速度論的分割とその活性		2022年10月	日本薬学会関西支部大会
細菌多剤排出輸送体MATE阻害化合物の探索合成と活性評価 （優秀発表賞受賞）		2022年10月	日本薬学会関西支部大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2017年8月～現在に至る	日本薬学会化学系薬学部会 次世代を担う有機化学シンポジウム世話人		
2021年9月	第10回フッ素化学若手の会 実行委員		
～現在	アメリカ化学会会員		
～現在	日本薬学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 薬学教育センター (統合薬学)	職名 講師	氏名 中谷 尊史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2020年4月～	コロナ禍にともなう遠隔授業に際し、担当科目の内容を見直し、基礎的な内容を充実させるようにした。
2 作成した教科書、教材、参考書		2020年3月30日	教科書『アップデート薬学機器分析学（廣川書店）』を執筆した（共著）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			可能な限り、学内のFDに参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
なし			
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) サドオケラの成分研究—定量NMR(qNMR)法によるアトラクチロンの定量—		2022年9月	日本生薬学会
(演題名) サドオケラの成分研究(2)—HPLC法によるアトラクチロンの定量—		2022年9月	日本生薬学会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
なし			

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 医療薬学	職名 講師	氏名 三田村 しのが
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ICTツール、反転授業を活用した授業	2020.9～現在	実習導入講義においてTeamsを利用したオンデマンド講義を実施した。同ツールを活用し、質問対応、資料提供、動画配信、Formsによる確認テストを実施し、学生の習熟度の向上に寄与した。また、学生に事前学習させることにより、実習における技術や理解度を向上させた。	
2 作成した教科書、教材、参考書 プレファーマシー実習書	2012.4～現在 (毎年更新)	学生が将来薬剤師になったときに必要な知識・技能・態度を身につけるため、また5年次に実務実習を受けるに当たり必要な準備を行うため、SBOsを附記し、必要な事項を網羅したものとなっている。ただ、医療も日新月异歩進んでいるので、適宜、毎年更新を行っている。	
調剤実技に関する動画教材の作成	2020.9～現在	調剤技術のうち、水剤の計量調剤、軟膏剤の計量混合調剤について、学生の技術向上を目的として、動画教材を作成した。調剤の手順や流れだけでなく、学生が苦手とする手技について、ポイントやコツなどのアドバイスを取り入れるなどの工夫を行った。このような教材はこれまでにはなく、実習前後における自己学習に活用され、学生の能力向上に役立った。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
第1回薬学部FDフォーラム	2018.4	5年生対象の「長期実務実習」と、6年生対象の「薬剤師国家試験対策」などがテーマとして取り上げられた。	
第2回薬学部FDフォーラム	2018.9	4年生対象の「新演習プログラム」、5年生対象の「長期実務実習」と、6年生対象の「薬剤師国家試験対策」などがテーマとして取り上げられた。	
第1回薬学部FDフォーラム	2019.4	5年生対象の「長期実務実習」と、6年生対象の「薬剤師国家試験対策」などがテーマとして取り上げられた。	
臨床実務実習における学生指導	2019.4～現在	臨床系実務家教員として実務実習を行う学生の指導に尽力した。2019年度より、研修している福田総合病院において受け入れた実習学生の直接指導に携わり、薬剤師としての心構えやコミュニケーション、服薬指導、医薬品情報の収集、評価等について実践的な現場指導を行っている。	
第1回薬学部FDフォーラム	2020.4	5年生対象の「長期実務実習」と、6年生対象の「薬剤師国家試験対策」などがテーマとして取り上げられた。	
全学FDフォーラム	2021.3	ICTツールを活用した教育や授業事例がテーマとして取り上げられた。	
第1回薬学部FDフォーラム	2021.4	5年生対象の「長期実務実習」と、6年生対象の「薬剤師国家試験対策」などがテーマとして取り上げられた。	
大学改革のための学長ワークショップ	2021.6.4	主体的・自律的学修のために必要な能力と入学前・初年次教育をテーマに、看護学部、薬学部	

		教員とSGDを行い、入学前教育と初年次教育プログラムの内容・実施のアクションプランを考案した。	
第1回薬学部FDフォーラム	2022.4	「前期授業」、「入試」、6年生対象の「薬剤師国家試験対策」などがテーマとして取り上げられた。	
第2回薬学部FDフォーラム	2022.9	4年生対象の「薬学共用試験対策」、5年生対象の「長期実務実習」と、6年生対象の「薬剤師国家試験対策」などがテーマとして取り上げられた。	
<b>II 研究活動</b>			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
アジスロマイシン細粒の先発品および後発品の服用性に関する評価	共著	2020年12月	日本小児臨床薬理学会雑誌 33(1)62-66
薬学実務実習における薬局・病院合同処方解析教育プログラムの導入とその評価	共著	2020年12月	薬学教育、4(2020-033)
Zoom®を活用した薬学実務実習における病院・薬局・大学合同オンライン症例解析報告会の実施とその評価	共著	2021年2月	薬学教育、5(2020-064)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
<b>III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）</b>			
2012年4月～現在	日本薬学会会員		
2012年4月～現在	日本医療薬学会会員		
2019年5月	河内長野市南花台地区における健康講座の開催		
2021年12月～現在	日本薬学会関西支部主催「在宅医療推進教育プログラム」WGメンバー		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 薬理学	職名 講師	氏名 山口 太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2020年度以降 2021, 2019年度 2019年度	講義動画や講義収録を実施し、学生へ公開する。 授業アンケート結果において薬学部内で受賞。 教員活動評価において薬学部内で受賞。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項	直近2022年9月8日 2020年8月7日など 2022年9月9日など	4月、9月の薬学部FD・SDフォーラムに参加 薬学部FDワークショップに参加 学長ワークショップに参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Stress decreases contraction of the colon, and the effects of stress are different among the regions of the colon.	共著	2022年8月1日	J Vet Med Sci.
(論文) Gastrointestinal motility modulation by stress is associated with reduced smooth muscle contraction through specific transient receptor potential channel.	共著	2021年4月9日	J Vet Med Sci. 83(4):622-629.
(論文) Extract Improves Memory Performance via Promotion of Neurogenesis in the Hippocampal Dentate Gyrus of Adolescent Mice.	共著	2020年5月9日	Int J Mol Sci. 21(9):3365.
(論文) Ameliorates Cognitive Deficits Caused in a Trimethyltin-Induced Neurotoxicity Model Mice.	共著	2019年4月26日	Biol Pharm Bull. 42(8):1384-1393.
(論文) Hearing vulnerability after noise exposure in a mouse model of reactive oxygen species overproduction.	共著	2018年7月23日	J Neurochem. 146(4), 459-473
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
音響性聴覚障害の治療標的としての蝸牛マクロファージの可能性		2022年10月	第32回日本耳科学会総会・学術講演会
蝸牛内マクロファージは内毛細胞シナプス数を減少させることにより感音難聴発症に関与する		2022年12月	第96回日本薬理学会年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2009年11月～現在	日本薬学会会員		
2009年11月～現在	日本薬理学会会員		
2018年4月～現在	日本薬理学会 学術評議員		
2018年4月～現在	日本薬学会薬理系部門 若手世話人		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 病態医科学	職名 講師	氏名 吉田 侑矢
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫			
講義、演習および実習での工夫		2018年度～現在	社会ニーズに対して、修得した知識や技能がどのように活用できるか具体的に示し、主体的な学びが増すように努めた。
学生の授業評価に基づく改善		2018年度～現在	授業アンケートから学生のニーズを汲み取り、授業改善に努めた。
2 作成した教科書、教材、参考書			
実習書の作成/改訂		2018年度～現在	担当科目（講義、演習および実習）の資料および実習書を作成/改訂した。
臨床薬学テキストシリーズ [薬理・病態・薬物治療] 神経・筋・精神/麻酔・鎮痛		2019年8月	多発性硬化症の部分を担当執筆した。（中山書店）
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
FD研修会、FDワークショップへの参加		2018年度～現在	大学、学部開催のFD研修会、FDワークショップに参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
(論文) Therapeutic Strategy for Rheumatoid Arthritis by Induction of Myeloid-Derived Suppressor Cells with High Suppressive Potential	共著	2022年8月	Biol. Pharm. Bull., Vol. 45 No. 8
(論文) Renin-angiotensin system inhibitors combined with cisplatin exacerbate cisplatin-induced nephrotoxicity in mice	共著	2022年4月	Transl. Oncol., Vol. 18
(論文) Sivelestat's effect on Candida albicans water-soluble fraction-induced vasculitis	共著	2022年1月	Pediatr. Int., Vol. 64 No. 1
(論文) Preventive effect of edaravone ointment on cyclophosphamide-chemotherapy induced alopecia	共著	2021年10月	Support. Care Cancer, Vol. 29
(論文) Characterization of an Expanded IL-10-Producing-Suppressive T Cell Population Associated with Immune Tolerance	共著	2021年4月	Biol. Pharm. Bull., Vol. 44 No. 4
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
(演題名) 関節リウマチ治療での生物学的製剤の早期効果判定に有用な因子に関する研究		2022年10月	第72回 日本薬学会関西支部総会・大会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2008年9月～現在	日本薬学会会員		
2008年11月～現在	日本免疫学会会員		
2013年11月～現在	日本神経免疫学会会員		

2015年4月～2022年3月	独立行政法人国立病院機構 京都医療センター附属京都看護助産学校 非常勤講師 (生化学)
-----------------	--

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 病理学	職名 特任助教	氏名 稲永 美乃里
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 なし			
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Pathological investigation and viral antigen distribution of emerging African swine fever in Vietnam	共著	2020年9月	Transboundary and Emerging Diseases
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
2型糖尿病モデルdb/dbマウスにおける長期的な高血糖状態は角膜感 覚神経線維の減少をもたらす		2022年9月	先端モデル動物支援プラッ トフォーム若手支援技術講 習会2022
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2021年9月～現在	日本獣医病理学専門家協会		
2021年9月～現在	日本獣医学会		
2022年1月～現在	日本毒性病理学会		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 薬学教育センター (薬学教育学)	職名 特任助教	氏名 上田 昌宏
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫			
DI演習へのTBLとジグソー法の導入	2019年4月～ 2020年3月	TBLとジグソー法を4年次の医薬品情報を活用する演習に導入した。TBLにより医学論文の批判的吟味するスキルを身に着けた上で、課題の薬効群の医薬品情報を徹底的に収集した。別の薬効群においても同様の学習を行い、それぞれの薬剤担当でグループを組みなおし、薬剤フォーミュラリーを策定した。	
早期体験学習の早期臨床体験施設との連携強化と振り返りの実施	2019年4月～現在に至る	1年生が、初めて薬剤師業務を見聞・体験する早期臨床体験において、施設が質の高い実習を提供できるように早期臨床体験を実施する意義や体験の重要性を共有している。さらに、実施後に実施内容や所感を聞き取り、次年度によりよい実習ができるように振り返りを行っている。体験型の実習を積極的に行い、学生の学習への動機向上に寄与している。	
クリニカルパス演習の学習方略の構築	2020年4月～現在に至る	4年次に病院内でのクリニカルパスを策定する演習の学習方略を構築した。学生が提案するクリニカルパスは医療現場をイメージできていない場合が多いため、薬剤師だけでなく医師を含めた臨床系教員が実臨床の経験を踏まえてフィードバックを行った。また、最終プロダクトをグループ間共有することで、疾患別にクリニカルパスが違う場合があることを学習できるようにデザインし、実施した。	
オンライン教育の実施に向けた環境整備と学習方略の構築	2020年4月～現在に至る	2020年度のオンライン教育に対応するために、教員が従来の授業ができるようオンライン配信用に教室をスタジオ化した。また、SGDを行うためにオンライン配信用の教室を整備するとともに、学生が通学しなくてもSGDができるオンラインに適した学習方略を構築した。この取り組みにより教育を止めることなく授業や演習を実施できた。	
EBM勉強会のオンライン化	2021年4月～現在に至る	COVID-19の影響で激減した勉強会を補うために、全国の薬剤師が受講できるようにオンラインでの実施した。最新の医療情報を薬剤師が活用できるように、医学論文を批判的に吟味し論文内容の重要な点を解説した。薬剤師の自己研鑽の場を提供した。	
薬学教育学研究室内の新規チームの立ち上げ	2022年4月～現在に至る	DI演習の方略を応用したセミナーを行い、学生が医学論文を批判的に読み患者に適用するスキルの獲得を目指す。質の高い情報提供を行い医療に貢献できる薬剤師養成につながるのと同時に、将来的にはDI演習のチューターを担うことで、教育力の醸成にも寄与している。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
フィジカルアセスメント実習の実習書	2019年4月～現在	フィジカルアセスメント実習に使用する実習書を作成した	
フィジカルアセスメント実習のビデオ教材	2020年4月～現在	フィジカルアセスメント実習に使用するビデオ教材を作成した	
早期体験学習のビデオ教材	2020年4月～現在	早期体験学習に使用するビデオ教材（病院薬剤師の活動）を作成した	

上手に使いたい薬学ナレッジ101	2021年12月	「上手に使いたい薬学ナレッジ101」を分担執筆した	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
シンポジウム「「臨床準備教育の方略を考える ～近畿地区統一評価基準の活用を踏まえて～」にて、「チーム基盤型学習によるEBM演習」を講演	2020年9月	第5回日本薬学教育学会大会のシンポジウムにて講演	
シンポジウム「しくじりから学ぶオンライン教育～先人たちの知恵袋～」にて、「しくじり先生から学ぶ教育のパラダイムシフト」を講演	2021年8月	第6回日本薬学教育学会大会のシンポジウムにて講演	
シンポジウム「基礎薬学の臨床活用に向けた発信と教育」にて「基礎薬学とエビデンスの統合型教育～知識の獲得で終わらない、臨床応用が可能な教育手法を考える～」を講演	2022年8月	日本アカデミック・ディテリング研究会第1回学術大会シンポジウムにて講演	
シンポジウム「3stepで学ぶ臨床薬理学～エビデンスを創り・理解し・活用する～」にて「薬物療法の最適化を目指したエビデンスの活用」を講演	2022年9月	第32回日本医療薬学会年会シンポジウムにて講演	
4 その他教育活動上特記すべき事項			
泉大津薬剤師会令和元年8月例会にて「医学文献との関わり方」を講演	2019年8月	泉大津薬剤師会の研修会にて、薬剤師を対象に講演を行った	
2019年度FDワークショップのファシリテーター	2020年3月	調査型研究をデザインするワークショップのファシリテータを担った。	
阿倍野区薬剤師会研修会にて「処方支援を目指した医療情報の解釈、使い方」を講演	2020年7月	阿倍野区薬剤師会研修会にて、薬剤師を対象に講演を行った	
関西医科大学附属病院薬剤部でのEBM講義	2020年11月～不定期	関西医科大学附属病院薬剤部薬剤師を対象に講演を行った	
DPの資質（8）に関するルーブリック作成	2021年8月	DPの資質を測定するために必要なルーブリックを作成した。	
第5回臨床薬理学集中講座の臨床研究立案演習のファシリテーター	2021年9月	第5回臨床薬理学集中講座の臨床研究立案演習のグループワークのファシリテーターを務めた	
第5回アカデミック・ディテラー養成プログラムby Zoom A: 基礎薬学の臨床活用のファシリテーター	2022年4月	第5回アカデミック・ディテラー養成プログラムにて、基礎薬学の臨床活用に関するワークショップのファシリテーターを務めた	
第6回臨床薬理学集中講座の臨床研究立案演習のファシリテーター	2022年8月	第6回臨床薬理学集中講座の臨床研究立案演習のグループワークのファシリテーターを務めた	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
1日1論文、30日で、薬剤師としてレベルアップ！ 医学論文の活かし方	共著	2020年10月	金芳堂
チーム基盤型学習と実習を組み合わせた臨床事前学習の試みとその評価	共著	2022年5月	薬学教育6巻
Evidence-based medical education using team-based learning for mixed-grade pharmacy students	共著	2022年5月	Japanese Journal of Pharmaceutical Education
Effect of prior knowledge and peer evaluation ratings on final exam performance in a team-based learning chemistry course	共著	2022年8月	Curr Pharm Teach Learn. , vol14, no8

在宅医療における薬剤師の現状に関する兵庫県全域調査と心理的負担の要因となる因子の探索	共著	2022年10月	薬学雑誌142巻10号
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Clinical application education for integration of drug information and basic pharmacology		2022年9月	第32回日本医療薬学会年会
システムティックレビューを用いたコロナ禍におけるオンライン教育実践の検証		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2014年～現在	NPO法人CASP JAPANのEBMワークショップのチューターとして23回参加		
2015年～現在	薬学教育者のためのワークショップ、タスクフォースとして16回参加		
2021年8月	日本薬学会第11回全国学生ワークショップ（オペレーター）		
2022年1月～現在	日本アカデミックディテリング研究会基礎薬学部会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 薬物送達学	職名 特任助教	氏名 鶴川 真実
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) なし			
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 京都大学E-FORUMへの参加	2020年9月～	京都大学が主催するオンライン授業の研究会であるE. FORUMに入会し、セミナー等に参加し、情報収集を行った。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Mechanism on antigen delivery under mucosal vaccination using cell-penetrating peptides immobilized at multiple points on polymeric platforms	共著	2022年2月	Elsevier、International Journal of Pharmaceutics. Vol.613
(論文) Biodegradable Hyaluronic Acid Modified with Tetraglycine-l-octaarginine as a Safe Adjuvant for Mucosal Vaccination	共著	2019年3月	ACS publications, Molecular Pharmaceutics Vol. 16, No. 3
(論文) Cross-Protective Abilities of Hyaluronic Acid Modified with Tetraglycine-l-octaarginine as a Mucosal Adjuvant against Infection with Heterologous Influenza Viruses	共著	2019年12月	ACS publications, Bioconjugate Chem. Vol. 30, No. 12
(論文) Biocompatible Polymers Modified with d-Octaarginine as an Absorption Enhancer for Nasal Peptide Delivery	共著	2018年3月	ACS publications, Bioconjugate Chem. Vol. 29, No. 5
(論文) Effects of the Chemical Structures of Oligoarginines Conjugated to Biocompatible Polymers as a Mucosal Adjuvant on Antibody Induction in Nasal Cavities	共著	2018年4月	日本薬学会、Chemical and Pharmaceutical Bulletin, Vol. 66, No. 4
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 高分子医薬の細胞内デリバリーに及ぼすオリゴアルギニン固定化高分子と同医薬の物理化学的相互作用の影響		2022年5月	日本薬剤学会第37年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2019年5月～現在	北海道大学関西同窓会役員		
2010年4月～現在	日本薬学会会員		
2015年4月～現在	日本薬剤学会会員		
2016年5月～現在	日本DDS学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 公衆衛生学	職名 特任助教	氏名 荻野 泰史
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018~2022年 2020年	生物・衛生系薬学実習 衛生医療薬学演習 実践薬学Ⅱ	
2 作成した教科書、教材、参考書		生物・衛生系薬学実習実習書(環境衛生学実験)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項		学部および全学主催のFDフォーラムに参加している。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Naturally Oxidized Olive Oil Promotes Active Cutaneous Anaphylaxis and Th2 Cytokine Production	共著	2021年6月	Biol Pharm Bull., 44(6), 838-843.
(論文) Seleno-L-Methionine Suppresses Immunoglobulin E-Mediated Allergic Response in RBL-2H3 Cells.	共著	2019年7月	Biol Pharm Bull., 42(7), 1179-1184.
(論文) Naturally oxidized olive oil exacerbates contact hypersensitivity by promoting differentiation into effector T cells and increasing antigen-specific IFN- $\gamma$ production	共著	2018年11月	Food Agric. Immunol., 30(1), 74-86.
(論文) IL-18 and IFN-gamma expression enhances contact hypersensitivity after oral administration of naturally oxidized olive oil to mice	共著	2018年10月	Food Agric. Immunol. 29(1), 886-897.
(論文) Effects of supplementary seleno-L-methionine on atopic dermatitis-like skin lesions in mice.	共著	2018年9月	Biol. Pharm. Bull., 41(9) 1456-1462.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) Relationship between induction of insulin resistance and selenoprotein expression in skeletal muscle in diabetic mouse model		2022年7月	第49回日本毒性学会学術年会
(演題名) 老化に伴う耐糖能および運動機能低下と骨格筋中セレンタンパク質発現との関連性		2022年8月	フォーラム2022衛生薬学・環境トキシコロジー
(演題名) 老化促進マウスモデルの組織中セレンタンパク質発現-酸化ストレスとの関連性-		2022年10月	日本薬学会関西支部総会・大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2010年1月~現在	日本薬学会会員		
2011年6月~現在	日本免疫毒性学会会員		
2013年3月~現在	日本酸化ストレス学会会員		
2022年4月~現在	日本毒性学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 化学系薬学分野 (薬化学)	職名 特任助教	氏名 軽尾 友紀子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 ・講義の工夫		2020年～現在	演習科目において、反転授業やスモールグループディスカッション (SGD) 等のアクティブラーニングを積極的に取り入れた。
2 作成した教科書、教材、参考書 ・基盤演習 I 演習・試験問題作成		2020年～現在	当該科目の演習を担当し、演習問題を作成した。また、試験問題の一部を作成した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・FD研修会への参加		2018年～現在	全学及び学部開催のFDフォーラムに参加している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Construction of Quaternary Carbon Center by the Reaction of Aza- <i>o</i> -Quinone Methide Mediated Carbocation Intermediate	共著	2019年9月	<i>Heterocycles</i> , <b>2020</b> , <i>101</i> , 363-372.
Synthesis of Small Fluorescent Molecules and Evaluation of Photophysical Properties	共著	2019年12月	<i>J. Org. Chem.</i> , <b>2019</b> , <i>85</i> , 1253-1258.
Copper-Catalyzed Oxidative Trifluoromethylation of Terminal Alkenes Using AgCF <sub>3</sub>	共著	2020年3月	<i>J. Org. Chem.</i> , <b>2020</b> , <i>85</i> , 5104-5108.
Synthesis of aryl 2-bromo-2-chloro-1,1-difluoroethyl ethers through the base-mediated reaction between phenols and haloethane	共著	2021年1月	<i>Beilstein J. Org. Chem.</i> , <b>2021</b> , <i>17</i> , 89-96.
Identification and Synthesis of DDI-6, a Quinolinol Analog Capable of Activating Both <i>Caenorhabditis elegans</i> and Mouse Spermatozoa	共著	2021年6月	<i>Chem. Pharm. Bull.</i> , <b>2021</b> , <i>69</i> , 557-563.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動 (直近5年間に携わったもの数件)			
2012年～現在	日本薬学会会員		
2018年～現在	有機合成化学協会会員		
2018年～現在	NISTEP専門調査員		
2019年～現在	日本フッ素化学学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 複合薬物解学	職名 特任助教	氏名 喜多 絢海
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	2020年～現在	生薬学実習導入講義でPower pointを活用し実習内容への理解が深まるように工夫している。	
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（論文）Methyl Donor Supplementation Prevents a Folate Deficiency-induced Depression-like State and Neuronal Immaturity of the Dentate Gyrus in Mice	共著	2022年5月	Neuroscience
（論文）Low folate induces abnormal neuronal maturation and DNA hypomethylation of neuronal differentiation-related genes in cultured mouse neural stem and progenitor cells	共著	2021年9月	Heliyon
（論文）Ferulic acid alleviates abnormal behaviors in isolation-reared mice via 5-HT1A receptor partial agonist activity	共著	2021年8月	Psychopharmacology (Berl)
（論文）Kihito prevents corticosterone-induced brain dysfunctions in mice	共著	2021年5月	J Tradit Complement Med
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）クルコルチコイドが脳内の乳酸トランスホーダーMCT1へ及ぼす影響の解析		2023年3月	日本薬学会第143年会
（演題名）コルチコステロンによる脳内pHおよびアストロサイトの細胞外pHへの影響の解析		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2014年～現在	日本ケミカルバイオロジー学会会員		
2016年～現在	日本薬学会会員		
2020年～現在	日本分子生物学会会員		
2022年～現在	日本薬理学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 機能形態学	職名 特任助教	氏名 金城 俊彦
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		実習において、学生の理解力を深めるため、実施前までに動画を視聴させ、小テストで理解力を確かめ、実習で成果が出るよう考えた。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項	2022年9月8日 2022年8月9日	薬学部FD・SDフォーラム 摂南大学FD・SD研修会 上記5年間毎回参加	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Delayed Expression of Both GABABR1 and GABABR2 Subunits in Murine Hippocampal Dentate Gyrus After a Single Systemic Injection of Trimethyltin	共著	2022年9月	Neurochem Res. vol.47 No.9
(論文) Apelin/Apelin Receptor System: Molecular Characteristics, Physiological Roles, and Prospects as a Target for Disease Prevention and Pharmacotherapy	共著	2021年5月	Curr Mol Pharmacol. vol.14 No.2
(論文) Regulatory effects associated with changes in intracellular potassium level in susceptibility to mitochondrial depolarization and excitotoxicity	共著	2020年2月	Neurochem Int. Epub
(論文) Alleviation by GABAB Receptors of Neurotoxicity Mediated by Mitochondrial Permeability Transition Pore in Cultured Murine Cortical Neurons Exposed to N-Methyl-D-aspartate	共著	2018年1月	Neurochem Res. vol.43 No.1
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
L-theanine感受性細胞におけるグルタミントランスポーターの発現に関する研究		2022年10月	第72回日本薬学会近畿支部大会・総会
Suppression of mitochondrial depolarization of neurons by KCC2 inhibitor VU0463271		2022年11月	Japan Basic and Clinical Pharmacology Week 2002
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2015年8月～現在	日本薬学会会員		
2015年10月～現在	日本薬理学会会員		
2016年4月～現在	Asian-Pacific Society for Neurochemistry 会員		
2017年4月～現在	International Society for Neurochemistry 会員		

教育および研究活動の業績一覧

大学名 摂南大学	講座名 薬学教育センター (薬学教育学)	職名 特任助教	氏名 串畑 太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 SGD演習（1年次「早期体験学習」）への公募による上級生チューター制度の導入	2015年4月 ～現在	上級生チューター用のチューターマニュアルを作成し、事前の説明会・レクチャーを実施することで上級生チューターによるSGD演習の円滑な運用を行った。1年生は入学直後に初めてのSGDであったが、上級生チューターによって自由に発言できる環境が生まれ、活発な討議が行われた。また、チューターは下級生を指導する立場に立つことで、上級生としての自覚や責任感の芽生えも見られた。	
避難所運営ゲーム（HUG）を用いた防災教育の実施	2015年12月 ～現在	防災教育の一環として、2年次「キャリア形成Ⅰ」へ静岡県が開発した災害時の避難所運営をシミュレートする図上訓練である避難所運営ゲーム（HUG）を実施した。また、グループワークでの各グループのファシリテータは、3年次キャリア形成Ⅱ「災害救助訓練支援」を選択した学生に担当させた。学生ファシリテータには事前にHUGを体験する共に、ファシリテータの練習時間を設け指導した。	
実験実習用ルーブリックの導入	2016年9月 ～現在	実験実習におけるパフォーマンス（技能・態度）を測定するためのルーブリックを作成し、1～3年次の実験実習への導入・運用を支援した。ルーブリックは教員が評価に用いる他、学生に自己評価を課し自身の成長と課題を認識する環境を提供した。	
教育能力用ルーブリックの導入	2017年9月 ～現在	教育能力の養成を目的とした、上位年次の学生が下位年次の学生の教育に関わるプログラム（SGDやGWのチューター、実験実習の支援（ピアサポート）等）において、教育能力を自己評価するためのルーブリックを作成し、各プログラムでの導入・運用を支援した。学生が自身の教育能力の成長と課題を認識する環境を提供した。	
臨床準備教育の観点を用いた学生間相互評価（ピア評価）の導入	2019年10月 ～現在	4年次「プレファーマシー実習」で、薬剤師業務の一連の流れを実践するグループ学習のプログラムに、臨床準備教育における近畿地区統一評価基準（ルーブリック）の一部を用いたピア評価を導入した。学生の臨床能力（shows how）を教員のみならず学生相互に評価し、フィードバックすることで実務実習に臨む学習姿勢が養成された。	
反転授業の実施	2021年9月 ～現在	1年次後期「教育学」の教育におけるカリキュラム（目標・評価・方略）を立案・作成するオンラインGWに反転授業を導入した。授業時間内で導入説明の時間を短縮できたことにより、GWの時間を十分確保でき、学生の理解を深めることができた。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 シンポジウムのオーガナイザー	2019年8月24日  2020年9月13日	第4回日本薬学教育学会大会 シンポジウム 4 「アンケートやインタビュー取っただけに終わってませんか？-データのより深い解析を目指して-」 第5回日本薬学教育学会大会 シンポジウム 9 「臨床準備教育の方略を考える ～近畿地区統一評価基準の活用を踏まえて～」	
4 その他教育活動上特記すべき事項			

薬学教育協議会「認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ」タスクフォース	2018年7月4-5日 2018年10月7-8日 2018年12月15-16日 2019年2月10-11日 2019年8月31日-9月1日 2019年11月3-4日 2020年3月20-21日 2021年8月28-29日 2021年11月13-14日 2018年10月28日 2021年08月30-31日 2018年1月21日 2018年8月19日 2019年3月17日	以下のWSにタスクフォースとして参加した 第92回WS（開催：立命館大学） 第94回WS（開催：大阪薬科大学） 臨時WS（開催：摂南大学） 第95回WS（開催：大阪大谷大学） 第98回WS（開催：京都薬科大学） 第100回WS（開催：神戸薬科大学） 第107回WS（開催：摂南大学） 第108回WS（開催：摂南大学） 第110回WS（開催：神戸薬科大学） 第113回WS（開催：立命館大学） 平成30年度第2回アドバンストワークショップでタスクフォースを担当した。 第11回全国学生ワークショップ（オンライン開催）でZoomオペレータを担当した。 大規模災害時における薬局薬剤師による避難所支援を想定した図上研修プログラム（Disaster Training program for Pharmacist : DT-Ph）を、学外団体の研修等に提供・実施した。 中京区薬剤師会 堺市薬剤師会 堺市学校薬剤師会
大阪府薬剤師会「認定実務実習指導薬剤師アドバンストワークショップ」タスクフォース		
日本薬学会主催の「全国学生ワークショップ」オペレーター		
薬局薬剤師による避難所支援を想定した図上研修プログラム（DT-Ph）の実施		

II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Factors affecting the learning outcomes of early clinical exposure -An effective experience in hospital settings-	共著	2021年4月	薬学教育. 5巻
4年間の実践を経た学生を対象としたピア評価に関する意識調査	共著	2021年5月	薬学教育. 5巻
オンライン授業に対する学習領域ごとの学生の認識調査 —薬学部1～4年生によるオンライン授業への評価—	共著	2022年3月	薬学教育. 6巻
Effect of prior knowledge and peer evaluation ratings on final exam performance in a team-based learning chemistry course	共著	2022年8月	Curr Pharm Teach Learn. ,14 (8)
在宅医療における薬剤師の現状に関する兵庫県全域調査と心理的負担の要因となる因子の探索	共著	2022年10月	YAKUGAKU ZASSHI. ,142 (10)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
初年次に実施した対面SGDとオンラインSGDの教育効果の比較		2022年10月	第72回日本薬学会 関西支部総会・大会
オンライングループディスカッションでの学生の振る舞いがグループに与える影響		2022年10月	第72回日本薬学会 関西支部総会・大会
J-SPEEDを導入した避難所運営ゲームの試作		2022年10月	第72回日本薬学会 関西支部総会・大会
実務実習における個々の経験がもたらした気付き		2022年10月	第72回日本薬学会 関西支部総会・大会
オンライングループディスカッションのコミュニケーションに影響を与える因子と個々の活動性		2022年10月	第72回日本薬学会 関西支部総会・大会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2012年4月～現在	日本薬学会 会員		
2013年4月～現在	日本医学教育学会 会員		

2014年4月～現在	日本薬局学会 会員
2015年4月～現在	日本災害医学会 会員
2016年4月～現在	日本薬学教育学会 会員
2014年11月～現在	近畿地区認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ タスクフォース

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 実践薬学分野	職名 特任助教	氏名 小西 麗子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 4年次（実務実習前）の演習・実習	2018年～現在	プレファーマシー実習を始めとする演習・実習を担当し、低学年時で学んだ知識を現場で活かすための考え方を学ぶ機会を多く設けている。	
2 作成した教科書、教材、参考書 プレファーマシー実習書	2018年～現在	学生実習に用いる実習書の改定	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 FD・SDフォーラム OSCE委員会 委員 実務実習委員会 委員	2018年～現在 2018年～現在 2018年～現在	学部開催のFD・SDフォーラムに参加 ステーション責任者としてOSCEの円滑な実施 実務実習の円滑な運営	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
出生前母体硫酸マグネシウム投与による新生児の未熟児動脈管開存症発症リスクの検討	共著	2020年12月	日本小児臨床薬理学会雑誌（33巻1号）
認知症者が安心して生活できる地域づくりのために薬局ができること	共著	2021年11月	日本地域薬局薬学会誌（9巻2号）
認知症カフェを継続的に運営するための課題とその提案 姫路市における209ヶ所の認知症カフェの調査から得た考察	共著	2022年1月	日本認知症ケア学会誌（20巻4号）
外来がん患者への継続的な面談による薬剤師の印象変化とその影響因子	共著	2022年2月	アプライド・セラピューティクス（17巻）
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
アンケート調査に基づく薬剤師の「望ましい死」に対する認識と、がん患者、がん専門医、がん専門看護師との違い		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2018年～現在	日本薬学会会員		
2018年～現在	日本医療薬学会会員		
2021年1月～現在	日本臨床腫瘍薬学会会員		
2022年4月～現在	日本緩和医療薬学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 生体分子分析学	職名 特任助教	氏名 谷口 将済
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年～現在	1年次生の成績下位学生30名程度を対象者として、特別講義を実施し、個別指導を行っている。授業評価アンケートにより、双方向性を担保し、授業の改善を図っている。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Binding of Cu <sup>2+</sup> to Aβ <sub>1-29</sub> causes aggregation and toxicity in SH-SY5Y cells.	共著	2021年1月	Biochemical and biophysical research communications
(論文) Depletion of Csk preferentially reduces the protein level of LynA in a Cbl-dependent manner in cancer cells.	共著	2020年6月	Scientific Reports
(論文) Development of a system for the detection of the inflammatory response induced by airborne fine particulate matter in rat tracheal epithelial cells.	共著	2020年7月	Toxicology Reports
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 転移能が異なる結腸がんHCT116由来細胞の遊走・浸潤性の比較		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2010年～現在	日本薬学会会員		
2011年～現在	日本微量元素学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 薬効薬理学	職名 特任助教	氏名 松田 将也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2018年4月-現在	実習におけるsmall group discussion (SGD)の導入	
2 作成した教科書、教材、参考書	2018年4月-現在	医療系薬学実習 (b) 実習テキスト作成	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Local IL-10 replacement therapy was effective for steroid-insensitive asthma in mice.	共著	2022年9月	International Immunopharmacology, 110, 109037.
(論文) Roles of type 1 regulatory T (Tr1) cells in allergen-specific immunotherapy.	共著	2022年8月	Frontiers in Allergy, 9, 981126.
(論文) Pathogenic changes in group 2 innate lymphoid cells (ILC2s) in a steroid-insensitive asthma model of mice.	共著	2022年2月5日	European Journal of Pharmacology, 916, 174732.
(論文) Sublingual immunotherapy for 4 years increased the number of Foxp3+ Treg cells, which correlated with clinical effects	共著	2021年5月	Inflammation Research, 70(5), 581-589.
(論文) Adoptive transfer of type 1 regulatory T cells suppressed the development of airway hyperresponsiveness in ovalbumin-induced airway inflammation model mice	共著	2019年12月	Journal of Pharmacological Sciences, 141(4), 139-145.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
気管支喘息の気道リモデリングに対するcyclin dependent kinase (CDK) 8/19阻害薬の効果.		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
重症喘息の線維化におけるchemokine receptor type 5 (CCR5)の役割		2022年8月	次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム2022
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2022年10月8日	第72回日本薬学会関西支部総会・大会の運営		
2021年4月~現在	公益社団法人日本薬学会 ファルマシアトピックス小委員		
2021年2月17日・18日	第40回日本眼薬理学会の運営		
2018年8月~現在	公益社団法人日本薬学会 薬理系薬学部会 若手世話人		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 薬剤系薬学分野 (薬剤学)	職名 特任助教	氏名 南 景子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			実習で学生がミスしやすいところを把握し、次年度以降の実習書の内容や説明方法を工夫するようにしている。
2 作成した教科書、教材、参考書			実習書
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			学内のFDフォーラムには積極的に参加し意見交換している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(著書) 中分子創薬に向けたDDS開発の新展開	共著	2022年3月	シーエムシー出版
(論文) Analysis of the complicated nonlinear pharmacokinetics of orally administered telmisartan in rats using a stable isotope-IV method.	共著	2019年3月	J Pharm Sci. 108(8)
(論文) Challenge for oral delivery of middle-molecular drugs: Use of osmolarity-sensitive liposome as a drug carrier in the GI tract?	共著	2020年4月	J Drug Deliv Sci Technol. 56B
(論文) Species differences in the drug-drug interaction between atorvastatin and cyclosporine: In vivo study using a stable isotope-IV method in rats and dogs	共著	2020年6月	Eur J Pharm Sci. 152
(論文) Liposomal Formulation for Oral Delivery of Cyclosporine A: Usefulness as a Semisolid-Dispersion System	共著	2022年5月	Pharm Res. 39
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
シクロデキストリン含有製剤の処方設計に関するIVIVC評価		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部
難溶性薬物の経口リポソーム製剤の可能性: Semisolid-dispersion systemとしての機能性評価		2022年5月	日本薬剤学会第37年会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2015年4月～現在	日本薬剤学会会員		
2015年4月～現在	日本DDS学会会員		
2021年9月～現在	日本薬学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 薬物送達学	職名 特任助教	氏名 八木 晴也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 なし			
2 作成した教科書、教材、参考書 なし			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 なし			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
（論文）Performance of cell-penetrating peptides anchored to polysaccharide platforms applied via various mucosal routes as an absorption enhancer	共著	in press	Mol. Pharmaceutics.
（論文）Acquisition of absorption-enhancing abilities of cationic oligopeptides with short chain arginine residues through conjugation to hyaluronic acid	共著	2022年1月	Int. J. Pharm., 616 (2022) 121519.
（論文）Mechanism on antigen delivery under mucosal vaccination using cell-penetrating peptides immobilized at multiple points on polymeric platforms	共著	2021年12月	Int. J. Pharm., 613 (2022) 121376.
（論文）Nasal absorption enhancement of protein drugs independent to their chemical properties in the presence of hyaluronic acid modified with tetraglycine-L-octaarginine	共著	2020年7月	Eur. J. Pharm. Biopharm., 154 (2020) 186-194.
（論文）Biodegradable hyaluronic acid modified with tetraglycine-L-octaarginine as a safe adjuvant for mucosal vaccination	共著	2019年2月	Mol. Pharmaceutics., 16 (2019) 1105-1118.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
（演題名）ペプチド鎖を短縮したオリゴアルギニン固定化ヒアルロン酸による抗体医薬の経粘膜吸収促進		2022年5月	日本薬剤学会第37年会
III 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）			
2019年5月～現在	日本DDS学会会員		
2018年9月～現在	日本薬学会会員		
2018年3月～現在	日本薬剤学会会員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 生物系薬学分野	職名 特任助教	氏名 山澤 龍治
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2015年～現在	スライドと動画を利用し、身近な例をあげることで、講義内容が理解しやすい様に工夫した。	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		学部内のFD研修会には必ず参加し、講義内容、方略の見直し・改善を積極的に行っている。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) The Study of Diversity in Sporulation among Closely Genetically Related <i>Bacillus cereus</i> Strains	共著	2022年10月	Biocontrol Sci. 2022;27(3):143-151.
(論文) Identification of the active site and characterization of a novel sporulation-specific cysteine protease YabG from <i>Bacillus subtilis</i> .	共著	2022年3月	The Journal of Biochemistry 171(3) 315-324
(論文) Synthesis of Small Fluorescent Molecules and Evaluation of Photophysical Properties	共著	2020年10月	Journal of Organic Chemistry 85(2) 1253-1258
(論文) Structural Basis for Selective Binding of Export Cargoes by Exportin-5.	共著	2018年10月	Structure 26(10) 1393-1398
(論文) Development of a fluorogenic small substrate for dipeptidyl peptidase-4	共著	2017年12月	BEILSTEIN JOURNAL OF ORGANIC CHEMISTRY 13(13) 2690-2697
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
新規システインプロテアーゼ Sporopain (YabG) の触媒反応に重要なグルタミン酸残基の同定		2022年11月	第95回日本生化学会大会
好熱菌の芽胞形成期特異的プロテアーゼYabGの酵素学的諸性質の検討		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
～現在	日本薬学会会員		
～現在	日本生化学会会員		
2022年10月	第72回薬学会関西支部総会・大会 実行委員		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 疾病予防学	職名 特任助教	氏名 杠 智博
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2016年～現在	実習中の学生からの質問や生じた問題点等を基に導入講義及び事前説明の改善、並びに次年度の実習書の改訂をすることにより、学生が実習内容を理解しやすいように工夫している。
2 作成した教科書、教材、参考書		2016年～現在	実習テキスト『衛生系薬学実習 食品衛生学実験テキスト』を毎年度作成している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし。
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2016年～現在	学部及び大学主催のFD・SDフォーラム並びにFDワークショップに参加している。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Distribution, Metabolism, Excretion, and Lactational Transfer to Pups of Tetrabromobisphenol A and Its Metabolites in C57BL/6 Mice.	共著	2022年5月	BPB Reports, 5, 50-58.
(論文) Long-term orally exposure of dioxins affects antigen-specific antibody production in mice.	共著	2021年12月	Toxicol. Rep., 9, 53-57.
(論文) Structural Basis for PPAR $\alpha$ Activation by 1H-pyrazolo-[3,4-b]pyridine Derivatives.	共著	2020年5月	Sci. Rep., 10, 7623-7631.
(論文) Structural Development of 1H-pyrazolo-[3,4-b]pyridine-4-carboxylic Acid Derivatives as Human Peroxisome Proliferator-Activated Receptor Alpha (PPAR $\alpha$ )-selective Agonists.	共著	2019年8月	Bioorg. Med. Chem. Lett., 29, 2124-2128.
(論文) Discovery of peroxisome proliferator-activated receptor $\alpha$ (PPAR $\alpha$ ) activators with a ligand-screening system using a human PPAR $\alpha$ -expressing cell line.	共著	2018年5月	J. Biol. Chem., 293, 10333-10343.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
ヒト肝星細胞株LX-2の活性化に対するベンゾトリアゾール系紫外線吸収剤の影響の解明		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
PPAR $\alpha$ の活性化はベンゾトリアゾール系紫外線吸収剤のCYP1A誘導作用を増強する		2022年6月	環境化学物質3学会合同大会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2017年～現在		日本薬学会会員	
2017年～現在		日本環境化学会会員	
2019年8月～2021年6月		第29回環境化学討論会 実行委員	
2021年10月～2022年10月		第72回日本薬学会関西支部総会・大会 実施委員	

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 薬学教育センター	職名 助手	氏名 相澤 秀樹
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書 化学実験実習書	2018、2019年	摂南大学理工学部用の化学実験の実習書を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) ユーザーからの小角X線散乱装置遠隔操作テスト報告 — 新型コロナウイルスを想定した新しい生活様式の実践を目指して —	単著	2021年5月	Photon Factory Activity Report 2020 49
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Niemann-Pick C1-like 1のcDNAを導入したCaco-2細胞へのコレステロールの吸収におけるタウルコール酸混合ミセルの立体的な形と大きさの影響		2022年10月	日本薬学会近畿支部会
III 学会および社会における主な活動(直近5年間に携わったもの数件)			
2022年8月	International Journal of Food Properties査読者		
2018年から2022年	Journal of Solution Chemistry査読者		
2018年から2020年	Journal of Oleo Science査読者		
2018年から2020年	RSC Advances査読者		

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 摂南大学	講座名 薬物治療学	職名 助手	氏名 山室 晶子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 ・オンラインや対面によるアクティブラーニングの実施  ・実習における手技動画の配信による反転学習	2021年-現在  2022年6月-7月	キャリア形成II科目においてTeamsを用いたオンラインでのアクティブラーニングや、対面でのアクティブラーニングによる学習を図った  フィジカルアセスメント実習において手技動画を事前に配信し、反転学習を図った。	
2 作成した教科書、教材、参考書 ・フィジカルアセスメント実習書	2018年-現在	学生実習に用いる実習書を改訂した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ・該当なし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・FD研修会参加  ・OSCE委員会およびCBT委員会 委員	2018年-現在  2022年	1年間に約5回行われるFD研修会に参加し学習理論・授業設計・アクティブラーニングや大学におけるデジタルアーカイブの活用などについて学んだ。  OSCEおよびCBTの円滑な実施	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Dopamine attenuates lipopolysaccharide-induced expression of proinflammatory cytokines by inhibiting the nuclear translocation of NF- $\kappa$ B p65 through the formation of dopamine quinone in microglia.	共著	2020年1月	European journal of pharmacology, 866, 172826.
Endogenous apelin is protective against age-associated loss of retinal ganglion cells in mice.	共著	2020年3月	Front Aging Neurosci., 12, 58.
Systemic Administration of an Apelin Receptor Agonist Prevents NMDA-Induced Loss of Retinal Neuronal Cells in Mice.	共著	2020年4月	Neurochem Res., 45(4), 752-759.
Noradrenaline protects neurons against H2O2-induced death by increasing the supply of glutathione from astrocytes via $\beta$ 3-adrenoceptor stimulation.	共著	2020年9月	J Neurosci Res., 99(2), 621-637.
Dopamine inhibits the expression of proinflammatory cytokines of microglial cells through the formation of dopamine quinone in the mouse striatum.	共著	2022年1月	J Pharmacol Sci., 148(1), 41-50.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
化学的虚血による遅発性神経細胞死に対するノルアドレナリンによるアストロサイトを介した神経保護作用		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
ヒトアストロサイトーマ U-251 MG 細胞におけるアルブミンによる細胞内グルタチオン量の増加を介した細胞死抑制作用		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
培養アストロサイトへの変異 SOD1及び PRDX6遺伝子導入によるALS病態進行関連分子の発現への影響		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
網膜虚血再灌流による網膜神経障害に対するアペリン-APJ システムの保護作用		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会
活性化ミクログリアによる細胞障害性アストロサイト誘導機構		2022年10月	第72回日本薬学会関西支部総会・大会

Albumin suppresses hydrogen peroxide- and nimustine-induced cell death via increasing intracellular GSH levels in human astrocytoma U-251 MG cells.	2022年12月	第96回日本薬理学会年会・第43回日本臨床薬理学会学術総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動（直近5年間に携わったもの数件）		
～現在	日本薬学会会員	
～現在	日本薬理学会会員	
～現在	日本神経化学会 会員	

(基礎資料10) 学生の健康管理

表1. 評価対象年度の定期健康診断受診率

学年	在学者数	受診者数	受診率 (%)
1年	276	268	97.1
2年	209	203	97.1
3年	216	214	99.1
4年	206	198	96.1
5年	216	212	98.1
6年	232	225	97

表2. 評価対象年度の5年生の実務実習前の抗体検査の実施状況

検査対象抗体	抗体価が十分高かった 学生数	抗体価が不十分なためワ クチン接種をした学生数
風疹	128	72
麻疹	52	133
水痘	195	18
ムンプス	96	97
B型肝炎	3	139※

※接種3回を完了していない31名は含まず

[注] 1) 4年次12月末までに、ワクチン接種した学生数(確認できた人数)を記入してください。

確認できない場合は、左欄のみ記入してください。

(基礎資料11-1) 薬学科の教育に使用する施設の状況

施設 <sup>1)</sup>		座席数	室数	収容人員合計	備考
講義室・ 演習室 <sup>2)</sup>	大講義室	366～502	3	1,282	2室の大講義室とメディアクスホール間では、プロジェクトターの映像ならびに音声を取りアルタイムで中継できるようにシステムを構築。
	中講義室	135～252	23	4,087	
	小講義室	48～60	16	856	全て可動機
	情報処理演習室	130	2	260	CBTにも使用
	臨床演習室	12	10	120	OSCEにも使用
	メディアックスホール	302	1	302	
	化学系、医療系実習室	80～128	4	416	基礎、化学系、医療系実習で使用
	生物・衛生系、医療系実習室	80～120	3	320	基礎、生物・衛生系、医療系実習で使用
	臨床実習室	-	12	116	注射調剤実習室、無菌製剤実習室、病院薬局実習室、服薬指導実習室、保険薬局実習室、病棟実習室、医薬品情報実習室、模擬病室、調剤実習室等の総称
	自習室	18～200	9	663	談話室含む。自習室は他に図書館にもある。利用時間は8：00～22：00
自習室等 <sup>3)</sup>					

<p>薬用植物園</p>	<p>① 設置場所：薬学部キャンパス内          ② 施設の構成と規模：薬草園と温室、果樹・薬樹園から成り、総面積は約2,500㎡である          ③ 栽培している植物種の数：生薬基原植物を中心に約300種          ④ その他の特記事項：果樹・薬樹園は学生の通学路に設置されているため、学生は常時自由に見学できる</p>
--------------	---

- [注]
- 1) 総合大学では薬学部の教育で使用している講義室、演習室、実習室などを対象にしてください。
  - 2) 講義室・演習室には収容人数による適当な区分を、例示を参考に設けて、同じ区分での座席数の範囲を示してください。また、固定席か可変席か、その他特記すべき施設なども、例示を参考に記入してください。コンピューター演習室の座席数は学生が使用する端末数としてください（教卓にあるものを除く）。
  - 3) 学生が自習などの目的で自由に利用できる開放スペースがあれば記載してください。

(基礎資料11-2) 卒業研究などに使用する施設

表 1. 講座・研究室の施設

施設名 <sup>1),2)</sup>	面積 <sup>3)</sup>	収容人員 <sup>4)</sup>	室数 <sup>5)</sup>	備考
教員個室(教授室など)	18.2 m <sup>2</sup>	1人	53	個室は教授・准教授・講師のみ、助教以下は実験・研究室にデスクがある
実験室・研究室	57.4 m <sup>2</sup>	-	61	単独の研究室・分野が占有しているもの

- 1) 単独の講座・研究室などが占有する卒業研究で使用する学生用研究室は、(基礎資料11-1)と重複してかまいません。
- 2) 複数の講座・研究室が(隣接する2〜3講座で共用)占有する施設があれば、記載してください。
- 3) 実験室・研究室に広さが異なるものがある場合は、「大・小」、「大・中・小」のように大きめに区分してください。
- 4) 同じ区分の部屋で面積に若干の違いがある場合、面積には平均値を記入してください。
- 5) 1室当たりの収容人数を記入してください。同じ区分の部屋で若干の違いがある場合は平均値を記入してください。(ひとつの講座・研究室当たりの数ではありません。)

表 2. 学部で共用する実験施設

施設の区分 <sup>1),2)</sup>	室数	施設の内容
共同利用機器室	5	5室の共同利用機器室があり、それぞれ「超伝導核磁気共鳴装置 600MHz」、「超伝導核磁気共鳴装置 400MHz」、「高分解能タンデム型質量分析装置」、「自動細胞解析分取装置セルソーター」、「AiryScan型高速超解像蛍光イメージングシステム」、「粒子径・ゼータ電位・分子重量測定装置」、「ライフサイエンス分光光度計」、「細胞イメージャー・ナライザー」、「共焦点レーザー走査顕微鏡」、「ゲル・WesternBlotting 画像撮影解析システム」、「タンパク質精製システム」、「エレクトロポレーター-遺伝子導入システム」等の汎用機器を設置
低温室	1	常温以上の温度で変化しやすい生体成分や化学物質を用いる実験時利用
動物飼育室	13	一般飼育室(3室)、SPF飼育室(2室)、特殊動物飼育室(2室)、行動実験室(3室)、洗浄室(1室)、剖検室(1室)、処置室(1室)を設置
RI実験施設	5	無菌室(1室)、測定室(1室)、化学系トレーサー実験室(1室)、生物系トレーサー実験室(1室)、生物系実験室(1室)を設置

- 1) 例示のように、大まかな用途による区分を設け、各区分に含まれる室数と施設の内容を例示のように列記してください。(面積などは不要です。)
- 2) 例示以外の実験施設(例えば、培養室など)があれば追加してください。

(基礎資料12) 学生閲覧室等の規模

図書室(館)の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容 定員数(B) <sup>1)</sup>	収容定員に対する 座席数の割合(%) A/B*100	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況 <sup>2)</sup>	備考 <sup>3)</sup>
寝屋川本館	882	6,920	12.7				学部：6,800 大学院：120
枚方分館	281	3,108	9.0				学部：3,080 大学院：28
計	1,163	10,028					学部：9,880 大学院：148

1) 「学生収容定員数(B)」欄には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。

2) 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理端末をいくつ設置しているかを記載してください。

3) 「備考」欄には「学生収容定員(B)」の内訳を、学部・大学院ごとに記入してください。

4) 例示の中央図書館は、薬学部の利用がなければ(キャンパスが異なるなど)、右の欄を空欄にしてください。

(基礎資料13) 図書、資料の所蔵数および受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数 (点数) <sup>2)</sup>	電子ジャー ナルのタイ トル数 <sup>3)</sup>	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の全冊数	開架図書の 冊数(内) <sup>1)</sup>	国内書	外国書			2019年度	2020年度	2021年度	
徳屋川本館	449,171	270,071	2,080	1,896	9,992	45	4,219	2,370	4,448	
枚方分館	83,993	45,293	355	486	1,126	29	8,649	2,370	2,043	
計	533,164	315,364	2,435	2,382	11,118	74	12,868	4,740	6,491	

[注] 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。

- 1) 開架図書の冊数(内)は、図書の全冊数のうち何冊かを記入してください。
- 2) 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含め、所蔵数については、タイトル数を記載してください。
- 3) 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。